

Panasonic®

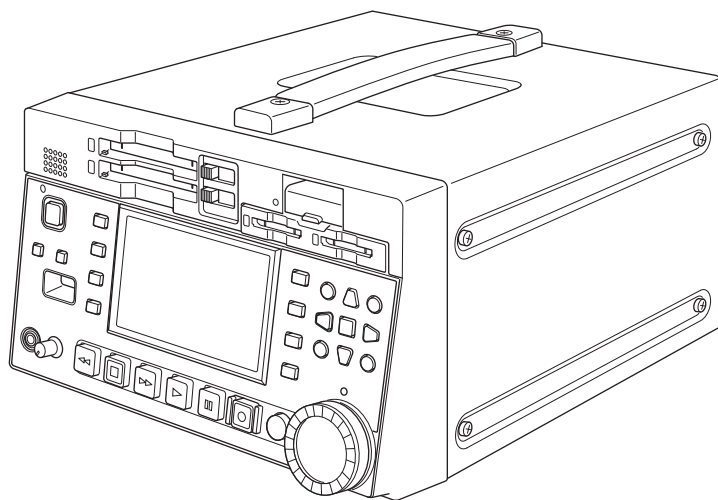
取扱説明書

メモリーカードレコーダー

品番 **AJ-PD500**

P2HD

micro
P2



HDMI



AVCULTRA

AVCINTRA

AVC LongG

DVCPRO HD

DVCPRO 50

DVCPRO

DV

このたびは、“パナソニック製品”をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■ご使用前に「安全上のご注意」(4~6 ページ)を必ずお読みください。

■保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

製造番号は、品質管理上重要なものです。製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

• AVC HD は、AVCHD コーデックボードAJ-YCX500G(オプション)取り付け時にご利用いただけます。

JAPANESE

VQT5C68A-10

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- HDMI, High-Definition Multimedia Interface, およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
- Microsoft[®]、Windows[®]は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- QuickTimeおよびQuickTimeロゴはライセンスに基づいて使用されるApple Inc.の商標または登録商標です。
- Apple, Mac, Mac OS, MacBook, iPhone, iPod touch, iPad, QuickTime, Safari は、米国Apple Inc. の米国および他の国で登録された商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- その他、この説明書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

本書内のイラストについて

- レコーダー本体、メニュー画面などのイラストは、実際とは異なることがあります。

参照ページについて

- 本書では、参照ページを(→「***」*ページ)のように示しています。

用語について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードのいずれも「SDメモリーカード」と記載しています。
- 「P2」ロゴがついたメモリーカード(別売のAJ-P2E064FGNなど)を「P2メモリーカード」と記載しています。
- 「microP2」ロゴのついたメモリーカード(別売品のAJ P2M032AGN など)を「microP2メモリーカード」と記載しています。
- 「P2メモリーカード」および「microP2メモリーカード」を、「P2カード」と記載しています。
また、「P2メモリーカードスロット」および、「microP2メモリーカードスロット」を、「P2カードスロット」と記載しています。
- システム周波数を、23.98 Hz、24 Hzで記録することを「ネイティブ記録」と記載しています。
- 本書では、下記OS(オペレーティングシステム)を、「Windows 7」と記載しています。
- Microsoft[®] Windows[®] 7 operating system 日本語版
- 本書では、下記OS(オペレーティングシステム)を、「Windows 8」と記載しています。
- Microsoft[®] Windows[®] 8 operating system 日本語版
- USBに接続される外部ハードディスクドライブ(HDD)などのメディアを「ストレージデバイス」と記載しています。
- 1回の記録動作により作成された映像を「クリップ」と呼び、そのように記載しています。
- 本機パネルのオレンジ色の文字のボタン名は[SHIFT] ボタンを押しながらそのボタンを押したときの名称です。操作説明上は「SHIFTを押しながら」とは記載せずにボタン名のみを記載しています。

本製品のプロキシー記録について

本製品は、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。

- AVC規格に準拠する動画(以下、AVC ビデオ)を記録する場合
- 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオを再生する場合
- ライセンスをうけた提供者から入手されたAVC ビデオを再生する場合
詳細については米国法人MPEG LA, LLC(<http://www.mpegla.com>)をご参照ください。

WebサイトURLについて

- 日本語 <https://panasonic.biz/cns/sav/>
- 英語 <https://pro-av.panasonic.net/>

著作権について

- あなたが録画や録音した内容は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

目次



安全上のご注意	4	FTP サーバー上のクリップのサムネール表示 (FTP サムネール画面)	62
電源プラグの接地に関するご注意	6	FTP サーバー上のクリップを削除する	63
本製品の表示記号について	6	FTP サーバー上のクリップの情報を表示する	63
使用上のご注意	7	クリップを転送する	63
本機について	7	SD メモリーカードのデータを転送する	65
ご使用前に	9	USB デバイスモード	67
必ず年月日・時刻、タイムゾーンの確認・設定を 行いましょう	9	P2 プレイリスト編集モード	68
本機で使えるメディアについて	9	AVCHD 再生モード	70
ドライバーのインストールについて	9	AVCHD オプションボードを使用する	70
付属品・オプション	10	SD / SDHC / SDXC メモリーカードについて	70
付属品	10	AVCHD のサムネール画面を操作する	71
オプション	10	再生の設定をする	74
各部の名称と機能	11	AVCHD クリップを再生する	75
操作部	11	SD メモリーカード記録データの 取り扱いについて	78
スロット他	13	画面の表示	79
入出力端子部	14	OSD 表示	79
準備	17	デッキ情報 (ダイヤグ) 表示	80
電源の入れ方・切り方	17	ウェーブフォームモニター (WFM) 表示	81
電源を ON にする	17	タイムコード・ユーザーズビット・CTL	82
電源を OFF にする	17	タイムコード	82
動作中の自動電源オフについて	17	ユーザーズビット	82
年月日・時刻を合わせる	18	CTL	82
P2 カードについて	19	タイムコード / ユーザーズビットの設定	82
P2 カードアクセスランプと P2 カードの 状態について	19	設定メニュー	84
P2 カードの記録時間について	19	メニューの操作	84
記録データの取り扱いについて	21	メニュー構成	85
SD / SDHC / SDXC メモリーカードの ご使用について	22	メニュー一覧	87
各種モードについて	23	CLIP	87
メインモード	24	REC/PB	91
録再画面	24	I/F SETUP	96
クリップを記録する	24	FILE	108
クリップを再生する	27	SYSTEM	111
サムネール画面	30	入力 / 出力対応フォーマット一覧	113
サムネール画面を表示する	30	キーボードの利用	114
サムネール画面の各部の名称とはたらき	31	フルキーボード	114
サムネール画面の表示の変更	33	テンキーボード	114
クリップの再生	34	USB キーボード	114
クリップの選択と解除	36	末永くお使いいただくために	115
テキストメモやショットマークを付加する	37	お手入れについて	115
クリップをコピーする	37	結露	115
クリップを削除する	38	保管上のお願い	115
クリップを修復・連結する	39	ワーニングシステム	116
クリップの情報を表示・修正する	39	ワーニング内容一覧	116
サムネールを変更する	41	エラーコード	117
クリップ記録時にメタデータを付加する	41	本機搭載ファームウェアのアップデート	124
P2 カード / SD メモリーカードを フォーマットする	43	保証とアフターサービス (よくお読みください)	125
カードの状態を確認する	44	定格	126
CPS の手動認証 / 自動認証	45	さくいん	129
USB HOST 端子で外部機器と接続する	46		
本機をネットワークに接続して利用する	55		
ネットワークの設定	55		
録再モードでのサーバー機能を利用する	60		
FTP クライアント機能を利用する	61		

安全上のご注意



必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

警告

本機は…

異常、故障時には直ちに使用を中止する



■ **異常があったときは、電源プラグを抜く**
[内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音などが出たとき]

(そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。)

⇒ 本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにしてください。

⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。

⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。



■ **電源プラグは、根元まで確実に差し込む**

(差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。)

⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。

■ **電源プラグのほこりなどは、定期的にとる**

(プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。)

⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。

■ **外部DC電源を使用するときは、電源電圧、およびDC IN端子のピン配列を確認し、極性を正しく接続する**






(誤ってGND端子に+12 Vの電源を接続すると火災や故障の原因になります。)

⇒ 詳しくは15 ページを参照してください。



(DC電源は本機に付属していませんが、安全にご使用いただくために、お守りください。)



警告(つづき)




	<p>■ ACコード・電源プラグが破損するようなことはしない [傷つける、加工する、高温部や熱機器に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど] (傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。) ⇒ ACコードや電源プラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。</p> <p>■ コンセントや配線機器の定格を超える使い方や、交流100 V～240 V以外での使用はしない (たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。)</p> <p>■ 内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない (ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。) ⇒ 機器の上や近くに液体の入った花びんなどの容器や金属物を置かないでください。</p> <p>■ 不安定な場所に置かない (落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。)</p>
 分解禁止	<p>■ 分解や改造をしない (内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器を損傷することがあります。) ⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。</p> <p>■ 指定のカバー以外は外さない (内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器を損傷することがあります。) ⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。</p>
 接触禁止	<p>■ 雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない (感電の原因になります。)</p>
 水場使用禁止	<p>■ 水場で使用しない (火災や感電の原因になります。)</p>
 ぬれ手禁止	<p>■ ぬれた手で電源プラグやコネクタに触れない (感電の原因になります。)</p>

付属品、別売品は…

	<p>■ 付属品は指定の製品を使用する (本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こす原因になります。)</p>
	<p>■ SD / SDHC / SDXCメモリーカード(別売品)、microP2メモリーカード(別売品)は、乳幼児の手の届く所に置かない (誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。) ⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。</p>

⚠ 注意

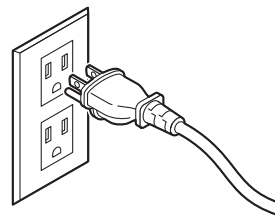
本機は…

	■ 本機の放熱を妨げない [押し入れや本箱など、狭いところに入れない、テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かない] (内部に熱がこもり、火災の原因になります。)
	■ 直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所に置かない (特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温(約60℃以上)になります。) (本機を絶対に放置しないでください。外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になります。)
	■ 油煙や湯気、湿気やほこりの多い場所に置かない (火災や感電の原因になります。)
	■ 電源プラグやコネクターを抜くときは、コードを引っ張らない (コードが傷つき、火災や感電の原因になります。) ⇒ 必ずプラグやコネクターを持って抜いてください。
	■ 本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない (落下したり倒れたりして壊れ、けがの原因になります。) (重さで外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になります。)
	■ コードを下にたらしたり、接続したコードを通路で引き回したりしない (足などを引っ掛けると、コードが傷つき、火災や感電の原因になります。また、けがの原因になります。)
	■ ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない (ヘッドホンから大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。)
	■ 病院内や飛行機内では、病院や航空会社の指示に従う (本機が出す電磁波などが、計器類に影響を及ぼすおそれがあります。)
	■ 1年に1度ぐらいいは、販売店に内部の掃除の相談をする (本機の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因になります。)
 電源プラグ を抜く	■ 長期間使用しないときや、お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く (火災や感電の原因になります。)

電源プラグの接地に関するご注意

- 本機に付属されているACコードは、接地端子を備えた3ピンのコンセントに接続してください。

海外で使用する場合は、その国に合った接地端子付ACコードを準備してください。



本製品の表示記号について

- 本製品(付属品を含む)に表示の記号は以下を示しています。(本機では表示されていないシンボルもあります。)

I	電源ON
⏻	スタンバイ(OFF)
~	AC(交流)
==	DC(直流)
⏚	クラスII 機器(二重絶縁構造)

使用上のご注意

本機について

■ 録画内容の補償はできません

- 本機およびP2カードの使用上、万一これらの不具合により録画されなかった場合の録画内容の補償についてはご容赦ください。

■ 雨天、降雪中、海岸などで使うときは、本機に水が入らないようお気をつけください。

- 本機やカードの故障につながります。(修理できなくなることがあります)

■ 本機を直射日光にさらされた場所に置かないでください。

- キャビネットの劣化や、液晶画面の損傷のおそれがあります。

■ 磁気を発生する機器(テレビ、テレビゲームなど)から本機を遠ざけてください。

- テレビの上やその周辺で本機を使用すると、電磁波の放射により画像や音声にひずみが生じることがあります。
- スピーカーや大型モーターが発生する強力な磁場は、録画内容を破損したり、画像をゆがめたりすることがあります。
- マイクロコンピュータから放出される電磁波は、本機に悪影響を及ぼし画像や音声にひずみを生じさせることがあります。
- 磁気を発生する機器により本機が悪影響を受け、正確に動作しなくなった場合は、本機の電源を切り、ACコードをコンセントから抜きます。そしてもう一度ACコードを接続します。その後本機の電源を入れます。

■ 本機をラジオ送信機や高電圧機器の近くで使用しないでください。

- ラジオ送信機や高電圧機器の近くで使用すると、記録した画像や音に悪影響が出るおそれがあります。

■ 海岸や野外などで使用する場合、砂やほこりが本機に入らないようお気をつけください。

- 砂やほこりで本機やカードが破損することがあります。(カードを出し入れするときには、お気をつけください)

■ 本機を持ち運ぶとき、落とさないようにお気をつけください。

- 強い衝撃で本機本体が破損し、正しく動作しなくなることがあります。

■ 本機に殺虫剤や揮発性のものをかけないでください。

- 殺虫剤や揮発性のものがかかると、本機本体が変形したり、塗装がはげたりするおそれがあります。
- 本機は、ゴム製品やビニール製品に長期間接触させたままにしないでください。

■ メモリーカードやストレージデバイスを破棄 / 譲渡するときのお願い

本機やパーソナルコンピュータの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカードやストレージデバイス内のデータは完全には消去されません。廃棄 / 譲渡の際は、メモリーカードやストレージデバイス本体を物理的に破壊するか、市販のパーソナルコンピュータ用データ消去ソフトなどを使って、メモリーカードやストレージデバイス内のデータを完全に消去することをお勧めします。メモリーカードやストレージデバイス内のデータはお客様の責任において管理してください。

■ 液晶について

- 液晶モニターのドットについては有効画素の99.99 %以上の高精度管理をしていますが、0.01 %以下の画素欠けや常時点灯するものがあります。これは故障ではなく、記録された映像に何ら影響を与えるものではありません。
- 表示映像によっては、画面にムラが発生する場合があります。
- 液晶部を固い布で拭いたり、強くこすったりすると、表面に傷がつく原因となります。
- 液晶の応答速度や輝度は使用温度によって変化します。
- 本機を、温度や湿度の高いところに長時間放置すると、液晶パネルの特性が変化し、ムラの原因となります。
- 解像度の関係で、HD映像などは間引いて表示するため、すべてが表示されないことがあります。
- 液晶モニターはその特性上、明るい静止画などの長時間連続表示や、高温多湿環境下での連続使用をされると、残像、輝度低下、焼きつき、すじなどが発生したり、パネルの一部分の明るさが、しみのように恒久的に変化したままになる場合があります。

特に、次のような映像の長時間連続表示は避けてください。

- 明るい静止画
- 固定されたロゴマークなどの映像
- サムネール画面
- コンピューターのウインドウなどの明るい表示
- モニターのアスペクト比と異なるアスペクト比の映像(レターボックスなどの帯が表示される映像)

また、次のような環境での連続使用は避けてください。

- 高温多湿になる密閉された場所
- 空調設備の吹き出し口近くなど

上記のような映像や環境での長時間使用は液晶パネルの経年変化を早めます。

経年変化の現象を未然に防ぐため、次のことをおすすめします。

- 明るい静止画などは長時間連続して表示しない
- 輝度を下げる

- 使用しない場合は本体の電源を切る

残像現象は、画面表示を変えることで徐々に解消される場合もあります。

■ ネットワーク機能のご使用に関するお願い

ネットワーク機能を使用するためにネットワークに対して誤った設定を行った結果生じた損害に対して、当社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機能を使用した結果生じた損害に対しましても、当社では補償できませんので、併せてご了承ください。

■ セキュリティに関するお願い

ネットワークをご使用になる場合、下記のような被害を受けることが想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本製品の不正操作
- 悪意の第三者による本製品の妨害や停止

パーソナルコンピューターや携帯端末のセキュリティ対策を十分に行ってください。

- パスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。
- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック株式会社および、その関係会社がお客様に対して直接パスワードを照会することはございません。直接問い合わせがありましても、パスワードを答えないでください。
- 本製品を修理、保守、廃棄、譲渡する場合は、情報の漏えいを防ぐためネットワーク設定の初期化を行ってください。

■ 本製品に関するソフトウェア情報

1. 本製品には、GNU General Public License(GPL)ならびにGNU Lesser General Public License(LGPL)に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれており、お客様は、これらのソフトウェアのソースコードの入手・改変・再配布の権利があることをお知らせいたします。
 2. 本製品には、MIT-License に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。
 3. This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)
 4. 本製品には、OpenBSD Licenseに基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。
 5. This product includes PHP, freely available from <<http://www.php.net/>>
 6. This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.
 7. 本製品には、MOZILLA PUBLIC LICENSEに基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。
- これらの内容(原文【英文】で記載しております)と、ソースコードの入手については、次のWeb サイトを参照してください。
<https://panasonic.biz/cns/sav/>
- なお、お客様が入手されたソースコードの内容等についてのお問い合わせは、ご遠慮ください。

ご使用の前に

必ず年月日・時刻、タイムゾーンの確認・設定を行いましょ

記録したコンテンツの管理、再生順序に影響します。記録の前に年月日・時刻、タイムゾーンの設定・確認を行ってください。
(→「年月日・時刻を合わせる」18 ページ)

◆NOTE:

本機を長時間(約3か月)無通電で放置すると、電源投入時に「BACKUP BATT EMPTY」と表示されることがあります。その場合は年月日・時刻情報が初期化されていますので、再度設定を行ってください。(→「年月日・時刻を合わせる」18 ページ)
また、バックアップ電池の充電を行ってください。(→「BACKUP BATT EMPTY」118 ページ)

本機で使えるメディアについて

以下のメディアが使用できます。詳しくはそれぞれのページをご覧ください。

■ 記録再生

- P2メモリーカードおよびmicroP2メモリーカード(→「P2カードについて」19 ページ)

■ プロキシ記録、データ保存、AVCHD再生

- SD / SDHC / SDXCメモリーカード(→「SD / SDHC / SDXCメモリーカードのご使用について」22 ページ)

ドライバーのインストールについて

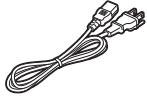
ご使用の前に、当社Webサイトから必要なドライバーをパーソナルコンピューターにインストールしてください。
ドライバーのインストール手順は、当社Webサイトにあるインストールマニュアルをご参照ください。

ドライバーに関する最新情報は当社Webサイトをご覧ください。(→「WebサイトURLについて」2 ページ)をご覧ください。

付属品・オプション

付属品

ACコード



- 包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

オプション

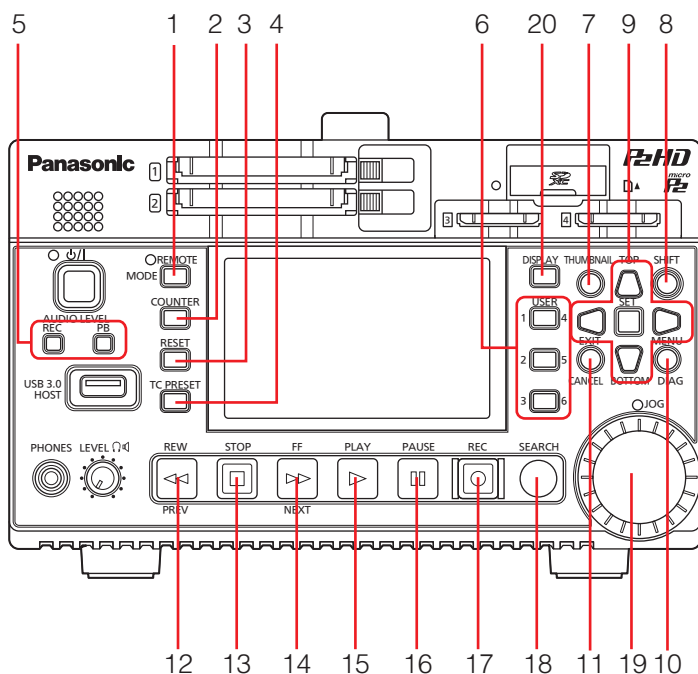
- AVCHDコーデックボード(AJ-YCX500G)

◆NOTE:

- オプションは、上記の製品以外は使用しないでください。
- オプションの取り付けは、お買い上げの販売店にご依頼ください。

各部の名称と機能

操作部



ボタン名表示について:ボタン表記でオレンジ色の名称は[SHIFT]ボタンと同時に押したときの名称です。

<例> [SHIFT] ボタンと[REMOTE / MODE] ボタンの同時押しは、[MODE] ボタンと呼ぶ。

1. REMOTE・MODEボタン

[REMOTE] ボタン:

REMOTE端子から本機をコントロールするモードに切り替えるボタンです。

REMOTE端子から本機をコントロールできるときに、横のランプが点灯します。

[MODE] ボタン:

USB デバイスモード(USB DEVICE)、およびAVCHD再生モード、プレイリスト編集モードに切り替えるときに使用します。また、サーバー機能でログインを強制切断するときにも使用します。

(→「USBデバイスモード」67 ページ、「AVCHD再生モード」70 ページ、「P2 プレイリスト編集モード」68 ページ、「録再モードでのサーバー機能を利用する」60 ページ)

2. COUNTERボタン

カウンタ表示を以下の順番で切り替えることができます。

TC→UB→CTL→TC

(→「タイムコード・ユーザーズビット・CTL」82 ページ)

3. RESETボタン

表示パネルのカウンター表示がCTLのとき、このボタンを押すとカウンター表示が「0:00:00:00」になります。

(→「タイムコード・ユーザーズビット・CTL」82 ページ)

4. TC PRESETボタン

TCやUBの値を設定するボタンです。

(→「タイムコード・ユーザーズビット・CTL」82 ページ)

5. AUDIO LEVELボタン

[AUDIO LEVEL-REC]ボタン:

ボタンを押すと記録音声レベル調整画面が表示されます。(→「クリップを記録する」24 ページ)

[AUDIO LEVEL-PB]ボタン:

ボタンを押すと再生音声レベル調整画面が表示されます。(→「クリップを再生する」27 ページ)

6. USER 1・3・4・6ボタン

ユーザーが任意の機能を割り当てできるボタンです。

(→「USER BUTTON」105 ページ)

7. THUMBNAILボタン

サムネール画面の表示・非表示を切り替えます。

(→「サムネール画面を表示する」30 ページ)

8. SHIFTボタン

このボタンを押しながら他のボタンを同時に押すことで、定義されたボタン操作を行います。

9. カーソル操作ボタン

[上] / [下] / [左] / [右]カーソルボタン:

- サムネールやメニューなどのカーソル移動の操作を行います。
- 再生静止画を表示中に[上] / [下]カーソルボタンを押すと、コマ送りができます。(→「コマ送り再生」28 ページ)
- 記録再生音声レベル調整の音声チャンネル切り替えに、[左] / [右]カーソルボタンを使用します。(→「クリップを記録する」24 ページ)

[TOP] / [BOTTOM] ボタン:

サムネールの先頭(TOP)あるいは最終 (BOTTOM)へカーソルを移動します。

[SET] ボタン:

サムネールの選択やメニュー選択などの操作を行います。

10. MENU・DIAGボタン

[MENU]ボタン:

ボタンを押すとメニューを表示します。

[DIAG]ボタン:

メニューを表示していないときにボタンを押すと、各種状態表示を行うダイアグ画面を表示します。(→「デッキ情報(ダイアグ)表示」80 ページ)

11. EXIT・CANCELボタン

[EXIT]ボタン:

メニューを閉じたり、ストレージ・エクスプローラーから通常の表示へ戻ります。

[CANCEL]ボタン:

選択の解除やコピー操作の中断などを行います。

12. REW・PREV ◀ ボタン

[REW]ボタン:

早戻し再生します。

速度は、メニュー「FF.REW MAX」(→92 ページ)で選択可能です。

[PREV] ボタン:

再生中に、現在または前のクリップ、あるいはクリップおよびテキストメモ位置の頭だしを行います。

13. STOP ◻ ボタン

再生または記録を停止します。

14. FF・NEXT ▶ ボタン

[FF]ボタン:

早送り再生します。

速度は、メニュー「FF.REW MAX」(→92 ページ)で選択可能です。

[NEXT] ボタン:

再生中に次のクリップ、あるいはクリップおよびテキストメモ位置の頭だしを行います。

15. PLAY ▶ ボタン

再生します。

(→「クリップを再生する」27 ページ)

16. PAUSE ◻ ボタン

再生中に押すと一時停止(STILL)し、静止画を表示します。一時停止中に押すと再生が開始されます。

記録中に押すと記録待機(PAUSE)状態となります。

記録待機状態中に押すと記録が開始されます。

17. REC ◻ ボタン

再生画出力中にEEの映像と音声を確認できます。停止中以外はボタンを押している間、停止中は一度ボタンを押し、その他のボタンを押すまではEEを継続します。

EEの確認は、再生画のフォーマットとメニュー

「LINE&FREQ」(→111 ページ)の設定が一致するときのみ可能です。記録可能なメディアがない場合は動作しません。

[PLAY] ▶ ボタンと同時に押すと記録を開始します。

[PAUSE] ◻ ボタンと同時に押すと記録待機状態となります。メニューを設定することでカメラからのリモート記録ができます。

リモート記録の設定はメニュー「AUTO REC」(→91 ページ)で行います。

18. SEARCHボタン

このボタンを押すとサーチモードになります。

19. マルチコントロールダイヤル

サーチモードのとき:

映像確認、検索のためのダイヤルとなります。押すたびにSHTL(シャトル)モードとJOG(ジョグ)モードが交互に切り替わります。

•サーチモードに切り替えた直後は、SHTLモードで動作します。

記録・再生音声レベル調整のとき:

[AUDIO LEVEL-REC]ボタンまたは[AUDIO LEVEL-PB]ボタンを押し、マルチコントロールダイヤルを回すことで記録・再生音声レベル調整を行うことができます。

(→「クリップを記録する」24 ページ、「クリップを再生する」27 ページ)

サムネール画面のとき:

ダイヤルを回すと、[左] / [右]カーソルボタンと同じ動きをします。

ダイヤルを押すと、[SET]ボタンと同じ動きをします。

メニュー表示のとき:

ダイヤルを回すと、[上] / [下]カーソルボタンと同じ動きをします。

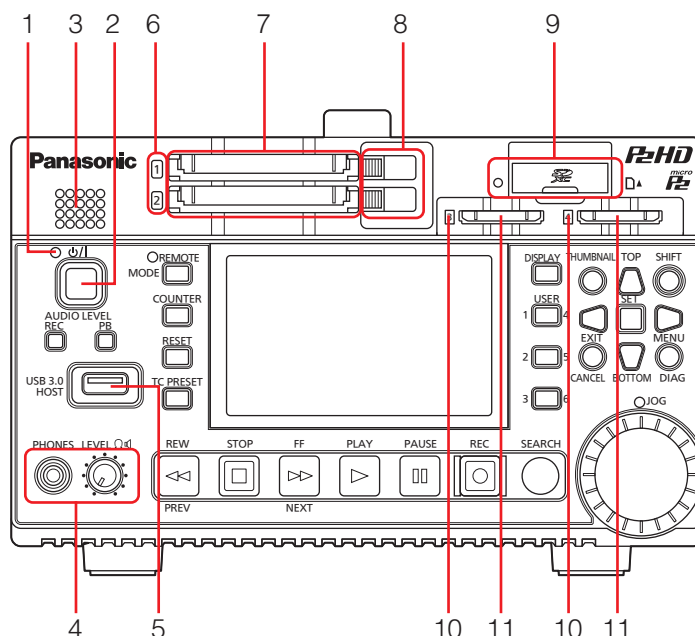
ダイヤルを押すと、[SET]ボタンと同じ動きをします。

20. DISPLAYボタン

OSDの表示を「表示なし」→「OSD表示」→「表示なし」と切り替えることができます。

(→「画面の表示」79 ページ)

スロット他



1. 電源ランプ

(→「電源の入れ方・切り方」17 ページ)

2. 電源ボタン

電源のON / OFFを行います。

(→「電源の入れ方・切り方」17 ページ)

3. スピーカー

オーディオのモニター音を出力します。

ヘッドホンを接続するとモニター音は出力されません。

4. PHONES / LEVEL

ヘッドホンジャック:

ステレオヘッドホンを接続すると、記録・再生中の音声をヘッドホンで聞くことができます。

モニター音量調整つまみ:

ヘッドホンまたはスピーカーのモニターの音量が調整できます。

MON L/R出力端子を連動させるか連動させないかは、メニュー「MONITOR OUT VOL.」(→100 ページ)で設定します。

5. USB HOST端子(USB3.0 TYPE A)

(→「USB HOST端子で外部機器と接続する」46 ページ)

◆NOTE:

- 本端子に接続するケーブルは、ダブルシールドのものをご使用ください。
- USB3.0対応のストレージデバイスと接続する場合は、USB3.0規格準拠のケーブルをご使用ください。

6. P2メモリーカードアクセスランプ

(→「P2 カードアクセスランプとP2カードの状態について」19 ページ)

7. P2メモリーカードスロット

(→「P2カードについて」19 ページ)

8. EJECTボタン

(→「P2カードについて」19 ページ)

9. SD / SDHC / SDXCメモリーカードスロット / アクセスランプ

SD / SDHC / SDXCメモリーカードを挿入します。

挿入するときは、カードのラベル面を上にしてコーナーカット側から入れ、ロックされるまで挿入します。

取り出すときは、アクセスランプが緑色点灯あるいはオレンジ色点滅していないことを確認し、カードを挿入した方向に押しつけてロックを解除します。

◆NOTE:

SD / SDHC / SDXCメモリーカードは、CPSパスワードの読み込み、メニューの読み書き、メタデータの読み書き、プロキシ記録、AVCHD再生に使用します。
(→「SD / SDHC / SDXCメモリーカードのご使用について」22 ページ)

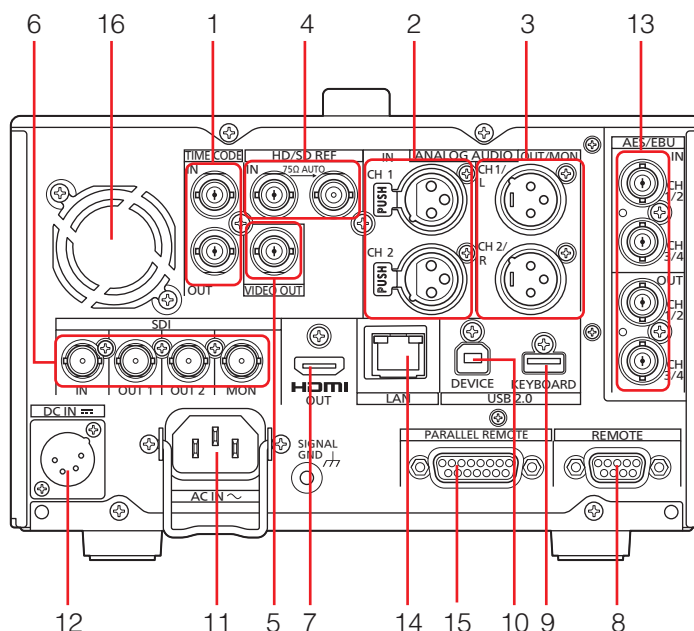
10. microP2メモリーカードアクセスランプ

(→「P2 カードアクセスランプとP2カードの状態について」19 ページ)

11. microP2メモリーカードスロット

(→「P2カードについて」19 ページ)

入出力端子部



1. TIME CODE IN / OUT端子

TIME CODE IN: 外部タイムコードを、P2カードに記録するための端子です。

TIME CODE OUT: 再生時は再生タイムコードを出力します。
記録時は内蔵タイムコードジェネレーターから発生するタイムコードを出力します。

2. ANALOG AUDIO IN端子

アナログオーディオの入力端子です。

3. ANALOG AUDIO OUT / MON出力端子

オーディオ信号(CH1～CH8)の中からメニュー「MONITOR CH」(→100 ページ)で選択した信号を出力します。

4. REF IN端子

HD / SDリファレンス・ビデオ信号の入力端子です。

◆NOTE:

- HDリファレンスとして使用するときは、正負両極性の3値同期信号を入力してください。また、入力信号やSYSTEMフォーマットにあった信号を入力してください。
- SDリファレンスとして使用するときは、SMPTE ST 170、ITU624-4に準拠したブラックバースト信号を入力してください。
- リファレンス・ビデオ信号を入力しないとき、映像や音声の出力信号が乱れることがあります。リファレンス・ビデオ信号を入力するシステムで使用することをお勧めします。
- 1080p、720pでは、HDリファレンスまたはSDリファレンスを入力せずに記録を行うと、入力信号に対して位相がずれて記録されることがあります。

5. VIDEO OUT端子

アナログ・コンポジット・ビデオ信号を出力します。

◆NOTE:

1080-24PsFモードでは信号は出力されません。

6. HD / SD - SDI IN / OUT / MON端子

シリアル・デジタル・コンポーネント・オーディオ / ビデオ信号の入出力ができます。

メニュー「OSD OUTPUT」(→102 ページ)の設定により、スーパーを重畳する出力端子を変更することができます。また、メニュー「GUI OUTPUT」(→102 ページ)の設定によりサムネール画面を重畳する出力端子を変更することができます。

◆NOTE:

本端子に接続するケーブルは、5C-FB相当のダブルシールドのものをご使用ください。

7. HDMI OUT端子

HDMIケーブルを使用し、モニターやテレビと接続します。

◆NOTE:

- 本機はピエラリンクに対応していません。ピエラリンク対応機器とHDMIケーブルで接続すると、他の機器のピエラリンクが正しく動作しないことがありますのでお気をつけください。
- 本端子に接続するケーブルは、ダブルシールドのものをご使用ください。
- メニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)が次の値に設定されているときは、以下の動作となります。
 - 「1080-25PsF」モードでは1080-50iとして出力されます。
 - 「1080-29.97PsF」モードでは1080-59.94iとして出力されます
 - 「1080-24PsF」および「23.98PsF」モードでは出力されません。

8. REMOTE端子

本機と外部コントローラーを接続して、外部機器から本機を操作できます。

◆NOTE:

- 本端子に接続するケーブルは、ダブルシールドのものをご使用ください。
- 制御コマンドの種類はメニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)で変更できます。

9. KEYBOARD端子(USB 2.0 TYPE A)

メタデータ入力などのときに外付けのUSBキーボードを接続してデータ入力などを行うことができます。(→「キーボードの利用」114 ページ)

10.USB2.0 デバイス端子

(→「USBデバイスモード」67 ページ)

◆NOTE:

本端子に接続するケーブルは、ダブルシールドのものをご使用ください。

11.AC IN端子

付属のACコードを使って、電源コンセントに接続します。

◆NOTE:

AC電源と外部DC電源の両方を接続した場合、AC電源からの供給が優先されます。

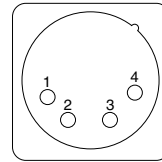
12.DC IN端子

DC12Vの電源を接続します。

電圧が約10.6 Vまで低下したとき、本機の電源は自動的にOFFになります。(メニュー「EXT DC IN SELECT」(→103 ページ)の設定が「DC PWR SUPPLY」のとき)

その後、電源電圧が回復しても自動的に復帰しません。

[/I] ボタンを押して電源をONにしてください。



DC IN端子

ピン番号	信号
1	GND
2,3	-
4	+12 V

◆NOTE:

DCコードは、2 mより短いシールドケーブルを使用してください。2 m以上のDCコードを使用すると、画面にノイズが発生することがあります。

外部DC電源を使用するときは、必ず、外部DC電源の定格をご確認のうえ、本機に適合するものを使用してください。外部DC電源のDC出力端子と本機のDC IN端子のピン配列を確認し、極性を正しく接続してください。誤ってGND端子に+12 Vの電源を接続すると、火災やけがの原因になります。

13.AES / EBU IN / OUT端子

AES/EBU規格に準拠したデジタル・オーディオ信号の入出力端子です。

◆NOTE:

- 入力するデジタル・オーディオ信号は、ビデオ入力信号に同期している必要があります。同期していないときは、オーディオ出力信号にノイズが発生します。
- 本端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

14.LAN端子

1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-Tでネットワーク接続することができます。

(→「本機をネットワークに接続して利用する」55 ページ)

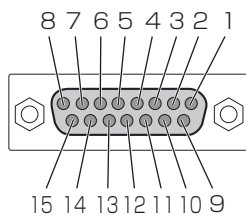
◆NOTE:

- 本端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご利用ください。
- LANリンクが確立している場合は、オレンジのランプが点灯します。データ転送中は緑のランプが点滅します。

15. PARALLEL REMOTE端子

15pinパラレルリモート端子です。

各ポートへの割り当ては、メニュー「PARALLEL PORT PORT1~7 PORT9~14」(→ 106, 107 ページ)で選択することができます。



ピン No.	端子名	機能
1	PORT1	コマンド入力ポート1
2	PORT2	コマンド入力ポート2
3	PORT3	コマンド入力ポート3
4	PORT4	コマンド入力ポート4
5	PORT5	コマンド入力ポート5
6	PORT6	コマンド入力ポート6
7	PORT7	コマンド入力ポート7
8	+5V出力(+180mA max.)	
9	PORT9	ステータス出力ポート1
10	PORT10	ステータス出力ポート2
11	PORT11	ステータス出力ポート3
12	PORT12	ステータス出力ポート4
13	PORT13	ステータス出力ポート5
14	PORT14	ステータス出力ポート6
15	GND	GND

◆NOTE:

- 入力信号はTTLレベル、アクティブLOW、エッジは100 msec以上の電気信号を流してください。
- 出力信号はオープンコレクタ、シンク電流は最大6 mAで出力されます。
- 本端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご使用ください。
- メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合はPARALLEL REMOTE端子からの制御はできません。

16. FAN

本機冷却用のファンです。通風を妨げないように設置してください。

◆NOTE:

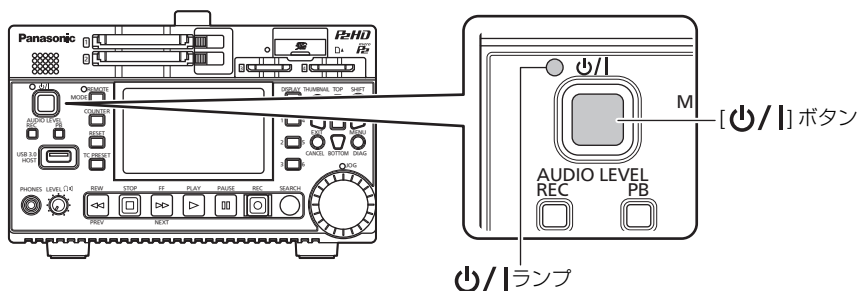
電源ON中に、ファンが停止したときは、ワーニング表示として「FAN STOPPED」が表示されます。ファンが停止しても本機は動作しますが、すみやかに使用を中止してください。

準備

電源の入れ方・切り方

電源をONにする

電源がOFFの状態ですべてのボタンを押すと、電源がONになります。
起動後は電源ランプが緑色に点灯します。



◆NOTE:

起動中は以下のメッセージが表示されます。

- [STARTING SYSTEM...]: 起動中点滅します。
- [AUTO POWER OFF = * min]: "*"にはメニュー「AUTO POWER OFF」(→97 ページ)で設定されている時間が表示されます。また、メニュー設定を「OFF」に設定すると、このメッセージは表示されません。



電源をOFFにする

電源ONの状態ですべてのボタンを2秒以上押すと、電源がOFFになります。
電源OFF処理中は電源ランプが点滅し、その後電源ランプが消灯します。

動作中の自動電源オフについて

本機は、記録、再生、コピーおよびフォーマットなどの動作をしていない状態がしばらく経過すると自動的に電源がOFFになる機能があります。自動でOFFになった後でご使用になるときは、再度電源をONにしてください。

◆NOTE:

- 電源を自動的にOFFにするまでの時間は、メニュー「AUTO POWER OFF」(→97 ページ)で設定できます。

年月日・時刻を合わせる

本機を最初に使用する前に時計の設定を行います。

1 本機の[ON] ボタンを押し、電源をONにする

2 [MENU] ボタンを押してメニューを開く (→「メニューの操作」84 ページ)

3 カーソルボタンで、メニュー「I/F SETUP」 - 「CLOCK」(→96 ページ)を選択し、[SET] ボタンを押す 時計の設定画面が表示されます。初期値は現在時刻です。



4 [左]/[右] カーソルボタンで設定したい部分にカーソルを移動する

- 年/月/日/時/分/タイムゾーンの順で表示されています。
- タイムゾーンでは、グリニッジ標準時間からの時差を設定します。
- 時刻は24時制で表示しています。

5 [上]/[下] カーソルボタンで年月日・時刻・タイムゾーンを設定する

6 設定後、[SET] ボタンを押す

[SET] ボタンを押すことで変更した時刻が時計に設定されます。

◆NOTE:

- 時刻には誤差が生じますので、使用前に時間が合っているか確認してください。
- 正確な時刻を必要とするときは、ご使用前に、時刻確認、再設定を行ってください。

■ タイムゾーン表

時差	地域	時差	地域
00:00	グリニッジ	+ 01:00	中央ヨーロッパ
- 00:30		+ 01:30	
- 01:00	アゾレス諸島	+ 02:00	東ヨーロッパ
- 01:30		+ 02:30	
- 02:00	中部大西洋	+ 03:00	モスクワ
- 02:30		+ 03:30	テヘラン
- 03:00	ブエノスアイレス	+ 04:00	アブダビ
- 03:30	ニューファンドランド島	+ 04:30	カブール
- 04:00	ハリファックス	+ 05:00	イスラマバード
- 04:30	カラカス	+ 05:30	ムンバイ
- 05:00	ニューヨーク	+ 06:00	ダッカ
- 05:30		+ 06:30	ヤンゴン
- 06:00	シカゴ	+ 07:00	バンコク
- 06:30		+ 07:30	
- 07:00	デンバー	+ 08:00	北京
- 07:30		+ 08:30	
- 08:00	ロスアンゼルス	+ 09:00	東京
- 08:30		+ 09:30	ダーウィン
- 09:00	アラスカ	+ 10:00	グアム
- 09:30	マルケサス諸島	+ 10:30	ロード・ハウ・アイランド
- 10:00	ハワイ	+ 11:00	ソロモン諸島
- 10:30		+ 11:30	
- 11:00	ミッドウェイ諸島	+ 12:00	ニュージーランド
- 11:30		+ 12:45	チャタム諸島
- 12:00	クワジャリン	+ 13:00	フェニックス諸島
+ 00:30			

■ 内蔵時計の電池について

長期間電源を入れていない場合など内蔵時計の電池が空になると、「BACKUP BATT EMPTY」警告が表示されます。その場合は、ACアダプターを接続し、約4時間そのままにして電池の充電を行ってください。

充電後も「BACKUP BATT EMPTY」の警告が表示される場合は、内蔵電池の交換が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

P2カードについて

P2 カードアクセスランプとP2カードの状態について

P2カードアクセスランプ		P2カードの状態
緑色に点灯	記録可能	書き込み/読み出しとも可能です。
オレンジ色に点灯	記録対象	書き込み/読み出しとも可能で、現在記録の対象になっています。
オレンジ色の点滅	アクセス中	現在、書き込み/読み出し中です。
オレンジ色の早い点滅	カード認識中	P2カードを認識中です。
緑色の遅い点滅	カードフル	P2カードのメモリ残量がありません。読み出しのみ可能です。
	ライトプロテクト	P2カードのライトプロテクトスイッチがProtect側になっています。読み出しのみ可能です。
	記録対象外のカード	SDメモリーカードなどが挿入されているため、現在設定されている記録フォーマットでは、記録できません。記録するには、記録フォーマットを変更するか、P2カードをご使用ください。
	記録対象外のスロット	メニュー「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」(P2/microP2) (→92 ページ)の設定と異なるスロットにカードが挿入されています。
消灯	対象外のカード	本機では使用できないカードです。カードを交換してください。
	フォーマット不正	P2カードが正規のフォーマットをされていません。フォーマットをやり直してください。
	カードなし	P2カードが挿入されていません。カード認識待ち。
	認証外のカード	認証できないmicroP2メモリーカードです。「CPSの手動認証 / 自動認証」(→45 ページ)を参照して認証してください。
	USB非アクセス	USBデバイスモードでP2カードにアクセスしていません。

◆NOTE:

microP2メモリー カードをゆっくりと挿入したり、カードの端子に汚れがあったりした場合、「FORMAT ERROR!」や「NOT SUPPORTED!」、「CHECK SLOT<スロット番号>」が表示されることがあります。その場合、もう一度挿入しなおしてください。

P2カードの記録時間について

本機で使用できるP2カード

本機では、別売品の4 GBから64 GBのP2メモリーカードおよびmicroP2メモリーカードが使用できます。(2013年10月現在)

◆NOTE:

- 1080/59.94p、1080/50pのAVC-Intra100選択時、およびメニュー「LINE&FREQ」に関係なくAVC-Intra200選択時は、以下のP2カードには記録およびコピーなどの書き込みはできません。
 - H、R、A、EシリーズのP2メモリーカード
- AJ-P2C002SG(2 GB)のカードは使用できません。
- P2カードの種類によっては、本機のアップデートが必要になることがあります。
- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、Webサイトを参照してください。(→「WebサイトURLについて」2 ページ)

P2カードの記録時間

(64 GB カード 1 枚使用の場合の例)

「LINE&FREQ」設定 (記録フォーマット)	「REC FORMAT」設定 (コーデック)	記録時間
1080-59.94P、1080-50P	AVC-I100	約32分
	AVC-G25	約110分
1080-59.94i、1080-50i	AVC-I100	約64分
	AVC-G25	約220分
1080/23.98PsF、1080/24PsF	AVC-I100	約80分
	AVC-G25	約275分
1080/29.97PsF、1080/25PsF	AVC-I100	約64分
	AVC-G25	約220分
720-59.94P、720-50P	AVC-I100	約64分
	AVC-G25	約220分
480-59.94i、576-50i	DVCPRO50	約128分
	DVCPRO	約256分

◆NOTE:

- 32 GBのP2カードの場合は上記の各記録時間の 1/2、16 GB の P2カードの場合は 1/4、8 GBのP2カードの場合は1/8となります。
- 表示容量には管理領域などが含まれており、記録に使用できる容量は上記より少なくなります。

P2カードに記録されるクリップの分割について

本機で8 GB以上のP2カードを使用した場合、1回の連続記録時間が下表に示す時間を超えると、自動的に別のクリップとして記録を続けます。なお、P2機器でクリップのサムネイル操作(表示、削除、修復など)を行う場合は、1つのクリップとして操作できます。ノンリニア編集ソフト、およびパーソナルコンピューターなどでは、別々のクリップとして表示されることがあります。

なお、AVC-LongGコーデックを使用し32 GB超のmicroP2メモリーカードへ記録を行う場合は、メニュー「FILE SPLIT」(→92 ページ)の設定により同一クリップとして記録を継続することができます。

記録フォーマット(ネイティブ記録を除く)	連続記録時間
AVC-I200、AVC-I100(1080p)	約3分
AVC-I100(1080i)、DVCPRO HD	約5分
AVC-G50、AVC-I50、DVCPRO50	約10分
AVC-G25、DVCPRO、DV	約20分

CPS(Content Protection System)について

microP2メモリーカードは、暗号化フォーマットを行うことで、第三者へのデータ流出を防止するセキュリティ機能である「Content Protection System」をサポートしています。

CPS 機能を利用するためには、本体にCPS パスワードを設定し、microP2メモリーカードの認証機能(→「CPSの手動認証 / 自動認証」45 ページ)と暗号化フォーマット機能(→「P2カード / SDメモリーカードをフォーマットする」43 ページ)を有効にします。同一のCPS パスワードが設定された機器間でのみ、暗号化フォーマットされたmicroP2メモリーカードが自動認証され、記録・再生可能なmicroP2メモリーカードとして利用することができます。なお、CPSパスワードについては「CPSの手動認証 / 自動認証」(→45 ページ)を参照してください。

◆NOTE:

- パスワードは16文字まで入力可能です。
- 暗号化されたmicroP2メモリーカードはパーソナルコンピューターのSDカードスロットでは認識できません。
- 認証エラーになった場合、正しいパスワードで認証しなおすか、フォーマットすることで記録メディアとして使用いただくか、機器から取り出してください。認証エラーのカードを挿入したままで、手動認証、フォーマット以外の操作はしないでください。
- USBデバイスモードでパーソナルコンピューターから暗号化されたmicroP2メモリーカードにアクセスする場合は、P2 Viewer Plus で暗号化されたmicroP2メモリーカードを認証してください。

記録データの取り扱いについて

P2メモリーカードおよびmicroP2メモリーカードはプロフェッショナル映像制作・放送用機器「P2シリーズ」の記録メディアに採用した、半導体メモリーカードです。

■P2フォーマットの記録データは、ファイル形式のため、パーソナルコンピューターとの親和性にすぐれていますが、そのファイル構造は独自フォーマットであり、MXFファイル化される映像、音声データだけでなく、さまざまな重要情報が含まれており、右のようなフォルダー構成にて関連付けられています。

これらの情報が一部でも変更、または削除されると、P2データとして認識できない、もしくはカードがP2機器で使えなくなるなどの不具合が発生する場合があります。

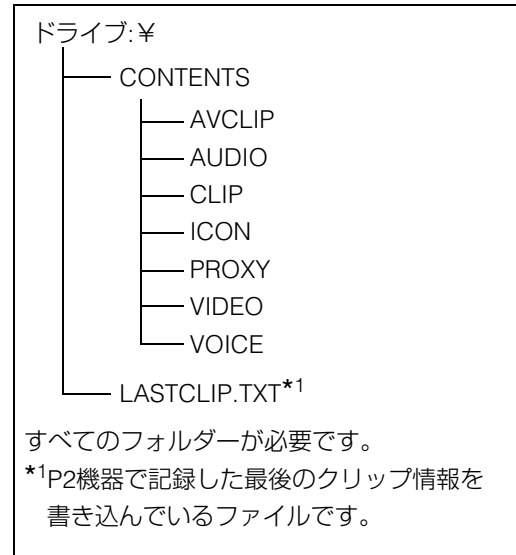
■microP2メモリーカード対応機器以外でフォーマットしたP2カードにはAVCLIPフォルダーはありません。AVCLIPフォルダーがないP2カードはmicroP2メモリーカード対応機器で記録をするときに自動でフォルダーを作成します。

■P2カード内のデータをパーソナルコンピューターなどに転送したり、パーソナルコンピューターに格納したデータをP2カードに書き戻したりする際は、情報の欠落を防ぐために、必ず専用ソフトウェア「P2 Viewer Plus」をWebサイトよりダウンロードし、お使いください。

URLについては(→「WebサイトURLについて」2ページ)をご覧ください。

■Microsoft Windows ExplorerやApple Finderなど、一般のITツールを使用してパーソナルコンピューターに転送する場合は、下記のように行ってください。なお、P2カードへ戻す場合は、必ずP2 Viewer Plusをご使用ください。

- CONTENTS フォルダーとLASTCLIP.TXT ファイルごとに行ってください。
CONTENTSフォルダー以下は、操作しないでください。
コピーするときは、CONTENTSフォルダーと同時にLASTCLIP.TXTファイルも行ってください。
- 複数のP2カードをパーソナルコンピューターに転送する場合、同一クリップ名の上書きを防ぐため、P2カードごとにフォルダーを作成してください。
- P2カード内のデータ消去は行わないでください。
- P2カードをフォーマットする場合は、必ずお使いのP2機器、もしくはP2 Viewer Plusにて行ってください。



SD / SDHC / SDXCメモリーカードのご使用について

本機で使用するSD / SDHC / SDXCメモリーカード*¹は、SD / SDHC / SDXC*³規格に準拠したものをお使いください。SD / SDHC / SDXC以外のメモリーカード(マルチメディアカード*²など)は使用できません。

*¹ SDHCメモリーカードは、2006年にSDアソシエーションにより策定された、2 GBを超える大容量メモリーカードの新規格 (version2.0)です。

*² マルチメディアカード(MMC)は、InfineonTechnologies AG社の登録商標です。

*³ SDXCメモリーカードは、2009年にSDアソシエーションにより策定された、32 GBを超える大容量メモリーカードの新規格 (version3.0)です。

- miniSD / miniSDHC、microSD / microSDHC / microSDXCカードを本機で使用する場合は、必ず、専用のアダプターを装着してご使用ください。(アダプターのみを本機に挿入すると正常に動作しません)
AVCHD再生モードでは、miniSD / miniSDHCメモリーカード、microSD / microSDHC / microSDXCメモリーカードを専用のアダプターに装着しても、本機では正常に動作しませんのでお気をつけください。
- フォーマットは、必ず本機で行ってください。
- 本機では、以下の容量のSD / SDHC / SDXCメモリーカードが使用できます。

SD(8 MB ~ 2 GB まで)

SDHC(4 GB ~ 32 GB まで)

SDXC(32 GB超)

当社製のSD / SDHC / SDXCメモリーカードおよびminiSD / miniSDHCカード、microSD / microSDHC / microSDXCカードをご使用いただくことをお勧めします。

◆NOTE:

AVCHDオプションを使用する場合は、「AVCHD再生モード」(→70 ページ)もご確認ください。

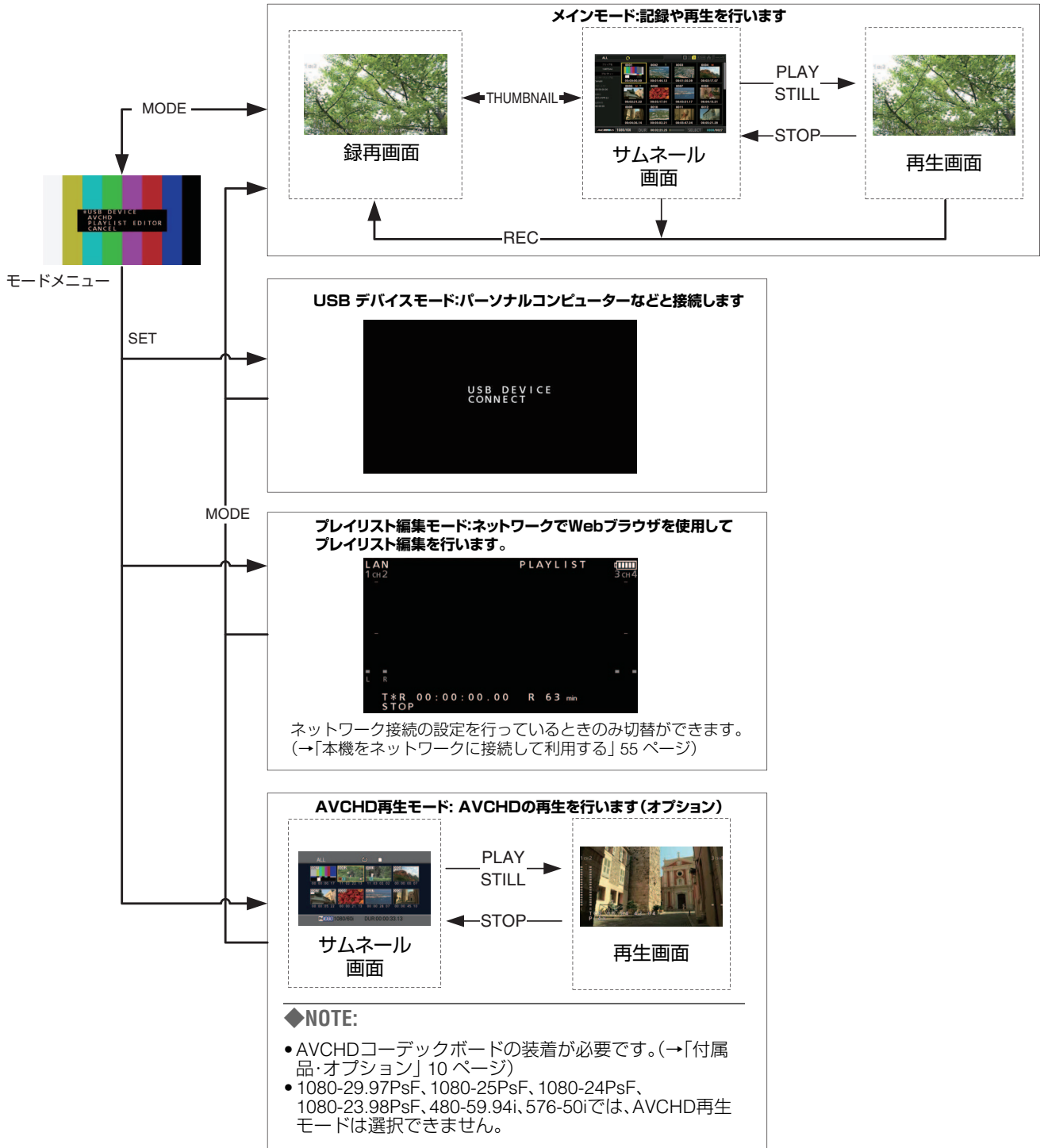
- 本機や、本機で使用可能なメモリーカードについての最新情報はWebサイトより、P2のサポートページをご覧ください。
URLについては(→「WebサイトURLについて」2 ページ)をご覧ください。

各種モードについて

本機には、メインモード、USBデバイスモード、AVCHD再生モード、プレイリスト編集モードの4種類のモードがあります。これらのモードは、[MODE]ボタンを押すと表示されるメニュー項目で、選択・切り替えができます。また、メインモードにはクリップのサムネイルなどの表示・管理およびクリップの再生を行う「サムネイル画面」と記録・再生を行う「録再画面」があります。

各モードおよび画面の概要は、下図の通りです。

- **録再画面:** 映像表示、タイムコードなどの表示、記録・再生操作を行います。
- **サムネイル画面:** クリップのサムネイルや各種プロパティなどの表示、およびクリップの管理と再生を行います。



メインモード

録再画面

録再画面では以下のことが行えます。

- P2カードへの記録
- 全カードの記録日時順の再生

クリップを記録する

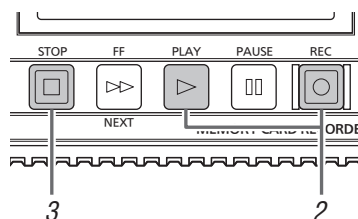
映像と音声をクリップとして記録します。

クリップの記録

記録する前にメニューで記録する周波数やフォーマット、記録するスロットおよび入力信号などを設定します。
(→設定メニュー「SYSTEM MODE」111 ページ、「REC/PB」91 ページ)

◆NOTE:

オーディオの入力にアナログを選択した場合は、音声ファイルは8チャンネル(フォーマットにより4チャンネルの場合もあります)作成されますが、CH1,CH2以外には無音が記録されます。



1 P2カードを挿入する

2 [REC] [] ボタンを押しながら [PLAY] [] ボタンを押す

P2カードアクセスランプがオレンジ色に点灯しているスロットに、記録を開始します。

◆NOTE:

- メニュー「DUAL CODEC SETUP」-「CODEC USAGE」(→93 ページ)を「PROXY REC(P2)」または「PROXY REC(P2&SD)」に設定して記録することにより、本素材の記録と同時にプロキシ記録を開始します。(→「デュアルコーデック(プロキシ)記録」26 ページ)
- メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」かつ REMOTEの場合は記録はできません。

3 [STOP] [] ボタンを押して記録を停止する

◆NOTE:

本機のP2メモリーカードスロット(1,2)とmicroP2メモリーカードスロット(3,4)の混在した記録はできません。メニュー「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」(→92 ページ)で記録対象のスロットを選択してください。

■ 記録音声レベル調整について

次の方法で記録する音量レベルの変更ができます。

1. [AUDIO LEVEL-REC]ボタンを押す

記録ボリュームが表示されます。

2. マルチコントロールダイヤルを回す

全チャンネルのレベルが操作できます。

◆NOTE:

[上] / [下]カーソルボタンでも操作できます。

3. [左] / [右]カーソルボタンで音声チャンネルを個別に選択する

選択したチャンネル番号が点滅し、チャンネルごとに操作ができます。

4. 調整を終了後、[AUDIO LEVEL - REC]ボタンまたは [EXIT]ボタンを押す

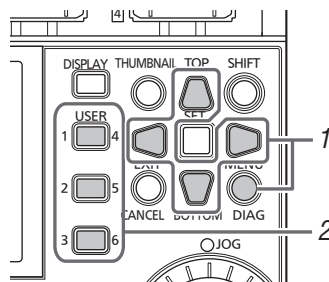
設定値を保存し、表示が消えます。

◆NOTE:

- 設定した値は、電源を切っても変わりません。
- 音声レベルの変更中に[RESET]ボタンを押すと基準値に戻すことができます。

■ 記録スロットの変更について

記録中または停止中に記録対象のスロットを変更することができます。



1. メニュー「USER BUTTON」(→105 ページ)で、 [USER] ボタンに「SLOT SEL」機能を割り当てる

2. 記録中または停止中に、[USER] ボタンを押す。

押すたびに記録スロットが変更されます。

◆NOTE:

- 記録対象のP2カードに切り替えを行った直後などでSLOT SELECTが行えなかった場合は、メニュー「OSD TC SELECT」(→102 ページ)を「T&S&M」に設定しているときに、OSDの3行目に「SLOT SEL INVALID」と表示します。
- SLOT SEL機能で切り替わるスロットは、メニュー「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」(→92 ページ)で選択されたスロット内に限定されます。

さまざまな記録

■ ホットスワップ記録

メニュー「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」(→92 ページ)で指定された2つのP2メモリーカードスロットまたはmicroP2メモリーカードスロットの両方にP2カードを装着すれば、2枚のカードにわたって連続記録することができます。また、1枚を記録中にもう片方のカードを差し替えて、3枚以上のカードに連続記録することもできます(ホットスワップ記録)。

◆NOTE:

- 空きスロットにP2カードを挿入するタイミング(2つのスロットにわたって連続記録するときの前後)によって、P2カードの認識が遅くなり、ホットスワップ記録ができない場合があります。P2カードを挿入する際は、現在記録中のカードの残量が1分以上の状態で行うことを推奨します。
- 本機はホットスワップ再生に対応していません。

■ LOOP REC

P2メモリーカードスロットまたはmicroP2メモリーカードスロットに2枚のP2カードが挿入されているとき、順次記録対象カードを切り替えながら連続記録する機能が「LOOP REC」です。P2カードの記録残量がなくなった時点で最初に戻って、古い記録を消去しながら新規に記録を行うことにより、継続的な記録が可能となります。

LOOP REC機能を使用するには、メニュー「RECORDING」(→91 ページ)にて「LOOP」を選択してください。

◆NOTE:

- LOOP RECには、1分以上の記録残量があるP2カードをご使用ください。
- LOOP REC中は、記録に使用するP2カードのP2カードアクセスランプが、すべてオレンジ色に点灯します。これらのP2カードを抜くと、LOOP RECは停止しますのでお気をつけください。
- LOOP RECはメニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)が次の値に設定されているときは記録できません。
 - 1080-23.98PsF
 - 1080-24PsF
 - 1080-25PsF
 - 1080-29.97PsF
- LOOP RECはメニュー「REC FORMAT」(→111 ページ)が次の値に設定されているときは記録できません。
 - AVC-I200

メニュー「RECORDING」にて「LOOP」を選択しているときは

- OSDの2行目に「LOOP」と表示されます。ただし「RECORDING」にて「LOOP」を選択しているときでも、カードが1枚しか挿入されていなかったり、カードの記録残量が1分未満の場合、LOOP RECは機能しません。この場合、OSDの「LOOP」表示が点滅します。
- P2カード残量は記録フォーマットに応じた標準的な記録保証時間を表示します。古い記録を消去した直後にLOOP RECを停止した場合、実際の残量は表示された時間より少なくなることがあります。
- プロキシ記録はできません。

LOOP REC中は

- ショットマークの付加、削除はできません。また、テキストメモの付加はできません。

LOOP RECモードを解除するには

- メニュー「RECORDING」にて「NORMAL」を選択する。

■ AUTO REC

本機能に対応したカメラとHD SDIで接続しているときに、カメラのREC START / STOPに連動して自動的に記録を開始・停止させることができます。

1. メニュー「AUTO REC」(→91 ページ)を使用するカメラに合わせる
2. 本機の[REC]  ボタンと[PAUSE]  ボタンを同時に押しREC PAUSEモードにする
3. [REMOTE] ボタンを押し、REMOTEにする
カメラのREC START / STOPに連動して記録・停止を繰り返します。

◆NOTE:

LOOP REC機能とは併用できません。

■ SIMUL REC

P2メモリーカードスロットまたはmicroP2メモリーカードスロットに2枚のP2カードが挿入されているとき、同じ映像を2枚のP2カードに記録する機能です。

SIMUL REC機能を使用するには、メニュー「SIMUL REC」(→91 ページ)にて「ON」を選択してください。

◆NOTE:

- メディア残量表示には、SIMUL RECができる残量時間(記録残量が少ないほうのメモリーカード残量時間)が表示されます。
- 各スロットどちらかのP2カードの記録残量がなくなった場合、SIMUL RECを停止します。
- SIMUL RECは、メニュー「REC FORMAT」(→111 ページ)が「AVC-I100」で、かつメニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)が「1080-59.94P」または「1080-50P」に設定されているときは記録できません。
- SIMUL RECは、メニュー「REC FORMAT」(→111 ページ)が「AVC-I200」に設定されているときは記録できません。
- SIMUL REC中にどちらかのP2カードに記録異常が発生し、記録が停止した場合、もう一方のP2カードは継続して記録します。ただし、アクセス中にカードを抜いた場合は記録を終了します。
- P2カードが2枚とも認識されてから記録を開始してください。P2カードが2枚とも認識される前に記録を開始した場合は、認識されたどちらか1枚のP2カードで通常記録を行います。その場合、記録の終了後にカードの状態を確認しますので、その時点で2枚を認識すればSIMUL RECを行います。

メニュー「SIMUL REC」にて「ON」を選択しているときは

- OSDの2行目に「SIMUL」と表示されます。ただし、「SIMUL REC」を「ON」に設定しているときでも、カードが1枚しか挿入されていなかった場合はSIMUL RECは機能しません。この場合、OSDの「SIMUL」表示が点滅します。
- 「SIMUL」表示が点滅しているときに記録ボタンを押すと、記録残量のあるP2カードに通常記録を行います。

SIMUL RECモードを解除するには

- メニュー「SIMUL REC」にて「OFF」を選択する。

デュアルコーデック(プロキシー)記録

本機で撮影した本素材の映像・音声記録とは別に、MPEG4形式またはH.264形式の映像とタイムコードデータなどのリアルタイムデータを、P2カードおよびSDメモリーカードに同時に記録します。

(→メニュー「DUAL CODEC SETUP」93 ページ)

■ 記録モードと記録信号(ビデオ、オーディオ)

記録モード	ビデオ			オーディオ		
	解像度	コーデック	ビットレート	コーデック	チャンネル数	1チャンネルあたりのビットレート
STD 2CH MP4	320 × 240 (QVGA)	MPEG-4 Simple Profile	1500 kbps	AAC-LC	2CH	64 kbps
LOW 2CH MOV	1080iモード 480 × 270 1080 60/50pモード 320 × 180	H.264 Baseline Profile	800 kbps	AAC-LC	2CH	64 kbps
HQ 2CH MOV	640 × 360	H.264 High Profile	1500 kbps	AAC-LC	2CH	64 kbps
HQ 4CH MOV	640 × 360	H.264 High Profile	1500 kbps	AAC-LC	4CH	64 kbps
SHQ 2CH MOV	960 × 540	H.264 High Profile	3500 kbps	リニアPCM	2CH	768 kbps
AVC-G6 2CH MOV	1080iモード 1920 × 1080 720pモード 1280 × 720	H.264 High Profile	6 Mbps	AAC-LC	2CH	64 kbps

■ プロキシーデータの記録

メニュー「DUAL CODEC SETUP」-「CODEC USAGE」(→93 ページ)を「PROXY REC(P2)」または「PROXY REC(P2&SD)」に設定して、「REC」 ボタンを押しながら「PLAY」 ボタンを押すことにより、本素材の記録と同時にプロキシー記録を開始します。

- 記録されたプロキシーデータの詳細情報を、クリップのプロパティから確認することができます。
(→「クリップメタデータ情報の表示」39 ページ)
- プロキシーデータは、映像音声ファイルとリアルタイムメタデータファイルとして、P2カードやSDメモリーカードに記録されます。

映像音声ファイル:

*****.MP4 または、*****.MOV

リアルタイムメタデータファイル:*****.BIN
フレーム単位にタイムコード、ユーザーズビット、UMID情報を記録します。

◆NOTE:

- 次のモードのときは、デュアルコーデック記録はできません。
 - LOOP REC
 - SIMUL REC
 - 480-59.94i、576-50iのとき
 - メニュー「REC FORMAT」で「AVC-I200」を選択しているとき
 - メニュー「LINE&FREQ」で「PsF」を選択しているとき
 - メニュー「FILE SPLIT」で「ONE FILE」を選択しているとき
- メニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)で「1080-59.94i」、
「1080-50i」、
「720-59.94P」、
「720-50P」に設定されているときのみ、「AVC-G6 2CH MOV」を選択できます。
- メニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)で「720-59.94P」または

「720-50P」に設定されているときは、「STD 2CH MP4」、「LOW 2CH MOV」、「HQ 4CH MOV」は選択できません。

- メニュー「REC FORMAT」(→111 ページ)で「DVCPRO HD」または「AVC-G12」、「AVC-I50」に設定している場合は、「AVC-G6 2CH MOV」は記録できません。
- 「AVC-G6 2CH MOV」および「720-59.94P」、「720-50P」の場合はTC SUPERは記録されません。
- プロキシー記録をする場合は、class2 以上のクラス表示があるSDメモリーカード、SDHCメモリーカードまたはSDXCメモリーカードをご使用ください。プロキシーデータの記録フォーマットが「SHQ 2CH MOV」または「AVC-G6 2CH MOV」の場合は、class4以上のカードをご使用ください。
- プロキシーデータをSDメモリーカードに記録中は、SDメモリーカードアクセスランプが、緑色に点灯します。
- 短い記録を繰り返すと、記録できる時間が空き容量に比べ大きく減少することがあります。
- メニュー「SD CARD PROPERTY」(→108 ページ)の「NUMBER OF CLIP」で、SDメモリーカードに記録されているクリップ数を確認します。クリップ数が1000以上になると、容量が残っていてもSDメモリーカードにプロキシーデータを記録することができません。
- SDメモリーカード内のクリップには、ショットマーク、およびテキストメモを付けることができません。
- サムネール画面で、P2 カードに記録されたクリップを削除しても、SDメモリーカードに記録されたプロキシーデータは削除されません。
- メニュー「CONT. REC」(→91 ページ)が「ON」に設定されているときは、以下の記録ができません。
 - 1080-59.94Pおよび1080-50Pでのプロキシー記録
 - AVC-G12およびDVCPRO HDでのプロキシー記録
 - STD 2CH MP4およびHQ 4CH MOVのプロキシー記録
 - TC SUPERの記録

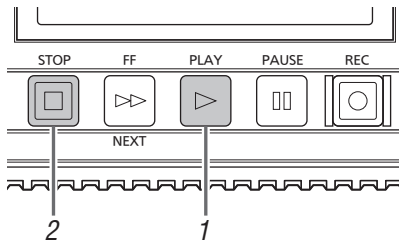
■ プロキシデータの確認

- プロキシデータの記録を行った素材のクリップには **P** のインジケータが表示されます。
- プロキシデータは、P2 Viewer Plusで確認してください。P2 Viewer Plusのバージョンによっては確認できない場合があります。P2 Viewer Plusに関する情報は当社Webサイトをご覧ください。(→「WebサイトURLについて」2ページ)
- プロキシデータは、本機では再生できません。

クリップを再生する

再生する




再生する前に、メニューで再生する周波数やフォーマットなどを設定します。(→設定メニュー「SYSTEM MODE」111ページ)



1 [PLAY] ボタンを押す

再生が始まります。再生はクリップの記録順に再生されます。

◆NOTE:

- [PLAY]  ボタンの代わりに、[REW]  ボタンを押すと早戻し再生、[FF]  ボタンを押すと早送り再生を行います。
- 異なった映像フォーマット(1080i、1080pなど)や異なった圧縮記録フォーマットを再生すると、クリップとクリップの間で映像、音声が入乱れることがあります。
- 同じフォーマット映像で音声ビット数が異なったクリップを連続再生すると、クリップ間の音声がミュートになります。

2 [STOP] ボタンを押す

再生が停止し入力画(EE)が表示されます。

◆NOTE:

停止時の画面を停止した位置の画(PB画)にするにはメニュー「STOP EE SEL」(→92ページ)を「PB」にしてください。

■ 再生音声レベル調整について

次の方法で再生レベルの変更ができます。

1. [AUDIO LEVEL-PB]ボタンを押す
再生ボリュームが表示されます。
2. マルチコントロールダイヤルを回す
全チャンネルのレベルが操作できます。

◆NOTE:

[上] / [下]カーソルボタンでも操作できます。

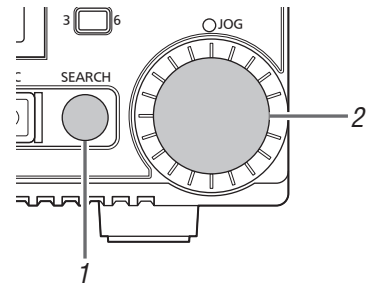
3. [左] / [右]カーソルボタンで音声チャンネルを個別に**選択する**
選択したチャンネル番号が点滅し、チャンネルごとに操作ができます。
4. **調整を終了後、[AUDIO LEVEL - PB]ボタンまたは[EXIT] ボタンを押す**
設定値を保存し、表示が消えます。

◆NOTE:

- 設定した値は、電源を切っても変わりません。
- 音量レベルの変更中に[RESET]ボタンを押すと基準値に戻すことができます。

可変速再生


再生速度を変えて、場面を探すことができます。



- 1 STOP/STILL/PLAY中に[SEARCH]ボタンを押す
STILL (SHTL 0.0)になり、静止画が出力されます。

2 マルチコントロールダイヤルを回し再生速度を変更する

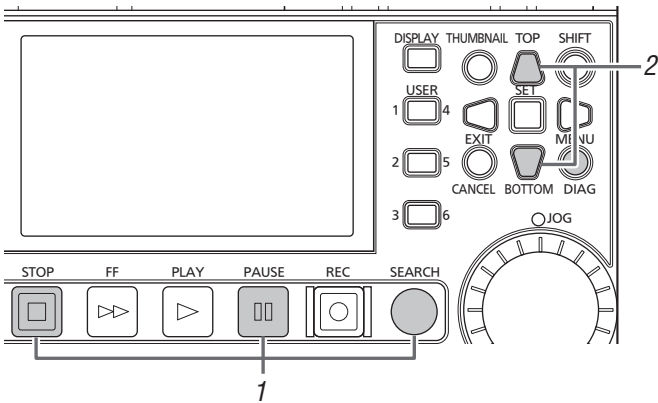
ダイヤルを回す量により速度が変わります



- 10倍速より速い速度では音声は再生されません。また、AVC-Intra200や1080Pおよび1080PsFのときは、4倍速より速い速度では音声は再生されません。
- 時計方向に回すと正方向に速度を変化させ、時計方向とは逆に回すと逆方向に速度を変化させます。
- [PAUSE]ボタンを押すと速度0状態になります。通常の再生に戻すには、[PLAY]  ボタンを押します。
- 可変速再生モードにて、マルチコントロールダイヤルを押すとJOGランプが点灯し、JOGモードとなります。回す速度に応じて可変速再生を行います。

◆NOTE:


59.94p、50pの逆方向1倍速再生については、再生が一時停止することがありますが故障ではありません。

コマ送り再生




1 [PAUSE]  ボタン、[SEARCH] ボタン、[STOP]  ボタン（「STOP EE SEL」-「PB」設定時）を押して、静止画状態にする

2 [上] / [下] カーソルボタンを押す

- [上]カーソルボタンで正方向に、[下]カーソルボタンで逆方向にコマ送りします。
- カーソルボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。通常の再生に戻すには、[PLAY]  ボタンを押します。

単一クリップ再生(1クリップ再生)

1 メニュー「USER BUTTON」で、[USER] ボタンに「1 CLIP PLAY」機能を割り当てる
（→設定メニュー「USER BUTTON」105 ページ）

2 サムネール表示中またはサムネール表示画面から [PAUSE]  ボタンを押して、静止画状態のときに「1 CLIP PLAY」を割り当てた [USER] ボタンを押す

- カーソル位置または現在位置のクリップのみ再生します。
- この再生中はSTOPのみ有効です。

◆NOTE:

[SHIFT] ボタンを押しながら [PLAY]  ボタンを押したときも、単一クリップ再生を行います。

クリップおよびテキストメモ送り/ 戻し

1 再生、静止画中等映像が出ている状態にする

2 [PREV] ボタンまたは [NEXT] ボタンを押す
メニュー「SEEK POS SEL」(→92 ページ) の設定値に従い、クリップ先頭やテキストメモ位置に移動します。


リピート再生

再生可能なクリップを繰り返して再生します。


1 [MENU] を押す

2 メニュー「REPEAT PLAY」(→91 ページ) を「ON」に設定する

3 メニューを閉じる

4 [PLAY]  ボタンを押して再生を始める。

すべてのクリップを繰り返し再生します。

- [STOP]  ボタンが押されるまで、繰り返し再生を行います。
- 可変速再生など、通常再生以外の動作では、繰り返し再生を行わず、再生可能なクリップの始端 (BOS) または終端 (EOS) で停止します。
- リピート再生時は、OSD の動作状態に「REPEAT PLAY」と表示されます。

クリップセレクト再生

1つのクリップのみの再生を固定遅延で行います。

1 任意の [USER] ボタンに「CLIP SELECT」または「CLIP SELECT OFF」を割り当てる

2 サムネール画面を表示する

3 再生したいクリップにカーソルを合わせる

4 「CLIP SELECT」を割り当てた [USER] ボタンを押す

クリップの先頭もしくはサムネール位置*1で頭出しを行います。再生方法は通常の場合と変わりませんが、固定遅延による再生が可能になります。再生を行うと、OSD に「S」表示とともに選択したクリップのスロット番号が表示されます。クリップセレクト中は、「STOP EE SEL」の設定にかかわらず再生モードとなります。

*1 メニュー「CLIPSEL MODE」の設定値によります (→96 ページ)

5 [PLAY]  ボタンを押す

再生が開始されます。

◆NOTE:

- クリップセレクト機能は、メニュー「LINE&FREQ」の周波数が 50 Hz、59.94 Hz の設定のときのみ有効になります。
- メニュー「VDCP CMD」が「ON」の場合は、クリップセレクト機能は無効になります。
- ストレージ内部のクリップはクリップセレクトできません。
- AVCHD 再生モードでは、クリップセレクト機能は無効です。

- 固定遅延状態で、USB やeSATA、LAN ケーブルを抜き差し後すぐに再生を開始すると、映像が途切れたり固定遅延にならない場合があります。
- クリップセレクト状態では、記録、プレイリスト、サムネール画面、デバイス切り替えなど使えない機能があります。
- クリップセレクト中は、「CLIP SELECT」を割り当てた [USER] ボタンを押した後、PLAY ボタンを押して再生が開始されるまでの時間は、常に同じ遅延時間となります。(固定遅延)
- クリップセレクト中に「CLIP SELECT」を割り当てた [USER] ボタンを押した後、負方向再生をした場合は、1 フレーム正方向に再生後、負方向動作することありますが異常ではありません。
- クリップセレクト中にP2カードを挿入すると、P2カードは認識されます。BACKGROUND FTPサーバーサービスがENABLE設定時は、STILLを除く特殊再生は無効となります。

クリップセレクトの解除

1 「CLIP SELECT OFF」を割り当てた [USER] ボタンを押す

◆NOTE:

- クリップセレクト状態の解除は再生停止状態からのみ行えます。
- クリップセレクト状態で [STOP] ボタンを押して停止したり、クリップセレクトを解除しても、サムネール画面に戻りません。

サムネイル画面

本機にはクリップを管理するためのサムネイル画面があります。「クリップ」とは、画像、音声、メタデータなどの付加情報を含む、ひとかたまりのデータのことです。通常は記録を開始して停止するまでの、1回の記録によって生成される「1ショット」が「1クリップ」になります。複数のP2カードにまたがったショットについても単一クリップとして扱われます。

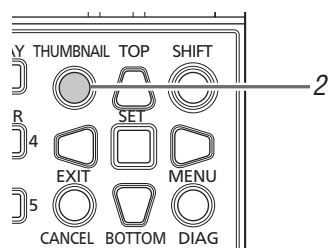
サムネイル画面には、各クリップに記録されたサムネイルが一覧表示されます。このサムネイルを確認しながら、以下の操作を行ってクリップを管理できます。

- P2カードのクリップの再生
- ストレージデバイス内のクリップの簡易再生
- クリップのコピーや削除
- クリップにテキストメモを付加
- テキストメモの確認と削除
- ショットマークの表示と消去
- P2カードのフォーマット
- クリップのプロパティ表示
- P2カードの状態表示

◆NOTE:

- サムネイルは、実際の映像の一部成分から生成されています。そのため実際の映像より荒いものとなります。
- サムネイルに関するメニューはサムネイル画面のときに操作できます。

サムネイル画面を表示する



1 本機の[ON/OFF] ボタンを押し、電源をONにする

◆NOTE:

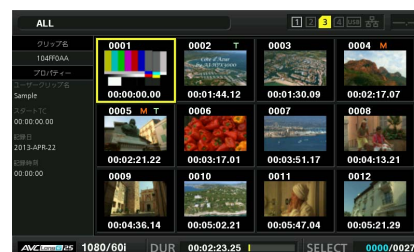
メニュー「POWER ON GUI」(→96 ページ)で「THUMBNAIL」を選択している場合は、電源を入れるとサムネイル画面が表示されます。

2 [THUMBNAIL] ボタンを押す

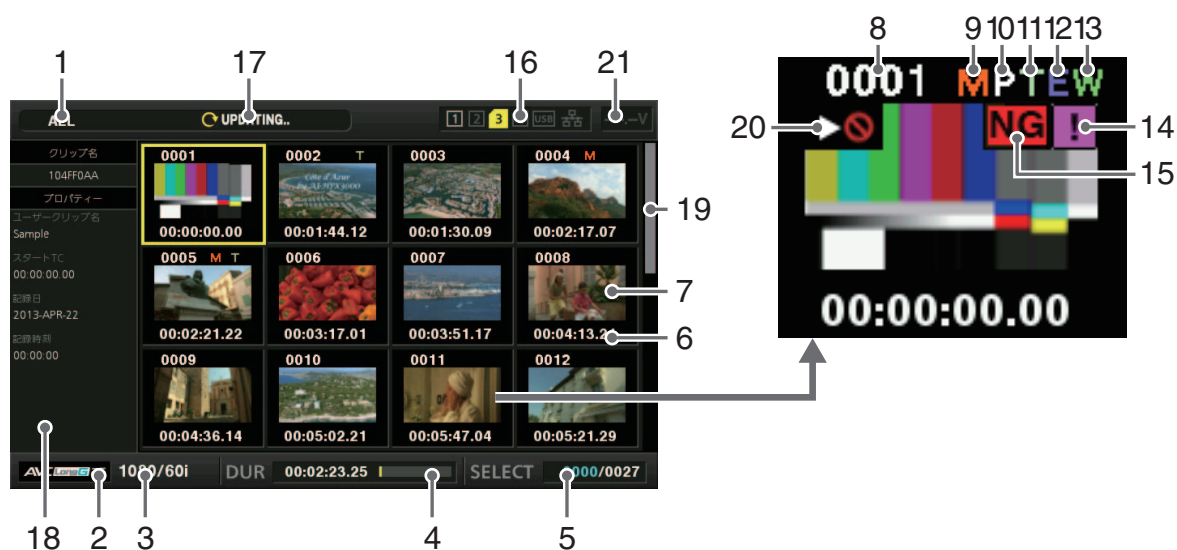
液晶モニターにサムネイル画面が表示されます。再度[THUMBNAIL] ボタンを押すとサムネイル画面が閉じ、録再画面表示(ビデオ映像)となります。

◆NOTE:

メニュー「GUI OUTPUT」(→102 ページ)の設定で、VIDEO OUTやSDI MON OUT、HDMI OUT、SDI OUTなどに出力することができます。



サムネール画面の各部の名称とはたらき



1. 表示状態

画面に表示されている情報の種類が、以下のように表示されます。

ALL:	すべてのクリップ
SAME FORMAT:	システムフォーマットと同じフォーマットのクリップ
SELECT:	[SET]ボタンで選択したクリップ
MARKER:	ショットマークが付加されたクリップ
TEXT MEMO:	テキストメモデータが付加されたクリップ
SLOT n:	n番スロットのP2カード内のクリップ
NG CLIP:	NGインジケーターが付加された不良クリップ
P2 / REMAIN:	メディア情報(残量表記)
P2 / USED:	メディア情報(使用量表記)
META DATA:	設定されたメタデータ
NG CLIP:	不良クリップ

表示の切り替え方法

(→「サムネール画面の表示の変更」33 ページ)

2. 記録モード

カーソル位置のクリップの記録モードが表示されます。

3. システムフォーマット

カーソル位置のクリップの記録フォーマットが表示されます。

4. デュレーション

カーソル位置のクリップの長さ(デュレーション)とクリップの長さに対して現在の概略再生位置が表示されま

再生位置表示は、メニュー「PB POSITION」(→89 ページ)で、「RESUME」が選択されているときに有効です。再生開始位置が先頭でない場合に、概略の再生位置がわかります。

5. クリップ選択数・再生時間表示

選択されたクリップの数や表示しているクリップの再生時間などが表示されます。
(→「クリップ数・再生時間表示の設定」33 ページ)

6. クリップ情報表示

クリップの記録開始時のTC(タイムコード) / UB(クリップの記録開始時のユーザーズビット) / 撮影時刻 / 撮影日 / 撮影日時 / クリップ名 / ユーザークリップ名 / スロット番号のいずれかが表示されます。
(→「サムネール画面の表示の変更」33 ページ)

7. サムネール

各クリップに記録されたサムネールを表示します。このサムネールはEXCH.THUMBNAIL機能を使用して変更をすることができます。
(→「サムネール画面の表示の変更」33 ページ)

8. クリップ番号

通常は記録日時が早い順に、P2カード上のクリップに割り当てた番号が表示されます。再生できないクリップは、クリップ番号が赤色になり、再生不可インジケーターが表示されます。表示順は選択順クリップ表示やSORT機能を使用して変更をすることができます。
(→「サムネール画面の表示の変更」33 ページ)

9. M ショットマークインジケーター

ショットマークが、付加されたクリップに表示されます。

10. **P** プロキシインジケータ

プロキシデータが、付加記録されているクリップに表示されます。

11. **T** テキストメモインジケータ

テキストメモデータが、付加されているクリップに表示されます。

12. **E** エディットコピーインジケータ

エディットコピーしたクリップなどに表示されます。

13. **W** ワイドインジケータ

16:9の画角で記録されたクリップに表示されます。ただしHDフォーマットのクリップのときは表示されません。

14. **I** 不完全クリップインジケータ

複数のP2カードにまたがって記録されているにもかかわらず、そのうちのいずれかのP2カードが、P2カードスロットに挿入されていないときなどに表示されます。

15. **NG/NG** 不良クリップ・**?** 不明クリップインジケータ

記録中に電源が切れるなどの原因で、記録に不具合のあるクリップに表示されます。黄色の不良クリップインジケータ(**NG**)が表示されたクリップは、修復が可能な場合があります。

(→「不良クリップの修復」39 ページ)

赤色の不良クリップインジケータ(**NG**)が表示されたクリップは、修復できませんので削除してください。削除できないときは、P2カードをフォーマットしてください。P2規格のフォーマットなどが異なるクリップのときは、**NG**の代わりに**?**が表示されます。

◆NOTE:

プロキシのみのクリップ(クリップをSDカードスロットのカードへコピーしたり、FTP(PROXY)でコピーしたクリップ)はAVデータがないため不良クリップとして表示されます。「P.Only」と表示されます。

16. P2カードスロット・ストレージデバイスおよびLANの状態表示

P2カード、ストレージデバイスおよびLANの接続の状態が、以下のように表示されます。



NG (黄色) 挿入されたP2カードに修復できる可能性がある不良クリップが1つでも含まれている場合に表示されます。
詳しくは「15. **NG/NG** 不良クリップ・**?** 不明クリップインジケータ」(このページ)を参照してください。

NG (赤色)

挿入されたP2カードに修復できない不良クリップが1つでも含まれている場合に表示されます。

詳しくは「15. **NG/NG** 不良クリップ・**?** 不明クリップインジケータ」(このページ)を参照してください。

1~**4** (白色)

P2カードが挿入されているP2カードスロット番号が白色で表示されます。

3 (黄色)

カーソル位置のクリップが記録されているP2カードのP2カードスロット番号が、黄色で表示されます。クリップが複数のP2カードにまたがって記録されているときは、そのクリップが記録されたカードのスロット番号すべてが表示されます。

◆NOTE:

挿入されたP2カードが以下のような場合に、枠が赤色になります。

- 「RUNDOWN CARD」
P2カードの規定の書き替え回数を超えた場合
- 「DIR ENTRY NG CARD」
P2カードのディレクトリー配置が不正規な場合
- 「AUTH NG CARD」
CPSパスワードが認証できないmicroP2メモリーカードの場合



(灰色)

ストレージデバイスが非接続のとき、灰色で表示されます。



(白色)

ストレージデバイスが使用可能のとき、白色で表示されます。



(黄色)

ストレージデバイスのクリップがサムネール表示されているとき、黄色で表示されません。



(赤色)

ストレージデバイスが接続されているが、使用可能な状態でないときに赤色で表示されます。



(灰色)

LANの設定がOFFになっているとき、灰色で表示されます。



(白色)

LANの設定がONになっているとき、白色で表示されます。



(黄色)


LANケーブルが挿入されLINKしているとき、黄色で表示されます。



(赤色)

本機に異常があるときは、赤色で表示されます。故障が考えられますのでお買い上げ販売店にご相談ください。

17. 状態メッセージ

処理状態を示すメッセージが表示されます。たとえば、画面更新中には「UPDATING」の文字と回転するアイコンが表示されます。

18. 簡易プロパティ表示

カーソル位置のクリップの各種プロパティを表示します。メニュー「THUMBNAIL SIZE」(→89 ページ)が「SMALL」設定時に表示します。表示する項目はメニューから選択できます。(→「プロパティ表示する項目の設定」34 ページ)

◆NOTE:

表示できる文字数以上の文字がある場合はすべて表示されずに表示可能な文字のみを表示します。

19. サムネールスクロールバー

現在表示しているサムネールが、サムネール全体のどの辺りかを示します。

20. 再生不可インジケータ

クリップがシステム周波数と異なるなど再生できない場合に表示されます。

21. DC入力電圧値表示

メニュー「EXT DC IN SELECT」(→103 ページ)が「DC PWR SUPPLY」以外に設定されているとき、入力電圧値を表示します。

「DC PWR SUPPLY」以外に設定したときは、AC電源入力でもDC電圧値を表示します。

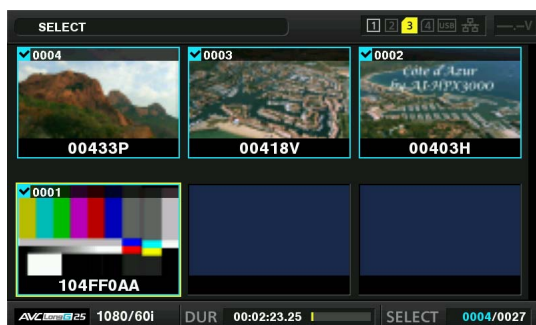
サムネール画面の表示の変更

使用状況に応じてサムネール画面をカスタマイズし、効率よく操作を行うことができます。

<例>

- メニュー「THUMBNAIL SETUP」(→89 ページ)を以下のよう
に設定します。
「INDICATOR」を「ALL HIDE」に設定
「DATA DISPLAY」を「CLIP NAME」に設定
「THUMBNAIL SIZE」を「LARGE」に設定
- メニュー「REPOSITION」(→87 ページ)を「SELECTED
CLIPS」に設定します。

サムネール画面表示例



◆NOTE:

サムネールの出力先はメニュー「GUI OUTPUT」(→102 ページ)で切り替えることができます。

表示するサムネールの設定

1 カーソルボタンでメニュー「REPOSITION」(→87 ページ)の下にある、表示したいクリップの種類にカーソルを合わせる

2 [SET] ボタンを押す

表示するサムネールの大きさ設定

1 カーソルボタンで、メニュー「THUMBNAIL SIZE」(→89 ページ)にて、表示したいサムネールの大きさにカーソルを合わせる

2 [SET] ボタンを押す

クリップ情報表示の設定

用途に合わせて、クリップ情報の表示内容をカスタマイズできます。

1 カーソルボタンで、メニュー「DATA DISPLAY」(→89 ページ)にて、設定したい項目にカーソルを合わせる

2 [SET] ボタンを押す

クリップ数・再生時間表示の設定

1 カーソルボタンでメニュー「THUMBNAIL INFO.」(→90 ページ)の下にある、表示したい情報の種類にカーソルを合わせる

2 [SET] ボタンを押す

プロパティ表示する項目の設定

サムネールの左側に表示される簡易プロパティ項目を設定します。

1 カーソルボタンで、メニュー「PROPERTY DISP.」(→90 ページ)にカーソルを合わせる

2 [SET] ボタンを押し項目メニューに入る
選択されている項目にはチェックマークが付いています。

3 [SET] ボタンを押し、表示したい項目にチェックを付ける

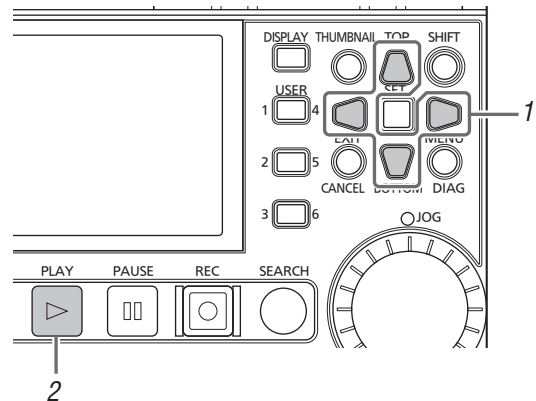
[SET] ボタンを押すと、未チェックの項目はチェックされ、チェック済みの項目はチェックが外れます。

◆NOTE:

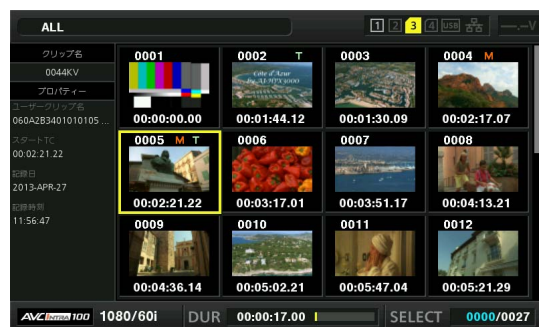
- 同時に表示できる項目数は最大6項目です。
- 6項目選択した段階で残りの未チェック項目はすべて選択不可となります。チェック済みの項目を未チェック状態に戻すことで再び項目の変更が可能になります。

クリップの再生

再生する



1 カーソルボタンで、再生したいクリップにカーソルを合わせる




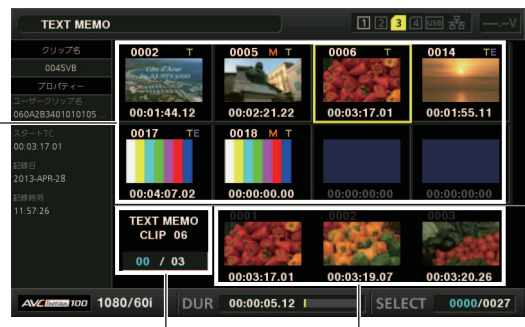
2 [PLAY] ボタンを押す

カーソルを合わせたクリップから、再生が始まります。カーソルを合わせたクリップの再生が終わると、それ以降のクリップが順に再生され、最後のクリップの再生が終わるとサムネール画面に戻ります。

◆NOTE:

- クリップを再生するときには、クリップを選択する(サムネールに水色の枠が表示された状態にする)必要はありません。
- サムネール表示設定を変更して、指定したスロットのクリップだけを再生したり、テキストメモが付加されたクリップだけを再生したりすることができます。
- クリップの再生順を変えることができます。
 - 1 再生したい順番にクリップを選択します。
 - 2 メニュー「REPOSITION」(→87 ページ)で「SELECTED CLIPS」を選択すると、サムネールの表示を選択したクリップのみ(選択した順)に切り替えることができます。
- [PLAY] ボタンの代わりに、[PAUSE] ボタンを押すと、クリップの先頭フレームの映像が静止画として表示されます。
- クリップ番号が赤色に表示されたクリップは、再生できません。
- [PLAY] ボタンの代わりに、[REW] ボタンを押すと早戻し再生、[FF] ボタンを押すと早送り再生が行えます。

- クリップの再生中に[STOP]  ボタンを押すと、再生を停止してサムネイル画面に戻ります。
- 再生を停止すると、カーソル位置は停止直前に再生していたクリップに移動します。
- 異なった圧縮記録フォーマットを再生すると、クリップとクリップの間で映像・音声が入乱れることがあります。
- 映像が同じフォーマットで音声ビット数が異なったクリップを連続再生すると、クリップ間で音声はミュートになります。
- サムネイル画面をテキストメモ表示に変更すると、テキストメモ位置からの再生を行うことができます。
- サムネイルから再生するときの再生開始位置は、メニュー「PB POSITION」(→89 ページ)で設定できます。





サムネイル表示部 テキストメモクリップの選択数(青色)と総数(白色)を表示 テキストメモが関連付けられた静止画像を表示

単一クリップを再生する(1クリップ再生)

[USER] ボタンに「1 CLIP PLAY」を割り当てている場合、[USER] ボタンを押すと、カーソル位置のクリップのみを再生することができます。(→「USER BUTTON」105 ページ)

◆NOTE:

- 単一クリップの再生終了後サムネイル画面に戻ったとき、カーソルは次のクリップに移動します。
- 単一クリップの再生中は、[STOP]  ボタン以外無効になります。
- 単一クリップの再生開始位置は、メニュー「PB POSITION」(→89 ページ)の設定に従います。
- サムネイル画面から再生を行い、JOG / SHTLで静止画を表示しているときに、「1 CLIP PLAY」を割り当てている[USER] ボタンを押すと、静止画の位置からクリップの最後まで再生することができます。
- [SHIFT]ボタンを押しながら[PLAY]  ボタンを押したときも、単一クリップ再生を行います。

可変速およびコマ送り再生などを行う


録再画面と操作は同じです。
(→「可変速再生」27 ページ、「コマ送り再生」28 ページ)

テキストメモ位置から再生する

1 メニュー「REPOSITION」(→87 ページ)で「TEXT MEMO CLIPS」を選択する

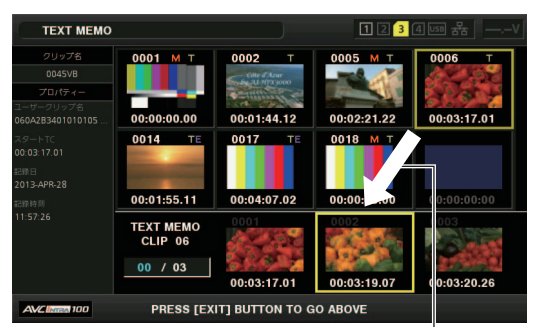
液晶モニター上段には、テキストメモが付加されたクリップのサムネイルが表示されます。液晶モニター下段には、カーソルで選択されているクリップのテキストメモに関する情報が表示されます。

◆NOTE:

- メニュー「SYSTEM MODE」(→111 ページ)での設定と異なるクリップでは、テキストメモクリップの表示時に、下段に表示されるテキストメモ位置のサムネイルが表示されずに  が表示される場合があります。


2 再生したいテキストメモのあるクリップにカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

カーソルが液晶モニター下段に移ります。




カーソルが移動します。

3 カーソルが下段にある状態のまま、[左] / [右] カーソルボタンで、カーソルを再生したいテキストメモのサムネイルに合わせ、[PLAY] ボタンを押す

カーソルが合わされたテキストメモのタイムコード位置から再生します。再生中に[STOP]  ボタンを押して止めたり、クリップの終端で再生が終了したりすると、サムネイル画面に戻り、再生を開始したテキストメモのサムネイルにカーソルは戻ります。[EXIT] ボタンを押すと、カーソルがサムネイル画面の上段に戻ります。

◆NOTE:

- 再生中は[STOP]  ボタン以外の操作は無効になります。

プレイリストを再生する

AJ-HPD2500などで作成したプレイリストを再生します。

◆NOTE:

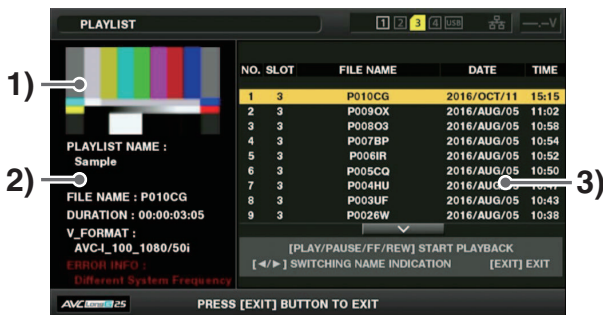
- プレイリストのイベントの長さは10フレーム以上にしてください。短いイベントが続くと正しく再生できないことがあります。
- AVC-LongGフォーマットのプレイリストは再生時に映像が止まったり音が途切れたりすることがあります。

1 メニュー[EXPLORE](→88 ページ)で「PLAYLIST」を選択する

プレイリスト画面が表示されます。

◆NOTE:

メニュー[POWER ON GUI](→96 ページ)で「PLAYLIST」を選択している場合は、電源を入れるとプレイリスト画面が表示されます。



1)プレイリストサムネール

先頭クリップのサムネール画像またはプレイリストに添付されているサムネール画像が表示されます。

2)プレイリスト情報

以下の情報が表示されます。

PLAYLIST NAME:	ユーザー定義のプレイリスト名
FILE NAME:	プレイリストのファイル名
DURATION:	プレイリストの長さ
V_FORMAT:	プレイリストの記録フォーマット
ERROR INFO:	プレイリストのエラー情報

◆NOTE:

プレイリストが読み込めない場合に表示されます。

3)プレイリスト一覧

[左] / [右]カーソルボタンでプレイリスト名とファイル名の表示を切り替えます。

2 再生したいプレイリストへカーソルを移動させる

3 再生ボタンなどを押す

ボタンに応じた再生を行います。

クリップの選択と解除

サムネール画面で操作を行うとき、操作の対象となるクリップを選択します。

クリップの選択

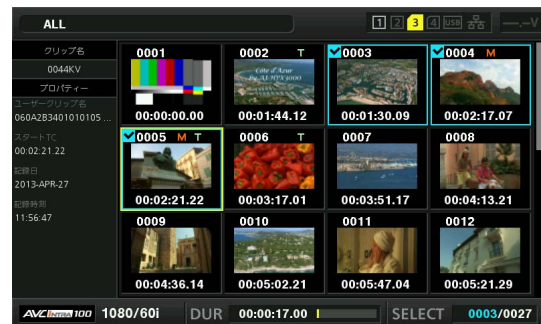
1 カーソルボタンで、黄色い枠(カーソル)を対象のクリップに合わせる

◆NOTE:

[TOP] / [BOTTOM] ボタンを押すと、カーソルを先頭クリップ / 最終クリップへ移動できます。

2 [SET] ボタンを押す

カーソルを合わせたクリップに水色の枠と✓が表示され、選択状態になったことを表します。



◆NOTE:

- 手順1～2の操作を繰り返すと、複数のクリップを選択できます。
- クリップを選択した後、別のクリップにカーソルを移動し、[SHIFT] ボタンを押しながら[SET] ボタンを押すと、直前に選択したクリップからカーソル位置までのクリップをまとめて選択できます。
- クリップを選択すると、選択数に応じて画面右下のクリップ選択数表示部の選択数が更新されます。

クリップの選択解除

1 選択状態のクリップにカーソルを合わせ、再度[SET] ボタンを押す

選択が解除されます。

◆NOTE:

[CANCEL] ボタンを押すと、選択状態のクリップを一括して選択解除できます。

テキストメモやショットマークを付加する

クリップの特定の箇所を区別するために、クリップにテキストメモを付加することができます。また、他のクリップと区別するために、クリップにショットマークを付加することができます。ただし、書き込み禁止スイッチがProtect側になっているP2カードのクリップには付加できません。

テキストメモを付加する

テキストメモを付加すると、テキストメモ位置のサムネールを表示して再生やコピーを行ったり、映像を再生中に[NEXT] / [PREV] ボタンを押して、テキストメモの位置にシーク(移動)することができます。

(→設定メニュー「SEEK POS SEL」92 ページ)

1 任意の[USER] ボタンに「TEXT MEMO」を割り当てる

出荷時はUSER3に割り当てられています。

(→設定メニュー「USER BUTTON」105 ページ)

2 記録・再生・サムネール表示中に「TEXT MEMO」を割り当てた[USER] ボタンを押す

- 記録・再生中にこのボタンを押すと、押したときの位置にテキストメモが付加されます。このときOSDに「TEXT MEMO」(成功時)または「INVALID」(付加できないとき)が表示されます。
- サムネール画面を表示中にこのボタンを押すと、クリップのサムネール(通常は先頭)の位置にテキストメモが付加されます。

◆NOTE:

- テキストメモは、1クリップに最大100個付加できます。
- 再生中に「TEXT MEMO」に設定した[USER] ボタンを押したときに、再生画が一瞬止まる場合がありますが故障ではありません。
- LOOP REC中は、テキストメモの記録はできません。

テキストメモを削除する

サムネール画面をテキストメモ表示に変更すると、テキストメモの削除を行うことができます。

1 サムネールをテキストメモ表示に変更する

メニュー「REPOSITION」(→87 ページ)で「TEXT MEMO CLIPS」を選択します。

2 カーソルボタンでテキストメモを削除するサムネールへ移動し、[SET] ボタンを押す

カーソルが下段に移ります。

3 削除したいテキストメモのサムネールで[SET] ボタンを押して選択した後に、メニュー「DELETE」(→88 ページ)で[SET] ボタンを押す

[USER] ボタンに「DELETE」を割り当てている場合は、メニュー選択の代わりに[USER] ボタンを押すことで削除をすることもできます。

4 確認メッセージで「YES」を選択する

テキストメモが削除されます。

ショットマークを付加する

ショットマークを付加すると、マーカが表示されるため他のクリップと区別することができます。

1 任意の[USER] ボタンに「MARKER」を割り当てる

出荷時はUSER6に割り当てられています。

(→設定メニュー「USER BUTTON」105 ページ)

2 カーソルボタンで、対象のクリップにカーソルを合わせる

3 「MARKER」を割り当てた[USER] ボタンを押す

ボタンを押すたびにショットマークインジケータの「ON」 / 「OFF」が切り替わります。

◆NOTE:

- 録再画面でもボタンを押した場所のクリップにショットマークは付加されます。
- 複数のP2カードにまたがるクリップに対してショットマークを付加または削除するときは、そのクリップが記録されたすべてのP2カードを挿入した状態で行ってください。
- LOOP REC中は、ショットマークの付加、削除はできません。

クリップをコピーする

クリップをP2カードやUSB接続のストレージデバイス、FTPサーバーにコピーできます。

◆NOTE:

- コピー中に電源をOFFにしたり、カードを抜き差ししたりしないでください。不良クリップができます。
- 不良クリップができてしまった場合は、クリップを削除してから、再度コピーを行ってください。
- 不完全クリップは連結した後でコピーしてください。

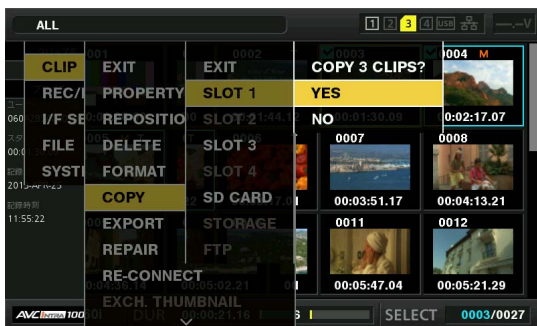
1 コピーするクリップを選択する

2 メニュー「COPY」(→88 ページ)のリストからコピー先にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

- 複数のクリップを選択していたときは、[SET] ボタンを押した後に選択しているクリップ数が表示されます。
- コピー先がストレージデバイス(→「USB HOST端子で外部機器と接続する」46 ページ)の場合は、コピー先の詳細を選択します。
- [USER] ボタンに「COPY」を割り当てている場合は、メニュー選択の代わりに[USER] ボタンを押すことでコピーをすることもできます。
- コピー先が「SDCARD」および「FTP(PROXY)」の場合は、本線映像および音声はコピーされず、PROXY関連のデータのみコピーされます。

3 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

クリップのコピーが開始されます。



◆NOTE:

- 途中でコピーを中止するには、[SET] ボタンまたは[CANCEL] ボタンを押してキャンセルしてください。途中でコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- コピー先に以前コピーするなどした同一クリップ(GLOBAL CLIP IDが同じ)が存在するときは、「OVERWRITE」と表示されます。上書きを行うときは「YES」を、コピーを行わないときは「NO」を選択し、[SET] ボタンを押してください。

4 完了メッセージが表示されたら[SET] ボタンを押す

◆NOTE:

- 以下のエラーメッセージが表示されたときは、コピーは行われません。
 - 「LACK OF CAPACITY」
コピー先の記録容量が不足しているため、コピーは行われません。
 - 「UNKNOWN CONTENTS FORMAT!」
選択したクリップに不良クリップが含まれているため、コピーは行われません。
 - 「NO COPY TO SAME CARD!」
同一カードへコピーしようとしたため、コピーは行われません。
 - 「TOO MANY CLIPS!」
選択したクリップが多すぎるため、コピーは行われません。
- テキストメモ下段でテキストメモ選択中にコピーを行うと、選択したテキストメモ位置とその次にあるテキストメモの区間をコピーします。選択したテキストメモの後ろにテキストメモがない場合は、クリップの最後までをコピーします。

クリップを削除する

不要なクリップは、以下の操作でP2カードから削除できます。

1 削除するクリップを選択する

2 カーソルボタンで、メニュー「DELETE」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

3 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

選択したクリップがすべて削除されます。

◆NOTE:

- [USER] ボタンに「DELETE」を割り当てている場合は、メニュー選択の代わりに[USER] ボタンを押すことで削除をすることもできます。
- 途中で削除を中止するには、[SET] ボタンまたは[CANCEL] ボタンを押してキャンセルしてください。ただし途中まで削除されたクリップはキャンセルしても戻りません。

クリップを修復・連結する

不良クリップの修復

記録中、急に電源が切れるなどの原因で発生した、不具合のあるクリップには不良クリップインジケータ(黄色の **NG**)が表示されます。不具合のあるクリップは、以下の操作で修復できます。

- 1 修復する不良クリップを選択する
- 2 カーソルボタンで、メニュー「REPAIR」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
- 3 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
修復を行わない場合は「NO」を選択します。

◆NOTE:

壊れ方によっては修復できないときがあります。そのときはインジケータ(赤色の **NG**)が表示されます。

不完全クリップの連結

複数のP2カードにまたがって記録されているクリップが連続したクリップとして認識されず、不完全クリップ(**!** インジケータ)になることがあります。このとき連結機能を使って、連続したクリップ(元の連結したクリップ)に復元することができます。

◆NOTE:

- 不完全クリップは以下のようなときにできます。
 - 複数のP2カードに記録されたクリップを、P2カードごとに別々にコピーしたとき。
 - 複数カードに記録されたクリップを、カードごとに別々にストレージデバイスへコピー後、P2カードへ書き戻したとき。

- 1 連結する不完全クリップを選択する

◆NOTE:

通常、不完全クリップインジケータ(**!**)が表示されているサムネールは、並んで表示されています。

- 2 カーソルボタンで、メニュー「RE-CONNECT」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
- 3 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
連結を行わない場合は「NO」を選択します。

◆NOTE:

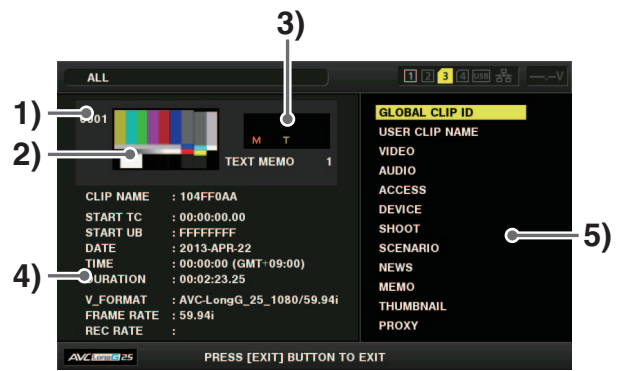
3つ以上に分かれた不完全クリップの一部分のクリップだけを連結しても、もとのクリップを構成するすべてのクリップを連結するまでは、不完全クリップインジケータ(**!**)が付いたままになります。

クリップの情報を表示・修正する

クリップメタデータ情報の表示

クリップの詳細な情報を画面に表示して確認できます。

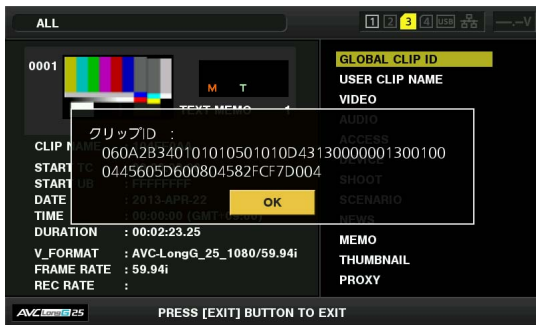
- 1 カーソルボタンで、対象のクリップにカーソルを合わせる
- 2 カーソルボタンで、メニュー「CLIP PROPERTY」(→87 ページ)にカーソルを合わせて[SET] ボタンを押す
選択したクリップに関する情報が表示されます。



- 1)クリップ番号
- 2)サムネール
- 3)クリップ付加情報
クリップに挿入された各種インジケータ、付加されているテキストメモの数が表示されます。また、クリップが記録されたP2カードに、ライトプロテクトがかけられているとき、 **!** マークが表示されます。
- 4)クリップ情報
以下の情報が表示されます。

CLIP NAME:	クリップ名
START TC:	記録開始時のタイムコード
START UB:	記録開始時のユーザズビットの値
DATE:	記録した日付
TIME:	記録開始時の時刻
DURATION:	クリップの長さ
V_FORMAT:	クリップの記録フォーマット
FRAME RATE:	再生フレームレート
REC RATE:	記録フレームレート
- 5)クリップメタデータ
クリップの詳細情報(クリップメタデータ)を参照するための項目が表示されます。

3 必要に応じてクリップメタデータの内容を参照する



カーソルボタンでクリップメタデータの項目にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押すと、以下の情報が表示されます。

GLOBAL CLIP ID:	グローバルクリップID (同じ番号が他のクリップに付くことがない、世界で唯一の番号)
USER CLIP NAME:	ユーザーが付けることのできる クリップ名 。通常はGLOBAL CLIP IDが入っています。
VIDEO:	ビデオ信号方式など (フレームレート、プルダウン、アスペクト比)
AUDIO:	オーディオの各チャンネル方式など (サンプリングレート、ビットレート)
ACCESS:	最終更新日など (作成者 、作成日、最終更新日、最終更新者)
DEVICE:	記録した機器のメーカー名、シリアル番号、モデル名
SHOOT:	記録開始、終了した日付など (撮影者 、撮影開始日、撮影終了日、 高度 、 経度 、 緯度 、撮影地情報源、 撮影地)
SCENARIO:	番組名、シーンNo. など (プログラム名 、 シーン番号 、 テイク番号)
NEWS:	レポーター 、 取材目的および対象
MEMO:	テキストメモの番号、記録位置、 メモ入力者 、 テキスト情報
THUMBNAIL:	サムネールの元となる画像のフレーム位置(通常は先頭:0)やサムネールサイズ(幅、高さ)

◆NOTE:

- 位置については、先頭からのフレーム数で表します。
- テキスト内容は最大1000文字添付可能ですが、最大先頭の500文字が表示されます。
- テキスト番号は[左]/[右]カーソルボタンで動かしします。

PROXY: プロキシデータに関する詳細情報
(フォーマット、ビデオコーデック、ビデオフレームレート・ビットレート・解像度、アスペクト比、映像へのTC重畳、オーディオコーデック、オーディオビットレート・サンプリングレート・チャンネル数)

◆NOTE:

- 太字はクリップメタデータの変更が可能です

クリップメタデータの変更

クリップのメタデータを変更することができます。

1 クリップのメタデータを表示する

2 カーソルボタンで、修正したいメタデータにカーソルを合わせ、[SET] ボタン押す

変更可能なメタデータは、以下の図の「テキスト情報」のように表示されています。



3 カーソルボタンで、変更項目へ移動し、[SET] ボタンを押す

メタデータ変更の画面が表示されます。
(→「キーボードの利用」114 ページ)



4 変更終了後「OK」を選択する

変更したメタデータをクリップへ保存し、メタデータの表示へ戻ります。
「EXIT」を選択すると入力を取り消し、元へ戻ります。

◆NOTE:

- 緯度および経度を削除する場合は、高度に空白を設定してください。単独では削除できません。
- I** インジケーターがついた不完全クリップは、メタデータを変更することができませんので、不足クリップの入ったP2カードを挿入してください。
- MEMO項目は、100文字以上添付されている場合は変更することができません。

5 [EXIT] ボタンを押して、処理を終了する

サムネイルを変更する

テキストメモを付加している位置の画像にサムネイルの変更を行うことができます。

1 変更したい映像にテキストメモを付加する
(→「テキストメモを付加する」37 ページ)

2 サムネイル表示をテキストメモ表示に変更する
メニュー「REPOSITION」(→87 ページ)で「TEXT MEMO CLIPS」を選択します。

3 カーソルボタンで、変更するサムネイルへ移動し、
[SET] ボタンを押す
カーソルが下段に移ります。


4 変更したいサムネイルに[左]/[右] カーソルボタンで
移動する

5 [MENU] ボタンを押す

6 カーソルボタンで、メニュー「EXCH. THUMBNAIL」
(→88 ページ)にカーソルを合わせ[SET] ボタンを
押す

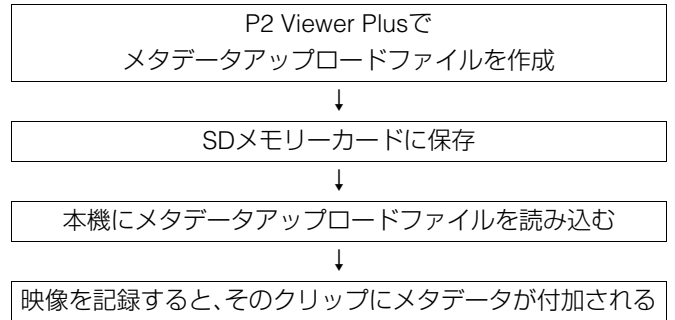
7 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、
[SET] ボタンを押す
メニューが閉じて、サムネイルが変更されます。

◆NOTE:

- クリップの情報表示の「THUMBNAIL」項目で、サムネイルの変更位置(先頭からのフレーム数)を見ることができます。通常の先頭フレームのサムネイルの場合は0と表示されます。
- サムネイルを変更しても、サムネイル画面からの再生はクリップの先頭からとなります。
- メニュー「SYSTEM MODE」(→111 ページ)の設定と異なるクリップでは、テキストメモクリップの表示時に、下段に表示されるテキストメモ位置のサムネイルが表示されずに  が表示される場合があります。

クリップ記録時にメタデータを付加する

撮影者名やレポーター名、撮影場所、テキストメモなどの情報を記述したメタデータアップロードファイルを、SDメモリーカードに保存しておき、記録前に事前にそのファイルを読み込んでおくことで、クリップメタデータとして記録することができます。



メタデータアップロードファイルの準備

メタデータアップロードファイルは、パーソナルコンピューター上でP2 Viewer Plusを使用して作成します。P2 Viewer PlusはP2カードに記録されたクリップを、パーソナルコンピューターで操作するためのアプリケーションソフトで、当社のWebサイトで無償配布しています。URLについては「WebサイトURLについて」(→2 ページ)をご覧ください。P2 Viewer Plus をパーソナルコンピューターにインストールし、メタデータアップロードファイルを作成してSDメモリーカードに書き込んでください。

◆NOTE:

- P2 Viewer Plusは最新アップデート版をご使用ください。
- メタデータアップロードファイルの作成方法については、P2 Viewer Plusのヘルプを参照してください。
- メタデータアップロードファイルは、本機でフォーマットしたSDメモリーカードに書き込んでください。
(→「P2カード / SDメモリーカードをフォーマットする」43 ページ)

メタデータを付加するための設定

■メタデータの記録設定

メニュー「REC META DATA」- 「RECORD」(→95 ページ)で、クリップを記録するときに、読み込んだメタデータをクリップに付加するまたは付加しないを設定します。

■ USER CLIP NAMEの記録方法の選択

メニュー「USER CLIP NAME」(→95 ページ)で、USER CLIP NAMEに記録するデータの種類を設定します。

メニュー「USER CLIP NAME」と「RECORD」の組み合わせで記録されるデータが変わります。

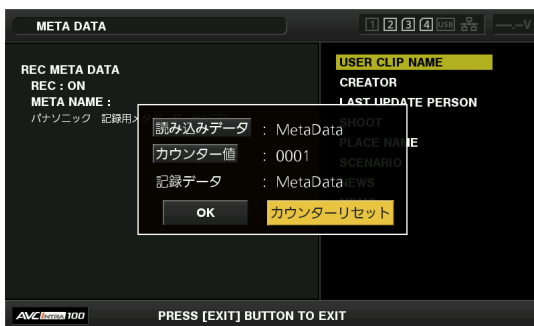
記録方法	記録されるUSER CLIP NAME
クリップメタデータ 「RECORD」=「ON」	TYPE1 読み込んだメタデータ設定値
	TYPE2 読み込んだメタデータ設定値+カウンター値
クリップメタデータ 「RECORD」=「OFF」	TYPE1 GLOBAL CLIP IDと同じ
	TYPE2 CLIP NAMEと同じ

■ カウンター値について

カウンター値は、4桁の数字で表示されます。カウンター値は、USER CLIP NAMEの記録方法を「TYPE2」に設定してクリップメタデータファイルを読み込んだとき、記録を行って新しいクリップを生成するたびに1ずつ増加します。

カウンター値は、以下の操作でリセットできます。

1. カーソルボタンでメニュー「REC META DATA」-「PROPERTY」(→95 ページ)のメタデータ画面から「USER CLIP NAME」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
2. カーソルボタンで「カウンターリセット」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
カウンター値が1にリセットされます。



3. [EXIT] ボタンを押して、処理を終了する

メタデータアップロードファイル

■ ファイルの読み込み

以下の操作でSDメモリーカードからメタデータ設定値を読み込みます。

1. メタデータアップロードファイルを保存しているSDメモリーカードを本機に挿入する
2. サムネール画面を表示する
3. [MENU] ボタンを押す
4. カーソルボタンで、メニュー「REC META DATA」-「LOAD」(→95 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
SDメモリーカード内のメタデータアップロードファイルのメタデータ名が表示されます。

◆NOTE:

- メタデータ名を表示中に[右]カーソルボタンを押すとファイル名の表示に切り替えることができます。
[左]カーソルボタンを押すとメタデータ名の表示へ戻ります。
 - ファイルの一覧表示のメタデータ名にASCII表示文字以外は表示されず「*」で表示されます。ただしカーソルをファイルに合わせると右側に日本語で表示できます。
5. カーソルボタンで、読み込むファイルにカーソルを合わせて、[SET] ボタンを押す
 6. 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
メタデータが読み込まれます。
 7. [MENU] ボタンを押して、処理を終了する

■ 読み込んだメタデータの確認と修正

SDメモリーカードから読み込んだメタデータの内容を確認できます。

1. [MENU] ボタンを押し、メニュー「REC META DATA」 - 「PROPERTY」(→95 ページ)を選択する
2. カーソルボタンでカーソルを動かし、[SET] ボタンを押す
読み込んだメタデータの各設定内容が確認できます。



3. メタデータの各設定内容を確認中に、カーソルボタンでカーソルを動かし、設定内容を変更したい項目に合わせて[SET] ボタンを押す
ソフトウェアキーボード画面が表示され、設定内容を変更することができます。

◆NOTE:

〈設定できるメタデータの種類〉
 •カーソルボタンで確認したいメタデータの項目にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押すと、情報が表示されます。

USER CLIP NAME:	読み込んだユーザークリップ名、カウンター値、記録されるデータ
CREATOR:	作成者
LAST UPDATE PERSON:	最終更新者
SHOOT:	撮影者
PLACE NAME:	撮影地
SCENARIO:	プログラム名、シーン番号、テイク番号
NEWS:	レポーター、取材目的、取材対象
MEMO:	メモ入力者、テキスト情報

- 内容を確認できたら、[EXIT]または[SET] ボタンを押します。情報が表示されていた画面が消えます。
- 設定変更を終了するときには「OK」を選択します。

4. [EXIT]を押し、メタデータの確認画面を終了する

■ メタデータ設定を削除する

メニュー「REC META DATA」 - 「INITIALIZE」(→95 ページ)で本機内部に保存されているメタデータを削除し設定の初期化ができます。

P2カード / SDメモリーカードをフォーマットする

1. カーソルボタンで、メニュー「FORMAT」(→88 ページ)で「SLOT n」(nはフォーマットしたいP2カードが挿入されたP2カードスロット番号)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

◆NOTE:

- 「SD CARD」を選択するとSDメモリーカードスロットに挿入されたSDメモリーカードをフォーマットします。
- microP2メモリーカードにCPSパスワードが設定されている場合、スロット選択を行うと、「CPS(ENCRYPT)」(暗号化フォーマット)と「NORMAL」(通常フォーマット)を選択する確認メッセージが表示されます。「CPS(ENCRYPT)」(暗号化フォーマット)を選択すると、microP2メモリーカードが暗号化されます。

2. 確認メッセージの「YES」を選択し[SET] ボタンを押す
フォーマットが開始されます。

◆NOTE:

- フォーマットしないときは「NO」を選択し、[SET] ボタンを押します。
- フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

3. 完了メッセージが表示されたらOKを選択([SET] ボタンを押す)する

◆NOTE:

続けて別のP2カードスロットのP2カードやSDメモリーカードをフォーマットするときは、手順1~3の操作を繰り返します。

カードの状態を確認する

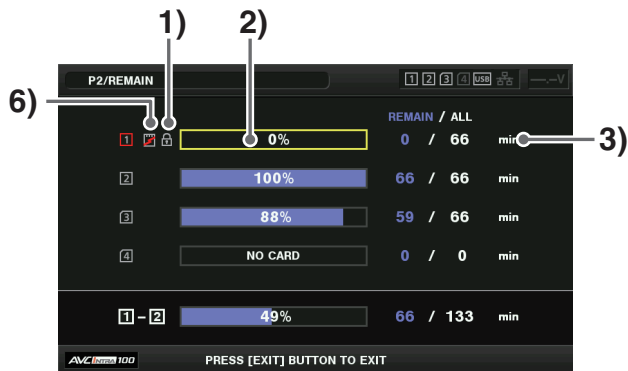
P2カードスロットの状態やP2カードの使用状況など、カードの情報を画面に表示して確認できます。

1) カーソルボタンで、メニュー「CARD STATUS」(→87 ページ)にカーソルを合わせて、[SET] ボタンを押す

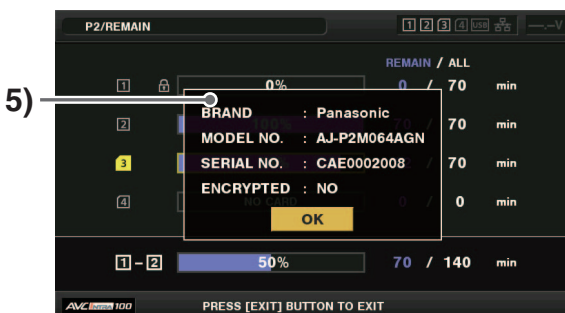
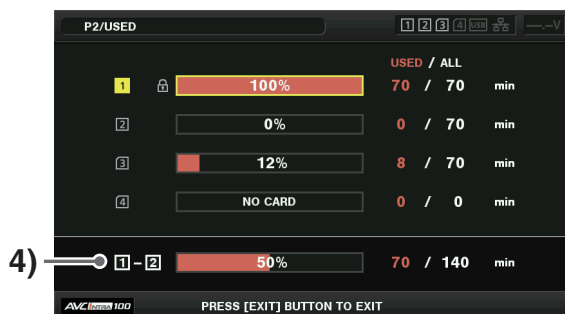
P2カードの状態が表示されます。

◆NOTE:


メニュー「REMAIN SETUP」(→87 ページ)で表示を残容量と使用容量のいずれかに切り替えることができます。



または



1)書き込み禁止マーク

P2カードに、ライトプロテクトがかかっているとき、マークが表示されます。

2)P2カード状態

記録残量表示のときは、P2カードの記録残量がメーターとパーセントで表示されます。

使用済み容量表示のときは、P2カードの使用容量がメーターとパーセントで表示されます。

また、カードの状態によって、以下のように表示されます。

FORMAT ERROR!:	フォーマットされていないP2カードが挿入されている。
NOT SUPPORTED!:	本機に対応していないカードが挿入されている。
NO CARD!:	P2カードが挿入されていない。
AUTH NG CARD:	CPSパスワードが認証できないmicroP2メモリーカードが挿入されている。

3)P2カード残量(または使用容量) / 総容量

P2カードの記録残量(または使用容量) / 総容量が、分に換算して表示されます。分以下は切り捨て表示のため、P2カードごとの記録残量(または使用容量)の合計と総容量が一致しないことがあります。

4)スロット記録残量(または使用容量)合計

2つのP2カードスロットの記録残量(または使用容量)を総合計した数値が表示されます。

◆NOTE:

ライトプロテクトがかかっているP2カードの空き容量は、空き容量の合計に含まれません。

5)P2カード詳細表示

P2カード状態表示のスロットにカーソルを合わせて [SET] ボタンを押すと、P2カードのモデル番号などの詳細情報が表示されます。

もう一度[SET]または[EXIT] ボタンを押すと、詳細情報が消えます。

◆NOTE:

P2カード内のクリップ数が記録上限に達した場合はP2カード詳細表示に上限到達を示す「OVER MAX NUMBER CLIPS」が表示されます

6)ワーニングカードマーク

P2カードが以下の場合にこのマークが表示されます。ワーニング内容はP2カード詳細表示で確認することができます。

- [RUN DOWN CARD]
P2カードの規定の書き替え回数を超えた場合
- [DIR ENTRY NG]
P2カードのディレクトリー配置が不正規な場合
- [AUTH NG CARD]
CPSパスワードが認証できないmicroP2メモリーカードが挿入されている場合

CPSの手動認証

暗号化フォーマットされたmicroP2メモリーカードは、本体で自動認証され、認証に成功した場合はそれらのmicroP2メモリーカードを利用することができます。異なるCPSパスワードが認証されている機器のカードスロットに、異なる暗号化フォーマットをされたmicroP2メモリーカードを挿入すると認証エラーとなります。一時的にその認証エラーのカードを利用するために、手動でmicroP2メモリーカードに認証した暗号(CPSパスワード)を、下記1、2の手順に従って入力してください。暗号が一致すると、そのカードを利用することができます。

1 認証失敗の確認をする

サムネール画面を開き、メニュー「CARD STATUS」(→87ページ)を選択すると確認ができます。認証エラーのカードは画面右上のスロット番号枠が赤色になり、残量バーに「AUTH NG CARD」が表示されます。そのカードを[上]/[下]カーソルボタンで選択状態にしてください。

2 手動認証を行う

カードステータス画面で、メニュー「AUTHENTICATE」(→89ページ)を選択すると、CPSパスワードを入力するソフトウェアキーボードが表示されます。パスワードを入力し、「OK」を選択します。CPSパスワードの入力に成功したときは、「AUTHENTICATED SUCCESSFULLY!」とメッセージが表示されます。CPSパスワードの入力に失敗したときは、ワーニングメッセージ(→122ページ)が表示されます。

◆NOTE:

- 手動認証は一時的に有効です。対象のmicroP2メモリーカードが抜かれた場合や電源を切った場合など、手動で設定したCPSパスワードは無効となります。
- CPSパスワードは16文字まで入力可能です。
- 手動認証が有効になる条件などは、Webサイトを参照してください。(→「WebサイトURLについて」2ページ)

CPSの自動認証

CPSパスワードは、SDメモリーカードから読み込む方法と、本機で入力する方法があります。

■パスワードの設定

SDメモリーカードからCPSパスワードを読み込む

1 最新のP2 Viewer Plusをパーソナルコンピューターにダウンロードしてインストールする

2 P2 Viewer Plus でCPSパスワードを生成し、SDメモリーカードに書き込む

◆NOTE:

- 生成されたCPSパスワードファイルは暗号化されていますが、不要になった場合はSDメモリーカードをフォーマットするなどして、適切にセキュリティリスクに対する管理をしてください。
- 生成されたCPSパスワードはSDメモリーカードのprivate/meigroup/pavcn/sbg/p2sd/に拡張子が「.p2p」のファイルとして生成されます。このファイルは機器で読み込むまで削除をしないでください。

3 CPSパスワードファイルを読み込む

- ① 本機の電源をONにし、SDメモリーカードをSDカードスロットに挿入します。
 - ② サムネール画面を開きます。
 - ③ メニュー「CPS PASSWORD」-「LOAD」(→87ページ)を選択します。
 - ④ 表示されるパスワードファイルリストから使用するファイルを選択し、[SET]ボタンを押します。
- CPSパスワードの読み込みに成功したときは、「LOADINGPASSWORD COMPLETED!」とメッセージが表示されます。
 - CPSパスワードの読み込みに失敗したときは、ワーニングメッセージが表示されます。ワーニングの内容については「ワーニング内容一覧」(→116ページ)を参照してください。
 - ワーニングメッセージが表示された場合は、SDメモリーカードの挿入状態、手順2で生成したCPSパスワードのファイル(ファイル名:*****.p2p)の保存場所などを確認してください。

ソフトウェアキーボードでCPSパスワードを設定する

1 メニュー「CPS PASSWORD」-「SET」(→87ページ)を選択する

CPSパスワードを入力するソフトウェアキーボードが表示されます。

2 ソフトウェアキーボードでCPSパスワードを入力する

「PASSWORD」と、照合用の「RETRY PASSWORD」を入力し、「OK」を選択するとCPSパスワードが設定されます。

- CPSパスワードの入力に成功したときは、「SETTING PASSWORD COMPLETED!」とメッセージが表示されます。
- CPSパスワードの入力に失敗したときは、ワーニングメッセージが表示されます。ワーニングの内容については「ワーニング内容一覧」(→116 ページ)を参照してください。

◆NOTE:

- パスワードは16文字まで入力可能です。
- 入力したパスワードを機器で表示することはできませんので、忘れないようにしてください。

■パスワードの削除

CPS機能が不要になった場合は、CPSパスワードを削除します。

CPSパスワードを削除するには、メニュー「CPS PASSWORD」- 「DELETE」(→88 ページ)を選択してください。

「DELETING PASSWORD COMPLETED!」が表示され、CPSパスワードが削除されます。

◆NOTE:

CPSパスワードが削除されて未設定状態になると、暗号化フォーマットされたmicroP2メモリーカードの自動認証および暗号化フォーマット機能が無効になります。

USB HOST端子で外部機器と接続する

使用できるストレージデバイス

以下のストレージデバイスを使用できます。

- Panasonicポータブルハードディスクユニット P2 Store(AJ-PCS060G)
- USB2.0 / USB3.0で接続できるハードディスクドライブやソリッドステートドライブ

◆NOTE:

P2 StoreはVer2.**以降のみの対応となります。Ver1.**は接続できません。Ver1.**については、Ver2.**にバージョンアップ後ご利用ください。

ストレージデバイスのタイプと利用できる機能について

使用するストレージデバイスにより、利用できる機能が異なります。ストレージデバイスのタイプはストレージデバイスのエクスプローラー画面の左側に「PARTITION:」に続けて表示されます。

(→「ストレージデバイスの情報の表示 (エクスプローラー画面)」 50 ページ)

◆NOTE:

- USB3.0端子は、USBバスパワー(5 V、0.9 A)に対応していますが、ストレージデバイスによっては起動できないことがあります。その場合はストレージデバイスに別途電力を供給してください。
- 2 TB(2048 GB)を超えるストレージデバイスには対応していません。

ストレージデバイスのタイプと利用できる機能

ストレージデバイス タイプ	特徴	利用できる機能									
		サムネール 表示	P2カード単位				クリップ単位		再生 確認 ^{*3}	クリップ 画像表示	フォー マット
			P2・ microP2 (≤32GB)→ ストレージ	microP2 (>32GB)→ ストレージ	ストレージ →P2・ microP2 (≤32GB)	ストレージ →microP2 (>32GB)	P2・ microP2→ ストレージ	ストレージ →P2・ microP2			
TYPE S	カード単位で高速に書き込み / 読み込みするための特殊形式です。	○	○	-	○	-	○ ^{*1}	○	○	○	○
P2 STORE	P2 Store(AJ-PCS060G)のことで、書き込みはできません。	○	-	-	○	-	-	○	○	○	-
FAT	先頭の基本パーティションがFAT16またはFAT32になっているものです。そのパーティションのルート、あるいは、任意のフォルダーの下 ^{*2} の「CONTENTS」フォルダーが対象になります。	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○
OTHER	上記以外のストレージデバイスです。 • NTFSなど、FAT16、FAT32以外のファイルシステムの場合です。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○ ^{*4}

^{*1} クリップの追加書き込みを行った場合は、そのパーティションのカード単位での書き戻しはできなくなります。

^{*2} フォルダーは第3階層までで、かつフォルダー数は最大100個となります。フォルダーの表示は上の階層から順に表示されます。またロングファイル名、2バイト文字のファイル名には対応していません。

例:

/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/20090101/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/20090101/1200/CONTENTS	表示不可→4階層なので表示できません

^{*3} ストレージデバイスからの再生はストレージデバイスの性能や条件によって映像や音声途切れる場合があります。完全な再生は保証いたしません。

^{*4} 2 TB以上のストレージデバイスの場合、フォーマットはできません。

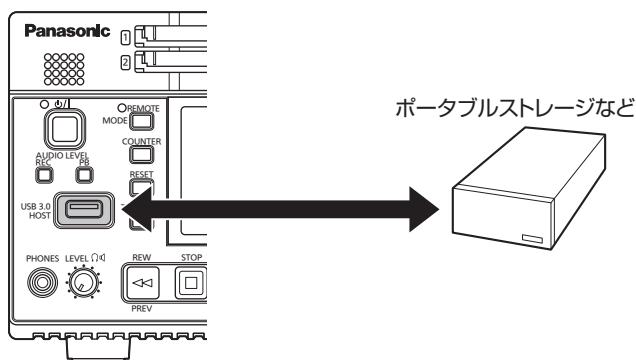
◆NOTE:

ストレージデバイスは以下の条件でご使用ください。

- 動作保証範囲内(温度など)で使用する。
- 振動する場所や不安定な場所に置かない。
- ストレージデバイスやケーブルによっては正しく動作しないことがあります。
- コピーに十分な容量のストレージデバイスをご使用ください。
- 電源が入っていないストレージデバイスであっても、ハブなどを介した複数台の接続は行わないでください。ストレージデバイス以外の機器も、ハブなどを介してストレージデバイスと一緒に接続しないでください。
- フォーマットやコピー中にケーブルを抜いたり、対象のP2カードを取り出したり、本機やストレージデバイスの電源を切ったりしないでください。本機およびストレージデバイスの電源の再起動が必要になります。
- ストレージデバイスは非常に精密な機器ですので、使用状況によってはデータの読み書きができなくなるおそれがあります。ストレージデバイスの故障あるいは何らかの不具合によるデータの損失、ならびにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社では責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機からのコピーで使用したストレージデバイスを他のパーソナルコンピューターなどで中身を置き換えた場合、以後の本機での動作、およびストレージデバイスのデータは保証できません。
- 不良クリップが含まれるP2カードは、事前に修復してからストレージデバイスへコピーすることをお勧めします。
- USB変換ケーブルを介して接続されたSATA(シリアルATA)や、PATA(パラレルATA)インターフェースのストレージデバイスは、認識できない場合があります。
- 本機の記録再生中などはケーブルの抜き差しを行わないようにしてください。記録再生が正常に行われません。
- ストレージデバイスによっては、接続後の最初の再生確認に関してパフォーマンスが低下する場合があります。

ストレージデバイスの接続

1 フロントのUSB 3.0端子とストレージデバイスを接続します。



- USB3.0対応のストレージデバイスに接続する場合は、USB3.0規格に準拠したケーブルをご使用ください。USB2.0用のケーブルではUSB2.0の転送性能を超えることはできません。

2 ストレージデバイスを認識し使用可能な場合は、サムネイル画面の右上の (灰色)が (白色)に変わります。

ストレージデバイスのフォーマット

ストレージデバイスをTYPE SまたはFATで使用できる形式に初期化します。

◆NOTE:

ストレージデバイスのフォーマットを行うと、ストレージデバイスの内容はすべて消去されますのでお気をつけください。

1 USBのストレージデバイスを接続する

ストレージデバイスが認識されるとストレージデバイスの状態表示(→32 ページ)が白色(または、赤色)に変わります。

2 カーソルボタンで、メニュー「EXPLORE」(→88 ページ)にカーソルを合わせて[SET]ボタンを押し、「[STORAGE]」を選んで[SET]ボタンを押す エクスプローラー画面が開きます。

3 [MENU] ボタンを押し、カーソルボタンで、メニュー「[FORMAT (STORAGE)]」(→88 ページ)にカーソルを合わせ[SET] ボタンを押した後、フォーマットしたい形式(TYPE S、FAT)を選び、[SET] ボタンを押す



4 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、
[SET] ボタンを押す

5 再度確認メッセージが出たら、「YES」にカーソルを
合わせて[SET] ボタンを押す
ストレージデバイスがフォーマットされます。

◆NOTE:

フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

カード単位でのストレージデバイスへの エクスポート

P2カード単位でストレージデバイスへエクスポート(P2カードからストレージデバイスへの書き出し)を行うことができます。ストレージデバイスのフォーマット形式によってコピー結果と最大コピー枚数が異なります。

ストレージ デバイスタイプ	コピー結果	最大コピー枚数*2
TYPE S	カードごとにパーティションが作成され、その中にカードに含まれる全データがコピーされます。本機のエクスプローラー画面でコピーしたP2カードの品番やシリアル番号が確認できます。	23
FAT	カードごとにフォルダー*1が作成され、その中にカードに含まれる全データがコピーされます。本機のエクスプローラー画面でフォルダー名が確認できます。	100

*1フォルダーは年月日のフォルダーとその下に時分秒フォルダーの2階層が作られます。

例) 2014年3月30日 12時34分56秒の場合:
/14-03-30/12-34-56

*2ストレージデバイスの容量を超えてコピーすることはできません。

1 ストレージデバイスを接続する

ストレージデバイスがTYPE SタイプまたはFATタイプでない場合は、ストレージデバイスをTYPE SタイプまたはFATタイプにフォーマットします。
(→「ストレージデバイスのフォーマット」48 ページ)

2 P2カードを挿入する

3 カーソルボタンでメニュー「EXPORT」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

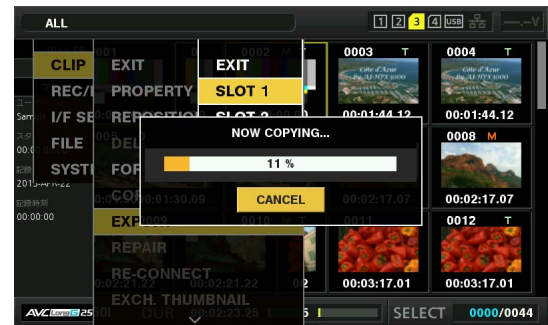
4 コピー元のP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

TYPE Sタイプの場合、「ALL SLOT」を選ぶと、そのとき挿入されているカードすべてを一括エクスポートします。

5 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、
[SET] ボタンを押す

エクスポートが始まります。エクスポート中は進捗バーが表示されます。

エクスポートが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。



◆NOTE:

- TYPE Sタイプでのエクスポートの場合、エクスポート後にP2カードデータとコピーしたデータのベリファイ(比較)を自動的に行うことができます。工場出荷初期状態ではエクスポート時のベリファイが有効になっています。エクスポート時のベリファイを行わないように設定すると、エクスポートしたデータとの照合は行いませんが、エクスポート完了までの時間が短くなります。ベリファイを行わないための設定はメニュー「VERIFY」(→90 ページ)を「OFF」にします。FATタイプの場合は、この設定値にかかわらず、ベリファイは行われません。
- エクスポートを途中で中断したいときは、[SET] ボタンを押し、「CANCEL」の確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押すと中断できます。
- ベリファイ中に処理を中断しても、そのP2カードのコピーは終了しています。
- 32 GBを超えるmicroP2メモリーカードは、エクスポートおよびインポートはできません。クリップのコピーを使用してください。

クリップ単位でのストレージデバイスへのコピー

カード全体でなく、選択したクリップだけをストレージデバイスへコピーすることができます。

1 サムネイル画面を表示し、カーソルボタンでコピーするクリップにカーソルを合わせて、[SET] ボタンを押し選択する

複数のクリップを選択することもできます。

2 カーソルボタンで、メニュー「COPY」(→88 ページ) - 「STORAGE」にカーソルを合わせ[SET] ボタンを押す

3 ストレージデバイスのフォルダーあるいはパーティション一覧が表示されるので、コピー先を選択し [SET] ボタンを押す

◆NOTE:

- FATタイプのストレージデバイスの場合、表示されるフォルダーは以下のものになります。
 - ルート
 - 第3階層までにCONTENTSフォルダーを含むフォルダー
- TYPE Sタイプのストレージデバイスにおいて、パーティションが1つもない場合はコピーできません。FATタイプにフォーマットするか、エクスポートによりパーティションを作成してからコピーしてください。

4 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

コピーが始まります。コピー中は進捗バーが表示されます。コピーが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆NOTE:

- コピーを中断したいときは、カーソルボタンで「CANCEL」にカーソルを合わせて[SET] ボタンを押し、「CANCEL」の確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押すと中断できます。途中までコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- TYPE Sタイプのストレージデバイスへクリップをコピーした場合は、そのパーティションへはカード単位でのインポートはできなくなります。またその場合カードの品番表示に「UNKNOWN」と表示されます。

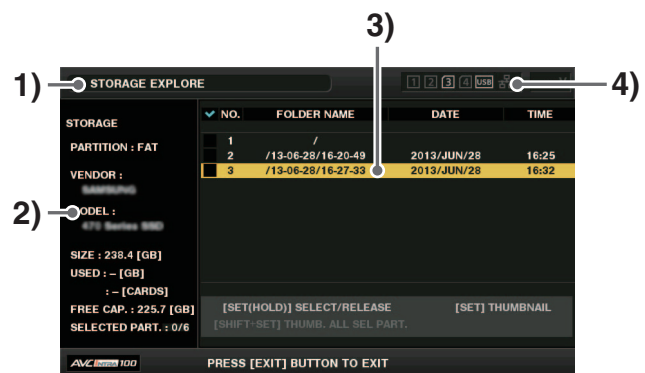
5 [SET] ボタンを押し完了する

ストレージデバイスの情報の表示 (エクスプロー画面)

ストレージデバイス情報の表示、ストレージデバイスのパーティション/フォルダーのサムネイルの表示選択、操作対象のパーティション/フォルダーの選択ができます(エクスプロー画面表示)。

1 カーソルボタンで、メニュー「EXPLORE」(→88 ページ) - 「STORAGE」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

エクスプロー画面が表示されます。



1) 表示状態

ストレージデバイスのエクスプロー画面であることを示します。

2) デバイス情報

以下の情報が表示されます。

カード単位で書き込み/読み出しが可能なストレージデバイス (TYPE S、P2STORE)	PARTITION:	TYPE S / P2 STORE
	VENDOR:	ベンダー名
	MODEL:	モデル名
	SIZE:	総容量(単位:GB)
	USED:	使用量(単位:GB) 使用P2カード領域 (単位:枚数)最大23
	FREE CAP.:	残量(単位:GB)
	SELECTED PART.:	選択された パーティション数
上記以外のストレージデバイス(FAT、OTHER)	PARTITION:	FAT/OTHER
	VENDOR:	ベンダー名
	MODEL:	モデル名
	SIZE:	総容量(単位:GB)
	FREE CAP.:	残量(単位:GB)
	SELECTED PART.:	選択された フォルダー数

3) パーティション情報

(TYPE Sタイプのストレージデバイス、または、P2 Store の場合)

<input checked="" type="checkbox"/>	パーティションを操作対象として選択している場合、チェックマークが表示されません。
NO.:	パーティション番号(1~)
MODEL:	P2カードのモデル名
PARTITION NAME:	パーティションにつけられた名称 「パーティション名の設定」(→51 ページ)
DATE:	パーティション記録日
TIME:	パーティション記録時刻
SERIAL:	P2カードのシリアル番号

フォルダー情報

(FATタイプのストレージデバイスの場合)

<input checked="" type="checkbox"/>	フォルダーを操作対象として選択している場合、チェックマークが表示されます。
NO.:	フォルダー番号(1~)
FOLDER NAME:	フォルダー名 (CONTENTS フォルダーは含みません)
DATE:	フォルダー作成日
TIME:	フォルダー作成時刻

◆NOTE:

- TYPE Sタイプのストレージデバイスの場合、[左] / [右] カーソルボタンで、パーティション名とシリアル名を切り替えて表示することができます。
- P2 Storeに無効なパーティションがあるときは、パーティション情報がグレーで表示されます。
- メニュー「FREE CAP. OF PARTITION」(→87 ページ)で対象パーティションの残量を確認することもできます。

4) ストレージデバイスインジケーター

接続/未接続の区別、ストレージデバイスのタイプが表示されます。

■ エクスプロー画面での各種操作について

パーティション/フォルダーの操作対象選択

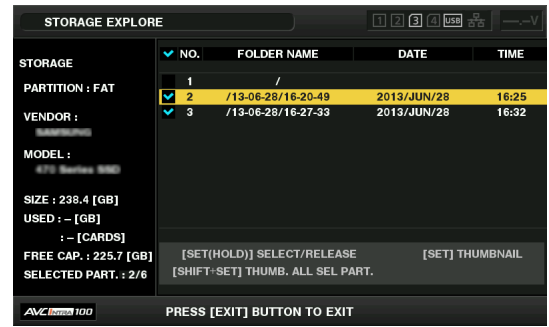
パーティション/フォルダーを操作対象として選択すると、選択したパーティション/フォルダーに含まれるすべてのクリップを一括してサムネールとして表示できます。
(→「サムネール画面を表示する」30 ページ)

この操作対象としては最大6パーティション/フォルダーまで選択することができます。

1. エクスプロー画面にて、パーティション/フォルダーへカーソルを合わせる

2. [SET] ボタンを長押し(1秒以上)する

パーティション/フォルダーが選択され、にが表示がされる



操作対象選択はストレージデバイスを切り離すあるいは電源を切るまで有効です。操作対象選択を解除する場合は選択されたパーティションで再度[SET] ボタンを長押し(1秒以上)します。

[CANCEL] ボタンを押すとすべての選択が解除されます。

- 7個目を指定した場合は、設定できずワーニングが表示されます。

◆NOTE:

- TYPE Sタイプのストレージデバイスで、MODELが「UNKNOWN」^{*1}になったパーティションと他のパーティションにまたがって記録されているクリップは正常な1つのクリップとなりません。
^{*1}TYPE Sタイプのストレージデバイスにクリップコピーを行うことで、コピー先のパーティションのMODELが「UNKNOWN」に変更されます。
- パーティション名の設定は、TYPE Sタイプのストレージデバイスのとき実行できます。設定したパーティション名は、エクスプロー画面の「PARTITION NAME」に表示されます。

パーティション名の設定

ストレージデバイスがTYPE Sタイプの場合、パーティションに名称(最大20文字)を付けることができます。

◆NOTE:

設定したパーティション名は、エクスプロー画面の「PARTITION NAME」に表示されます。

- ストレージのエクスプロー画面において、設定したいパーティションへカーソルを合わせる
続けて[SET]ボタンを押しサムネールの一覧を表示してパーティション名をつけることもできます。
- [MENU]ボタンを押す
- カーソルボタンで、メニュー「CHANGE PARTITION NAME」(→89 ページ)にカーソルを合わせ[SET] ボタンを押す
ソフトウェアキーボードが表示されます。
- パーティションに設定する名称を入力し「OK」を選択する
パーティション名称が設定されます。

最後のパーティションの削除

メニュー「DELETE LAST PARTITION」(→89 ページ)でストレージデバイスの最後のパーティションの削除ができます。

◆NOTE:

- 事前にカーソルを最後のパーティションに移動しておいてください。
- 最後のパーティションの削除は、TYPE Sタイプのストレージデバイスのおきだけ実行できます。削除できるのは、最後のパーティションだけです。途中のパーティションは削除できません。
- 削除したパーティションは復活できませんので、よく確認してから実行してください。

■ ストレージデバイスのクリップのサムネール表示と映像のモニター表示

サムネールを表示する

ストレージデバイスに保存したクリップも、本機に装着したP2カードと同様にサムネール画面を表示して管理できます。

1. エクスプローラー画面を表示する

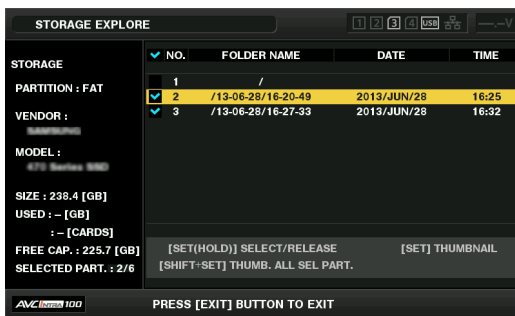
パーティションまたはフォルダー一覧が表示されます。

2. カーソルボタンでサムネール画面表示したいパーティションまたはフォルダーにカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す

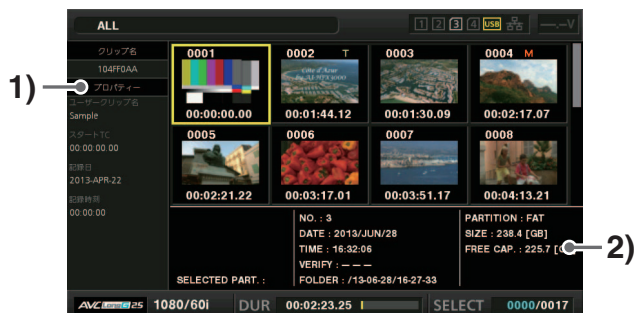
そのパーティションまたはフォルダーのクリップがサムネール表示されます。また、元のエクスプローラー画面へは[EXIT] ボタンを押すことで戻ります。

◆NOTE:

操作対象選択がされている場合は[SHIFT] + [SET] ボタンを押すと操作対象として選択している全パーティションのサムネールを一括して表示することができます。



SET ▼ ▲ EXIT



1) クリップ情報

クリップのプロパティ表示

2) ストレージデバイス情報

TYPE Sの場合

SERIAL:	P2カードのシリアル番号
MODEL:	P2カードのモデル名
SELECTED PART.:	パーティションを操作対象として選択している場合、チェックマーク(☑)を表示します。
SELECTED PART. No.:	パーティションを複数選択している場合のみ表示され、選択しているパーティション番号の一覧を示します。
NO.:	パーティション番号(1~)
DATE:	パーティション記録日
TIME:	パーティション記録時刻
VERIFY:	記録時のベリファイの設定とベリファイ結果
ON:	ベリファイ実施して、一致 FINISHED
ON:	ベリファイ実施したが不一致 FAILED
OFF:	ベリファイしていない
NAME:	ユーザーがつけたパーティションの名称
SIZE:	ストレージデバイスの全容量
USED:	ストレージデバイスの使用済み容量
FREE CAP.:	ストレージデバイスの残量

FATの場合

SELECTED PART.:	パーティションを操作対象として選択している場合、チェックマーク(☑)を表示します。
SELECTED PART. No.:	フォルダーを複数選択している場合のみ表示され、選択しているフォルダー番号の一覧を示します。
NO.:	フォルダー番号(1~)
DATE:	フォルダー作成日*1
TIME:	フォルダー作成時刻*1
FOLDER:	フォルダー名
SIZE:	ストレージデバイスの容量
FREE CAP.:	ストレージデバイスの残量

*1 ルートには作成日時は表示されません。


◆NOTE:

- 必要に応じてサムネール画面の表示の変更を行うことができます。操作はP2カードのサムネール表示(→「サムネール画面の表示の変更」33 ページ)と同じです。
- 1001個目以降のクリップは表示されません。

クリップの情報を表示する

ストレージデバイスに保存したクリップの各種メタ情報を表示できます。表示の方法はP2カードのクリップのプロパティと同じです。

1. ストレージデバイスのサムネール画面で、対象のクリップへカーソルを移動する
2. [MENU] ボタンを押す
3. カーソルボタンで、メニュー「CLIP PROPERTY」(→87 ページ)にカーソルを合わせて、[SET] ボタンを押す
(→「クリップの情報を表示・修正する」39 ページ)
ただし、修正を行うことはできません。

- クリップの再生中に[STOP]  ボタンを押すと、再生を停止してサムネール画面に戻ります。
- 再生を停止すると、カーソル位置は停止直前に再生していたクリップに移動します。
- 異なった圧縮記録フォーマットを再生すると、クリップとクリップの間で映像・音声が乱れることがあります。
- テキストメモやメタデータなどのデータを付加・修正することはできません。
- [USER] ボタンに「1 CLIP PLAY」を割り当てているときは、割り当てた[USER] ボタンを押すと、カーソル位置のクリップのみを再生することができます。
- ストレージデバイスによっては再生時に映像が止まったり音が途切れたりすることがあります。途切れなく再生するためには高速なストレージデバイスを使用してください。

クリップを削除する


ストレージデバイスに保存された不要なクリップを削除できます。

1. ストレージデバイスのサムネール画面で、削除するクリップを選択する
2. [MENU] ボタンを押す
3. カーソルボタンで、メニュー「DELETE」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
4. 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す





◆NOTE:

NG(不良クリップインジケータ)や **?**(不明クリップインジケータ)が表示されたクリップは、削除できないことがあります。

クリップの映像と音声の確認をする

1. ストレージデバイスのサムネール画面を表示する
2. カーソルボタンで、表示したいクリップにカーソルを合わせる
3. [PLAY]  ボタンを押す
カーソルを合わせたクリップから、再生が始まります。カーソルを合わせたクリップが終わると、それ以降のクリップが順に再生され、最後のクリップの再生が終わるとストレージデバイスのサムネール画面に戻ります。

◆NOTE:

- クリップを再生するときには、クリップを選択(サムネールに水色の枠が表示された状態)する必要はありません。
- サムネール表示設定を変更して、選択したクリップだけを再生したり、テキストメモが付加されたクリップだけを再生したりすることができます。
- [PLAY]  ボタンの代わりに[SEARCH]ボタンを押すと、クリップの先頭フレームの映像が静止画として表示されます。
- [PLAY]  ボタンの代わりに、[REW]  ボタンを押すと早戻し、[FF]  ボタンを押すと早送りが行えます。
- クリップ番号が赤色に表示されたクリップは再生できません。

ストレージデバイスからP2カードへの書き戻し(インポート)

■ TYPE SのストレージデバイスやP2 Storeからパーティション単位でインポート

パーティション単位(カード単位)で、もとのカードと同じ品番のP2カードへインポート(ストレージデバイスからP2カードへの書き戻し)することができます。

1. **インポート先となるP2カードを挿入する**
P2カードは必ずフォーマット済みのカードを挿入してください。
2. **ストレージデバイスを接続する**
3. **メニュー「EXPLORE」(→88 ページ)で「STORAGE」を選択し、エクスプローア画面を表示する**
4. **エクスプローアで、インポートするパーティションのサムネールを表示する**
5. **メニュー「IMPORT」(→88 ページ)を選択する**
6. **インポート先のP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す**
確認メッセージで「YES」を選択するとインポートが始まります。
インポートが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆NOTE:

- 元のP2カードとは異なるP2カードにインポートしたとき、クリップによっては不完全(インジケータ付き)クリップになることがあります。この場合、連結機能を使ってクリップを再構成してください。
(→「不完全クリップの連結」 39 ページ)
- メニュー「VERIFY」(→90 ページ)の設定により、コピー時にベリファイを行うかどうかを切り替えることができます。
- 異なる品番のP2カードへの、パーティション単位でのインポートはできません。その場合はクリップ単位でコピーを行ってください。

■ クリップ単位でP2カードへコピー

ストレージデバイスのクリップを指定して、P2カードにコピーできます。

1. **ストレージデバイスのサムネール画面を表示する**
2. **コピーするクリップを選択する**
3. **[MENU] ボタンを押す**
4. **メニュー「COPY」(→88 ページ)のリストからコピー先にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す**
確認メッセージで「YES」を選択すると、コピーが始まります。
コピーが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

本機をネットワークに接続して利用する

ネットワーク端子(1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T)を利用して、ネットワークへ本機を接続し、ネットワーク上のサーバー機器へクリップを転送することができます。

(機能)

- 本機からのクリップの送受信(FTPクライアント機能によるクリップの転送)

ネットワークの設定

ネットワークの機能を利用する場合には、メニュー「NETWORK SEL」(→100 ページ)の設定を「LAN」にします。メニューの変更後は本機の電源の入れなおしが必要となります。その後、利用する機能に応じて設定をしてください。

◆NOTE:

ネットワークの設定を行うと、その設定内容は保存されます。

LANの設定

本機をネットワークに接続して利用する場合には、LANの設定が必要です。

メニュー「LAN PROPERTY」(→101 ページ)で各種設定を行ってください。

設定項目:

項目	内容	設定値	工場出荷時の設定
MAC ADDRESS	マックアドレス(固有ID)	変更できません。	設定値(変更不可)
DHCP	DHCP利用設定	ENABLE: DHCP(自動取得)を利用します。 DISABLE: DHCP(自動取得)を利用しません。	ENABLE
IP ADDRESS	IPアドレス	テンキーボードを用いて入力します。	192.168.0.1
SUBNET MASK	サブネットマスク	テンキーボードを用いて入力します。	255.255.255.0
DEFAULT GATEWAY	デフォルトゲートウェイ	テンキーボードを用いて入力します。	192.168.0.254
PRIMARY DNS	優先DNSサーバー設定	テンキーボードを用いて入力します。	0.0.0.0
SECONDARY DNS	代替DNSサーバー設定	テンキーボードを用いて入力します。	0.0.0.0

◆NOTE:

- 「NETWORK SEL」が「LAN」の場合には電源ON時にネットワーク開始のため起動時間が長くなる場合があります。
- 「NETWORK SEL」が「OFF」の場合にはネットワーク機能を利用できません。また「NETWORK SEL」の設定を変更した場合は、機器を再起動するまで変更が反映されません。
- 設定が変更された場合、ネットワークサービスを再起動するため設定画面終了に時間がかかる場合があります。
- IPアドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは正しい組み合わせでなければなりません。設定画面終了時に「CANNOT ACCESS GATEWAY!」のワーニングが表示された場合は、ご利用のネットワークの管理者にお問い合わせください。
- デフォルトゲートウェイやDNSを使用しない場合は、0.0.0.0に設定してください。
- ネットワーク環境によっては、DHCP、DNSが正しく動作しないことがあります。

クライアントの設定

FTPクライアント機能でクリップの転送を行う場合は、事前に接続先などの設定が必要です。
メニュー「CLIENT SERVICE」(→101 ページ)の設定を行ってください。

CLIENT SERVICE:

項目	内容	設定値	工場出荷時の設定
FTP SERVER URL	接続先サーバー名またはアドレス	フルキーボードを用いて入力します。(最大500文字)	設定なし
LOGIN USER / LOGIN PASSWORD	接続するユーザーIDとパスワード	フルキーボードを用いて入力します。(ユーザーIDは最大31文字、パスワードは最大15文字)	設定なし
SSH	SSHを用いてファイルを転送する場合に設定します	ENABLE: SSHを使用します。 DISABLE: SSHを使用しません。	DISABLE
SSH PORT	SSHを使用するときのネットワークのポート番号を設定します	サーバー側と同じ番号に設定してください。メニューの設定値の表示は「*」で表示されます。	22

- 設定したパスワードの内容は、本機では表示できません。

サーバー機能の設定

各種サーバー機能の設定を行います。
本設定はサムネールモードからのメニュー操作により行います。

NETWORK FUNC:

項目	内容	設定値	工場出荷時の設定
HTTP SERVER	HTTPサーバー設定	BROWSE: P2ブラウザ機能を有効にします。 BROWSE(+CTRL): P2ブラウザ機能と、端末側から録画開始や停止、タイムコードやユーザービットのプリセット制御を有効にします。 DISABLE: HTTPサーバー機能を無効にします。	DISABLE
USER ACCOUNT	ユーザーアカウント名	フルキーボードを用いて入力します。	
ACCOUNT LIST	設定されているアカウント名の表示 •アカウントの新規登録や削除、パスワードの変更も行うことができます。		USER NAME: guest PASSWORD: p2guest
USE BACKGR FTP	FTPサーバー設定	ENABLE: FTPサーバーを起動します。 •LAN設定画面のNETWORKもENABLEにする必要があります。 DISABLE: FTPサーバーを起動しません。	DISABLE
USE BACKGR SAMBA	sambaサーバー設定	ENABLE: sambaサーバーを起動します。 •LAN設定画面のNETWORKもENABLEにする必要があります。 DISABLE: sambaサーバーを起動しません。	DISABLE
WORKGROUP	ワークグループ(最大15文字)	フルキーボードを用いて入力します。	WORKGROUP
HOSTNAME	ホスト名(最大24文字)	フルキーボードを用いて入力します。	AJ-PD500
SERVER TIMEOUT	タイムアウト時間(単位: 分)	FTP、SAMBAの通信タイムアウトによるログイン解除、ファイル転送ベンディング時のタイムアウト時間を設定します。 設定可能な値は2分、5分、10分、20分、タイムアウトなしです。	NO TIMEOUT

◆NOTE:

設定したパスワードの内容は本機では表示できません。内容を忘れた場合などは、アカウントリストを表示後[SHIFT]+[SET]ボタンを押し、ユーザーアカウントのパスワードを設定しなおしてください。

動作確認のツールとステータス表示および初期化

FTPクライアントのネットワークの接続状況の確認ができません。

■ 接続の確認(PING)

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 [MENU] ボタンを押しメニューを表示する
- 3 [上] / [下] カーソルボタンで「PING」(→101 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
- 4 設定されたアドレスとの接続確認を実行する

接続が確認された場合は「PING SUCCESSFUL!」が表示されます。

約30秒以内に接続ができない場合は「PING FAILED!」が表示されます。次節のログを表示すると、失敗の原因が表示される場合があります。

■ 接続のログの表示(LOG)

- 1 [MENU]ボタンを押しメニューを表示する
- 2 [上] / [下] カーソルボタンで「LOG DISPLAY」(→101 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
ログが表示されるので内容を確認する
- 3 確認終了後は[EXIT] ボタンを押しメニューに戻る

◆NOTE:

- 操作によっては、ログに何も表示されない場合があります。
- ログ上では、パスワードは「*」で表示されます。

■ ステータスの表示

- 1 [MENU] ボタンを押しメニューを表示する
- 2 カーソルボタンで「STATUS DISPLAY」(→101 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
接続状態が表示されます。
- 3 確認終了後は[EXIT]ボタンを押しメニューに戻る

◆NOTE:

- ステータス情報はリアルタイムに更新されません。最新の情報を表示するためには再度上記の操作を行ってください。
- 「DHCP」の設定が「ENABLE」の場合は、一般にLAN設定の内容と異なる値になります。
- 「DHCP」の設定で、アドレス情報の取得中はステータス情報が正しく表示されません。
- デフォルトゲートウェイは、正しく設定されていない場合にはステータス情報としては表示されません。
- LAN設定において、PRIMARY(優先)DNSを設定せずに、SECONDARY(代替)DNSのみを設定している場合は「DNS1」として表示されます。

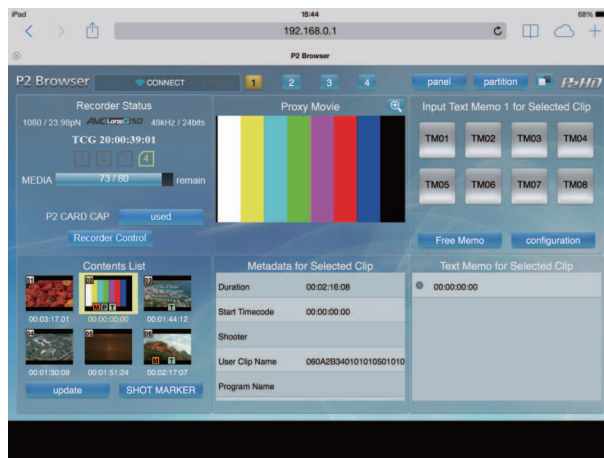
■ ネットワーク設定の初期化(INITIALIZE)

- 1 [MENU] ボタンを押し、メニューを表示する
- 2 カーソルボタンで「NETWORK TOOLS」 - 「INITIALIZE」(→101 ページ)にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す
初期化が完了してメニューに戻ります。

P2 ブラウズ機能

■ Web ブラウザーからアプリケーション(P2 Browser)を起動する

携帯端末やパーソナルコンピューターとネットワーク接続が完了したら、携帯端末、パーソナルコンピューターのブラウザを起動し、アプリケーション(P2 Browser)を起動します。



1 メニュー「I/F SETUP」- 「NETWORK」- 「NETWORK FUNC」- 「HTTP SERVER」(→100 ページ)で「BROWSE」または「BROWSE(+CTRL)」を選択する

P2 ブラウズ機能が有効になります。

2 携帯端末やパーソナルコンピューターのブラウザ(Safari、Internet Explorer)を起動する

3 本体に設定したIP アドレスをブラウザのアドレス入力欄に入力する

- 工場出荷値: 192.168.0.1

4 パーソナルコンピューターの場合はEnter キーを押し、iPad/iPhone の場合はGO ボタンをタップする Web アプリケーション(P2 Browser)が起動します。

5 「USER NAME」と「PASSWORD」を入力画面で入力する

本体に設定した「USER ACCOUNT」(工場出荷値:「guest」)と「PASSWORD」(工場出荷値:「p2guest」)を入力します。
(図1)のような画面が表示されると接続完了です。

メニュー「I/F SETUP」- 「NETWORK」- 「NETWORK FUNC」- 「USER ACCOUNT」(→100 ページ)でユーザーアカウント名やパスワードが設定できます。

メニュー「I/F SETUP」- 「NETWORK」- 「NETWORK FUNC」- 「ACCOUNT LIST」(→100 ページ)でアカウントの新規登録や削除、パスワードの変更ができます。

ユーザーアカウント名は31 文字以下、パスワードは6 文字以上、15 文字以下です。

P2 Browser に関する情報は、次のWeb サイトから、「P2 Web Application」の操作説明書を参照してください。

<https://pro-av.panasonic.net/manual/jp/index.html>

◆NOTE:

- 「NETWORK SEL」が「LAN」の場合、ネットワーク開始のため電源を入れたときに起動時間が長くなる場合があります。
- 「NETWORK SEL」が「OFF」の場合、ネットワーク機能は利用できません。
- 「NETWORK SEL」の設定を変更した場合、本機を再起動するまで変更が反映されません。設定が変更された場合、ネットワークサービスを再起動するため設定画面終了に時間がかかる場合があります。
- FTPサーバー/SAMBAサーバーが有効設定の場合、ブラウザ画面上のREC/STOPボタンをクリックしても動作しません。
- 記録や再生(「STOP EE SEL」-「PB」設定時のSTOPを含む)中は、ブラウザ画面上のサムネールは表示されません。

- IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは正しい組み合わせでなければなりません。設定画面終了時に「CANNOT ACCESS GATEWAY!」の警告が表示された場合は、ご利用のネットワークの管理者にお問い合わせください。
- デフォルトゲートウェイやDNS を使用しない場合は、「0.0.0.0」に設定してください。
- ネットワーク環境によっては、DHCP やDNS が正しく動作しないことがあります。

P2 プレイリスト編集機能

次の機能に対応しています。

- プレイリストの編集 / 保存
- プレイリストから新しいクリップを作成(エディットコピー)
- プレイリストを用いた SDI再生
- メタデータの表示 / 編集
- メタデータ(ショットマーク/ テキストメモ)の付加 / 削除

切替方法などについては「P2 プレイリスト編集モード」(→68 ページ)を参照してください

録再モードでのサーバー機能を利用する

サーバーサービスの設定

各種サーバーサービスの設定を行います。ENABLEに設定するとサービスが起動され使用することができます。

BACKGROUND FTPサーバーサービス:

録再モードにおいて、FTPクライアントからのアクセスを受けてファイルの転送を行います。

BACKGROUND SAMBAサーバーサービス:

録再モードにおいて、外部からのアクセスを受けてファイルの転送を行います。なお、本SAMBAサーバーは読み出しのみ可能です。

サーバーサービス

ネットワーク上のコンピュータ機器から本機にログインすることで、本機上のP2カードの読み書き動作が可能になります。ただし、本機が録再モード以外の状態または記録動作中はサーバーサービスを停止しているため、ログインはできません。

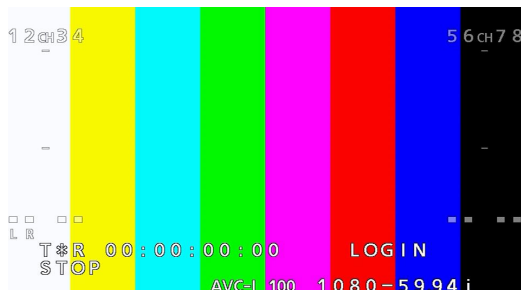
再生動作中については、ファイル転送がペンディングされません。

また、ログイン中は録再モード以外への切り替えおよび記録動作はできません。ログアウトまで待つか、本機の操作でログインを強制切断する必要があります。

◆NOTE:

SAMBA接続の場合、通常はクライアント側でのログアウト処理がありません。したがってサムネール表示などへ切り替える場合は、データ転送を行っていないことを確認のうえで、本機の操作でログインを強制切断してください。

ログイン中は下記の通り液晶画面にログイン表示されます。



■ ログインの強制切断について

ログインを強制切断したい場合はMODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してください。その後表示に従って切断する場合はSETボタンを押してください。

◆NOTE:

- サーバーの接続コネクション数は最大1個です。クライアントソフトによっては複数のコネクションを占有します。
 - P2カード内には、フォルダーの作成や削除はできません。
 - ファイルを書き込むことができるのは、CONTENTSフォルダー階層下のAUDIO、AVCLIP、CLIP、ICON、PROXY、VIDEO、VOICEフォルダーです。これらのフォルダーは名前の変更と削除はできません。
 - P2カードにあるLastClip.txtファイルは読み出し専用です。
 - FTPクライアントソフト異常終了時などには、接続コネクションが残っている場合やファイルをオープンしたままの場合があります、この場合は、強制切断でFTPサーバーをリセットできません。
- BACKGROUND SAMBAサーバーサービスは再生動作中についてもログインはできません。
- SAMBAサーバーサービスが設定されているときは、サービスを起動するためサムネールを閉じる動作が遅くなります。

録再モードでのFTPサーバーでは、以下のフォルダーが見えます。

P2カード:	slot1～slot4
--------	-------------

SAMBAサーバーでは以下のフォルダーが見えます。

P2カード:	slot1～slot4
--------	-------------

◆NOTE:

P2カード上のファイルは、半角文字で大文字小文字区別なしの、ファイル名8文字、拡張子3文字で表現されます。転送元ファイル名がこの形式にあてはまらない場合は、P2カードで表現可能な文字に修正されるため、転送元では別のファイル名であってもP2カードでは同一ファイル扱いになることがあります。

FTPクライアント機能を利用する

FTPクライアント機能を利用するためには、あらかじめ、LAN設定、FTPクライアント設定が必要です。

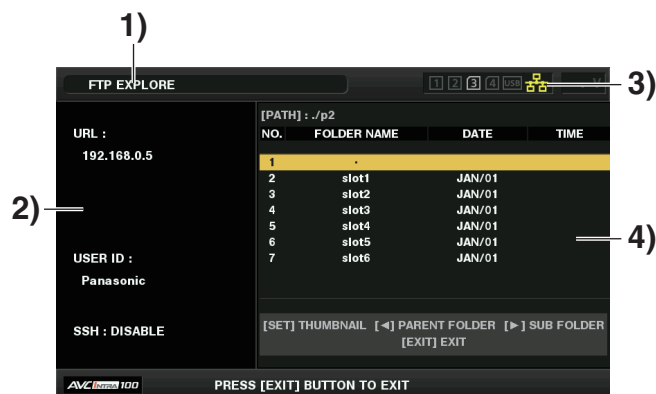
FTPサーバーのフォルダー一覧(FTPエクスプロー画面)

FTPサーバーのフォルダーツリーを探索し、フォルダー内のサブフォルダー一覧表示や、フォルダーの情報を表示することができます。また任意のCONTENTSフォルダー(P2カードのクリップを格納しているフォルダー)内のサムネール一覧を表示することもできます。

1 サムネール画面を表示する

2 [MENU] ボタンを押す

3 カーソルボタンで「EXPLORE」(→88 ページ) - 「LAN」にカーソルを合わせ、[SET] ボタンを押す



1)表示状態

FTPエクスプロー画面であることを示します。

2)FTPサーバー情報

次の情報が表示されます。

URL:	接続しているFTPサーバーのURL
USER ID:	ログインしているユーザーID
SSH:	SSHのENABLE/DISABLEの表示

3)メディア状態

P2カードの挿抜状態、ハードディスクの接続状態、タイプ、LANケーブルの接続状態が表示されます。

LANインジケータは以下の状態を表します。

灰色:	LANの設定がOFFになっているとき、灰色で表示されます。
白色:	LANの設定がONになっているとき、白色で表示されます。
黄色:	LANケーブルが挿入されLINKしているとき、黄色で表示されます。
赤色:	本機に異常があるときは、赤色で表示されます。故障が考えられますのでお買い上げ販売店にご相談ください。

◆NOTE:

LANインジケータは実際の状態から数秒遅れて表示が更新されます。

4)フォルダー情報

PATH:	FTPサーバー上における現在フォルダーのパス
NO.:	フォルダー番号(1~)
FOLDER NAME:	フォルダーの名前
DATE:	最終更新日
TIME:	最終更新時刻

◆NOTE:

- フォルダー一覧に表示されるのは、フォルダーのみで、通常のファイル、リンクファイルは表示されません。
- 「.」は現在のフォルダーを表します。なお日時情報は表示されません。
- 日時情報は、ローカル時刻の場合と世界標準時の場合がありますが、FTPサーバーからの情報に依存します。また、年号と時刻はいずれかのみが表示となる場合があります。
- 大文字小文字を区別するかどうかはFTPサーバーに依存します。
- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- 一つのフォルダー内は、100個までしかフォルダーが表示されません。101個目以上のフォルダーにはFTPエクスプロー画面からはアクセスできません。ただしFTPクライアント設定の、「FTP CLIENT URL:」にフォルダー名を直接記述しておけば101個目以上であっても、そのフォルダー内にアクセスできます。
- パーソナルコンピュータなどでFTPサーバーに接続した場合は、接続性やフォルダー表示の様子が異なる場合があります。
- FTPサーバーおよび接続環境によっては、エラーメッセージが正しく表示されない場合があります。
- 接続中に操作を中断したい場合は、[SET]ボタンを押してください。
- エラーとなる場合は再度操作を行ってください。
- LANケーブル挿入直後にネットワーク関連の操作を行ったり、前回の操作を中断した直後に再度操作を行ったりするとエラーとなる場合があります。
- 何度か操作を行っても接続エラーとなる場合は、まずPINGを確認してください。PINGが失敗する場合は、LAN設定が正しいか、LANケーブルが正しく接続されているか、経路上のハブやルーターが正しく動作しているかを確認してください。また、PINGが成功する場合は、FTPサーバーにてサーバー機能のサービスが動作しているか、通信経路上でファイアウォールが設定されていないか、FTPサーバーにおいてログイン可能なユーザーID、パスワードが設定されているかを確認してください。ただし、PINGが失敗してもFTPには接続できる場合もあります。
- 上記の確認を行っても接続できない場合は、ご利用のネットワーク環境のシステム管理者にお問い合わせください。
- FTP操作をキャンセルした直後は、しばらくの間、一部のGUI操作ができないことがあります。

FTPエクスプロー画面における操作

[右]カーソルボタン: カーソル位置のサブフォルダーの内容が表示されます。

[左]カーソルボタン: 現在のフォルダーの上位フォルダーの内容が表示されます。

[上] / [下]カーソルボタン: カーソルの移動。

[TOP] / [BOTTOM]ボタン: リスト上の、最上位 / 最下位のフォルダーにカーソルを移動。

◆NOTE:

- サーバー側の動作仕様やアクセス権設定によっては、フォルダー内容の表示などの操作ができない、フォルダーパスが正しく表示されない等の場合があります。
 - フォルダー内のカーソル位置は、一つ前のフォルダーまで記憶されます。ただしエラーが発生した場合は最上位にリセットされます。
- また、サムネール表示を行った場合は、直前に表示されているフォルダー一覧のカーソル位置のみ記憶します。

FTPサーバー上のクリップのサムネール表示 (FTPサムネール画面)

FTPサーバー上のクリップも、本機に装着したP2カードと同様にサムネール表示できます。

FTPサムネールの表示

1 FTPエクスプロー画面を表示する

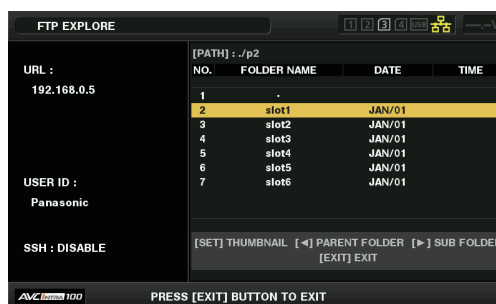
フォルダー一覧が表示されます。

2 カーソルボタンでサムネール表示したい CONTENTSフォルダーがあるフォルダーにカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

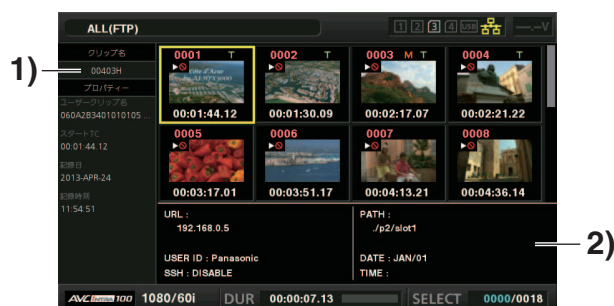
そのフォルダーのクリップがサムネール表示されます。

◆NOTE:

- CONTENTSフォルダーで[SET]ボタンを押してもサムネールは表示されません。必ずCONTENTSフォルダーのひとつ上のフォルダーまたは現在のフォルダーを表す「.」で[SET]ボタンを押してください。
- 大文字の「CONTENTS」と小文字の「contents」の両方が存在するフォルダーを選択した場合は大文字の方の内容が表示されます。
- CONTENTSフォルダー以下に、大文字と小文字のフォルダーが混在している場合は、正しくアクセスできなかったり、エラーメッセージが不正になったりする場合があります。



SET EXIT



1) クリップ情報

カーソル位置のクリップのプロパティー表示
(→「サムネール画面」30 ページ)

2) FTPサーバー / フォルダ情報

URL:	接続しているFTPサーバーのURL
USER ID:	ログインしているユーザーID
SSH:	SSHのENABLE / DISABLEの表示
PATH:	現在表示しているサムネールのフォルダのFTPサーバー上のパス
DATE:	最終更新日
TIME:	最終更新時刻

◆NOTE:

- [EXIT]ボタンを押すと、エクスプローラー画面に戻ります。
- 1001 個目以降のクリップは表示されません。
- 日時情報は、ローカル時刻の場合と世界標準時の場合とがありますが、FTPサーバーからの情報に依存します。
- 「.」を選択してサムネールを表示した場合、フォルダの日時情報は表示されません。

FTPサーバー上のクリップを削除する

P2カードの場合と同様にFTPサーバー上の不要なクリップを削除できます。

(→「クリップを削除する」38 ページ)

◆NOTE:

FTPサムネール表示状態でしばらく放置すると、FTPサーバーが接続を切断する場合があります、その後にクリップ削除の操作を行うと削除ができません。この場合は、一度FTPエクスプローラー画面に戻って、再度FTPサムネール表示を行ってから削除の操作を行ってください。

FTPサーバー上のクリップの情報を表示する

FTPサーバー上のクリップの各種メタ情報を表示できます。内容および表示の方法はP2カードのクリップのプロパティと同じです。

1 FTPサムネール画面で、対象のクリップへカーソルを移動する

クリップの詳細な情報を画面に表示して確認できます。

2 [MENU] ボタンを押す

3 カーソルボタンで「CLIP PROPERTY」(→87 ページ)にカーソルを合わせて、[SET]ボタンを押す

◆NOTE:

- メタデータの表示はしますが、修正はできません。
- FTPサムネールやFTPプロパティ表示状態でしばらく放置すると、FTPサーバーが接続を切断し、それ以後の操作でサムネール表示などができなくなる場合があります。この場合は、一度FTPエクスプローラー画面に戻って、再度FTPサムネール表示などの操作を行ってください。

クリップを転送する

P2カードやハードディスクのクリップをFTPサーバーへ転送したり、FTPサーバーからP2カードやハードディスクへクリップを書き戻したりすることができます。

FTPサーバーへの転送(コピー)

1 サムネール画面を表示し転送するクリップを選択する

2 [MENU]ボタンを押す

3 カーソルボタンで、メニュー「CLIP」-「COPY」(→88 ページ)で「FTP」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

プロキシ記録のみをコピーするときは、メニュー「CLIP」-「COPY」で「FTP(PROXY)」を選択してください。本線の映像・音声以外のデータのコピーを行います。

◆ NOTE:

FTPエクスプローラーは、本線の映像または音声のデータがない場合(PROXYコピーを行ったクリップなど)は、再生不可およびProxyのみのクリップとして「P.only」と表示されます。

4 サーバー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるのでカーソルボタンを使用して転送先フォルダーを選択する。



◆ NOTE:

- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- [TC PRESET]ボタンを押すと現在のフォルダー一覧に新規にフォルダーを追加作成します。(カーソル位置は関係ありません)
新規フォルダー名は自動で日時を示す数値が入力されますが、フルキーボードを使用して設定することができます。ただし、FTPサーバーによっては、使用できない文字もあります。また、すでに同じ名前前のフォルダーが存在する場合は作成できません。

5 「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

コピーが開始されます。
(→クリップ単位でのインポート時は「クリップをコピーする」37 ページも合わせてお読みください)
コピーを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆ NOTE:

- サーバー上のクリップ数、ネットワークの状態などにより、サムネール表示、コピーに時間がかかる場合があります。
- コピーを中断したいときは、[SET]ボタンを押し、CANCELの確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押すと中断できます。ネットワークが切断されていないければ、途中までコピーされたコピー先のクリップは削除されます。また、ネットワークが切断された場合は、不完全なクリップがFTPサーバーに残る場合があります。
- コピーを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりコピーを中断してください。
- FTPサーバーの残量はコピー開始前に自動的に確認できませんので、あらかじめFTPサーバー管理者に確認してください。
- FTPサーバーの残量が0の場合にエラーとなるかどうかはFTPサーバーに依存します。エラーとならない場合は上記操作により中断してください。
- FTPサーバーのコピー先フォルダー内のクリップ数が1000を超える場合はコピーできません。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHを「ENABLE」にすると転送速度は低下します。
- パーソナルコンピューターなどで転送結果を確認するには、パーソナルコンピューター上での表示の更新が必要な場合があります。

FTPサーバーからの書き戻し(コピー)

ネットワーク上のFTPサーバーから、選択したクリップをP2カードまたはハードディスクへ書き戻すことができます。

1 FTPサムネール画面を表示する

2 サーバー上のサムネールが表示されるので、コピーするクリップを選択する

3 [MENU]ボタンを押す

4 カーソルボタンでメニュー「CLIP」-「COPY」(→88ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

5 一覧メニューから転送先(P2スロットまたはハードディスク)を選択し書き戻しを開始する

◆ NOTE:

- サーバー上のクリップ数、ネットワークの状態などにより、サムネール表示、コピーに時間がかかる場合があります。
- コピーを中断したいときは、[SET]ボタンを押し、CANCELの確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押すと中断できます。途中までコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- コピーを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりコピーを中断してください。
- コピー先P2カードやハードディスクのフォルダー内のクリップ数が1000を超える場合はコピーできません。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHを「ENABLE」にすると転送速度は低下します。
- コピーなどの操作でいったんエラーが発生した後は、FTPサーバーへの接続が切断されて、操作の継続ができなくなる場合があります。この場合は、いったんFTPエクスプローラー画面に戻って再度FTPサムネール画面を表示してからコピーなどの操作を行ってください。
- FTPサーバーからP2カードへのクリップ書き戻しは、メイン記録の映像と音声を含むクリップのみ可能です。プロキシー記録クリップのみをFTPサーバーからP2カードへ書き戻すことはできません。([UNKNOWN CONTENTS FORMAT!]とエラーメッセージが表示されます)

コピーを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されず。

SDメモリーカードのデータを転送する

SDメモリーカード内のデータをFTPサーバーへ転送したり、FTPサーバーからSDメモリーカードへ書き戻したりすることができます。

FTPサーバーへの転送(エクスポート)

1 サムネイル画面を表示する

2 [MENU] ボタンを押す

3 カーソルボタンで、メニュー「CLIP」-「EXPORT」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

◆ NOTE:

- SDカードスロットにカードが挿入されている場合のみ、「SD CARD」メニューが選択できます。
- SDカードスロットのカードはメモリーカード全体を一括でのみエクスポートすることができます。P2カードのようにクリップを選択してエクスポートすることはできません。

4 サーバー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるので転送先フォルダーを、カーソルボタンを使用して選択する。

◆ NOTE:

- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- [TC PRESET]ボタンを押すと現在のフォルダー一覧にフォルダーを新規に追加作成します。(カーソル位置は関係ありません)
新規フォルダー名は自動で日時を示す数値が入力されますが、フルキーボードを使用して設定することができます。ただし、FTPサーバーによっては、使用できない文字もあります。また、すでに同じ名前のフォルダーが存在する場合は作成できません。

5 [SET] ボタンを押すとエクスポートを開始する

◆ NOTE:

- ファイル数やサイズ、ネットワークの状態などにより、エクスポートに時間がかかる場合があります。
- エクスポートを中断したいときは、[SET]ボタンを押し、「CANCEL」の確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押すと中断できます。ネットワークが切断されていなければ、途中までエクスポートされたFTPサーバー上のファイルは削除されます。
ネットワークが切断された場合は、不完全なファイルがFTPサーバーに残る場合があります。
- エクスポートを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりエクスポートを中断してください。
- FTPサーバーの残量はエクスポート開始前に自動的に確認できませんので、あらかじめFTPサーバー管理者に確認してください。

- FTPサーバーの残量が0の場合にエラーとなるかどうかはFTPサーバーに依存します。エラーとならない場合は上記操作により中断してください。
- 既存のフォルダーを選択した場合で、その中にSDメモリーカード内と同じパス名のファイルが存在した場合は、アラートが表示されずに上書きされます。ただし、同じパス名で種類が異なる(フォルダーとファイル)場合はエラーとなります。
- 上書きなどによって意図しない結果になることを防ぐため、できるだけ新しいフォルダーを作成してエクスポートを行ってください。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHをENABLEにすると転送速度は低下します。
- 「EXPORT」でクリップを転送した場合は、エクスプローラー画面でサムネイルは表示されません。

エクスポートを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

FTPサーバーからの書き戻し (インポート)

ネットワーク上のFTPサーバーから選択したフォルダーをSDメモリーカードへ書き戻すことができます。

1 FTPエクスプローラー画面を表示する

2 FTPサーバーのフォルダー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるので転送元フォルダーへカーソルボタンを使用して移動する。

3 [MENU]ボタンを押す

4 カーソルボタンで、メニュー「IMPORT」(→88 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す

SD IMPORTの確認ダイアログが表示され、「OK」を押すと、SDメモリーカードへの書き戻しが開始されます。

◆ NOTE:

- インポートを中断したいときは、[SET]ボタンを押し、「CANCEL」の確認表示で「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押すと中断できます。途中までインポートされたSDメモリーカード内のファイルは削除されますが、インポート済みのファイルはそのまま残ります。
- インポートを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。
長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりインポートを中断してください。
- 選択したフォルダー以下のファイル数やサイズ、ネットワークの状態などにより、書き戻しに時間がかかる場合があります。
- SDメモリーカード内に同じパス名のファイルが存在した場合は、アラートが表示されずに上書きされます。ただし、同じパス名で種類が異なる(フォルダーとファイル)場合はエラーとなります。
- 上書きなどによって意図しない結果になることを防ぐため、できるだけSDメモリーカードをフォーマットしてからインポートを行ってください。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHを「ENABLE」にすると転送速度は低下します。

インポートを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

USBデバイスモード

パーソナルコンピューターなどとUSB2.0で接続することにより、本機のP2カードスロットに挿入されたP2カードをマストレージとして扱うことができます。このとき、パーソナルコンピューターには、当社のWebサイトで無償配布しているUSB専用ドライバーをインストールする必要があります。(→「WebサイトURLについて」2ページ)

また、当社のWebサイトで無償配布しているP2 Viewer Plusを使用すると、P2カードに記録されたクリップが操作できません。

URLについては(→「WebサイトURLについて」2ページ)

◆NOTE:

この接続での操作については、利用するコンピューターやアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

1 停止状態のときに[MODE] ボタンを押す

◆NOTE:

メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合は[MODE]ボタンを押しても選択画面は表示されません。

2 選択画面で、「USB DEVICE」にカーソル(*)を合わせ、[SET] ボタンを押す



液晶モニターの「USB DEVICE」の文字が点滅してモードが切り替わります。モードが切り替わると、液晶モニターに「USB DEVICE CONNECTING...」と表示されます。その後パーソナルコンピューターとの接続が完了すると、「USB DEVICE CONNECT」の表示に切り替わります。

3 USBデバイスモードでの操作を行う

◆NOTE:

利用するコンピューターやアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

4 [MODE] ボタンを押して、通常のモードに戻る

◆NOTE:

USBデバイスモードでは、録画・再生を含むほとんどの操作はできません。

P2 プレイリスト編集モード

■ Web ブラウザーからアプリケーション(P2 Playlist Editor)を起動する

携帯端末やパーソナルコンピューターとネットワーク接続が完了したら、携帯端末、パーソナルコンピューターのブラウザを起動し、アプリケーション(P2 Playlist Editor)を起動します。

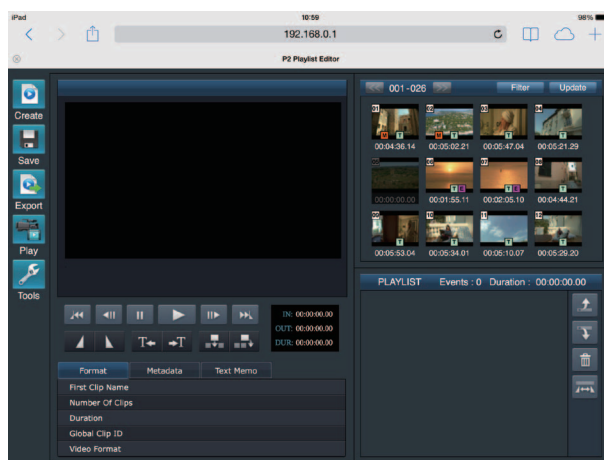


図 1

1 停止状態のときに[MODE] ボタンを押す

◆NOTE:

メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合は[MODE]ボタンを押しても選択画面は表示されません。

2 選択画面で、「PLAYLIST EDITOR」にカーソル(*)を合わせ、[SET] ボタンを押す

液晶モニターの「PLAYLIST EDITOR」の文字が点滅してモードが切り替わります。モードが切り替わると、液晶モニターの付加情報表示部に「PLAYLIST」と表示されます。

3 携帯端末やパーソナルコンピューターのブラウザ(Safari、Internet Explorer)を起動する

4 本体に設定したIP アドレスをブラウザのアドレス入力欄に入力する

•工場出荷値: 192.168.0.1

5 パーソナルコンピューターの場合はEnter キーを押し、iPad/iPhone の場合はGO ボタンをタップする

Web アプリケーション(P2 Playlist Editor)が起動します。

6 認証画面が表示されたら、「USER NAME」と「PASSWORD」を入力画面で入力する

本体に設定した「USER ACCOUNT」(工場出荷値:「guest」)と「PASSWORD」(工場出荷値:「p2guest」)を入力します。(図1)のような画面が表示されると接続完了です。

メニュー「I/F SETUP」- 「NETWORK」- 「NETWORK FUNC」- 「USER ACCOUNT」(→100 ページ)でユーザーアカウント名やパスワードが設定できます。

メニュー「I/F SETUP」- 「NETWORK」- 「NETWORK FUNC」- 「ACCOUNT LIST」(→100 ページ)でアカウントの新規登録や削除、パスワードの変更ができます。

ユーザーアカウント名は31文字以下、パスワードは6文字以上、15文字以下です。

P2 Playlist Editor に関する情報は、次のWeb サイトから、「P2 Web Application」の操作説明書を参照してください。

<https://pro-av.panasonic.net/manual/jp/index.html>

◆NOTE:

- 「NETWORK SEL」が「LAN」の場合、ネットワーク開始のため電源を入れたときに起動時間が長くなる場合があります。
- 「NETWORK SEL」が「OFF」の場合、ネットワーク機能、および、プレイリスト編集モードを利用できません。
- 「NETWORK SEL」の設定を変更した場合、本機を再起動するまで変更が反映されません。設定が変更された場合、ネットワークサービスを再起動するため設定画面終了に時間がかかる場合があります。
- IP アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは正しい組み合わせでなければなりません。設定画面終了時に「CANNOT ACCESS GATEWAY!」の警告が表示された場合は、ご利用のネットワークの管理者にお問い合わせください。
- デフォルトゲートウェイやDNS を使用しない場合は、「0.0.0.0」に設定してください。
- ネットワーク環境によっては、DHCP やDNS が正しく動作しないことがあります。
- プレイリスト編集モード時に同時に接続できるクライアントの数は1 台のみです。

7 [MODE] ボタンを押して、通常のモードに戻る

◆NOTE:

プレイリスト編集モードでは、録画・再生を含むほとんどの操作はできません。

AVCHD再生モード

AVCHDオプションボードを使用する

■ AVCHD とは？

高精細なハイビジョン映像を記録・再生するための規格です。映像圧縮はMPEG-4 AVC/H.264 方式、音声はドルビーデジタルまたはリニアPCMで記録します。

◆NOTE:

- 本機はAVCHD規格、またはAVCHD Ver.2規格 (AVCHD Progressive) に準拠して記録されたクリップを、再生できます。
- SDメモリーカードはカードのフォーマット時のシステム周波数のみで使用することができます。(ビデオの互換性について)
- AVCHD対応機器以外とは互換性がありません。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をお読みください。
- 1080-29.97PsF、1080-25PsF、1080-24PsF、1080-23.98PsF、480-59.94i、576-50iではAVCHD再生モードは選択できません。

SD / SDHC / SDXCメモリーカードについて

本AVCHDオプションのAVCHD再生で使用できるSDカードは以下の通りです。

カードの種類	容量
SDメモリーカード	32MB～2GB
SDHCメモリーカード	4GB～32GB
SDXCメモリーカード	32GB超、64GB以下

◆NOTE:

- AVCHD再生モードでは、miniSD / miniSDHCメモリーカード、microSD / microSDHC / microSDXCメモリーカードを専用のアダプターに装着しても、正常に動作しませんのでお気をつけください。
- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、Webサイトより、サポートページをご覧ください。(→「WebサイトURLについて」2ページ)
- 本機はSD規格に準拠したFAT12、FAT16形式でフォーマットされたSDメモリーカード、FAT32形式でフォーマットされたSDHCメモリーカード、およびexFAT形式でフォーマットされたSDXCメモリーカードに対応しています。
- SDHCロゴのない4 GB以上のSDHCメモリーカード、およびSDXCロゴのない48 GB以上のSDXCのメモリーカードは、SD規格に準拠していません。
- マルチメディアカードは使用できません。

SDメモリーカードスロットとアクセスランプについて

SDメモリーカードを本機のSDメモリーカードスロットへ挿入すると記録されているクリップをサムネイルで表示し再生することができます。

◆NOTE:

記録されているクリップを再生する際には、SDメモリーカードスロットに装備されているカバーを必ず閉じた状態にしてください。

■ アクセスランプ

オレンジ色点灯:	読み込み可能
オレンジ色点滅(速):	認識中、不良カード判別時
オレンジ色点滅(遅):	アクセス中
消灯:	読み込み不可状態、未挿入、未フォーマット、未対応カードの挿入

SDメモリーカードの保護について

SDメモリーカードの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐには、SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にします。

SDメモリーカードを取り出す

- 1 SDメモリーカードアクセスランプが点滅していないことを確認する
- 2 SDメモリーカードの中央を押し、少し出たらまっすぐ引き抜く

◆NOTE:

SDメモリーカードは必ずアクセスランプが点滅していないときに取り出してください。アクセスランプが点滅中に取り出した場合SDメモリーカードやカードスロットが故障する原因となります。

AVCHDのサムネイル画面を操作する

AVCHD再生モードへ切り替える

次の操作で画面・操作をAVCHD再生モードに切り替えます。

1 [MODE]ボタンを押す

モード選択メニューが表示されます。

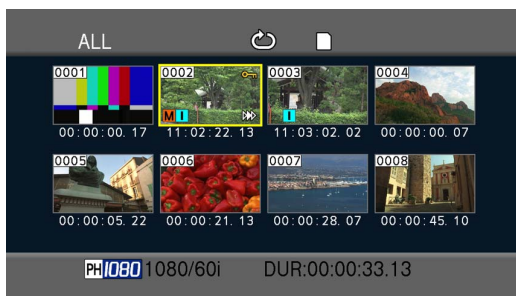


◆NOTE:

メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合は [MODE] ボタンを押しても選択画面は表示されません。

2 選択画面で、「AVCHD」にカーソル(*)を合わせ、[SET] ボタンを押す

液晶画面にSDメモリーカードの各クリップのサムネイルが表示されます。(クリップ数が多い場合、表示されるまでに時間がかかります。)



サムネイル画面を使って、以下のようなことができます。


- クリップの再生
- クリップのプロテクト設定、解除

サムネイル画面の基本操作

■サムネイルを選ぶには

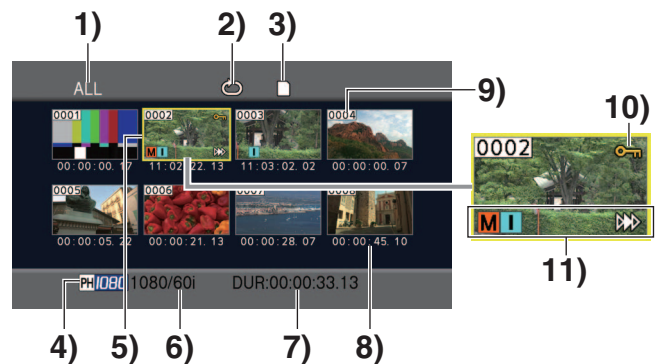
カーソルボタンを押してサムネイルを選びます。
(黄色の枠が移動)


■クリップを再生するには

サムネイルを選んで[PLAY]  ボタンを押します。
(再生について詳しくは「AVCHDクリップを再生する」(→75 ページ)を参照。)

■メニューを表示するには

サムネイル表示中に[MENU]ボタンを押します。



- 1) サムネイルの表示状態(→72 ページ)
サムネイル表示するクリップの種類を示しています。
- 2) リピート再生インジケータ(→74 ページ)
リピート再生時に表示します。
- 3) カード状態表示(→73 ページ)
SDメモリーカードの状態を表示します。
- 4) 記録モード表示
カーソルの位置のクリップの記録モードが表示されます。
- 5) カーソル(黄色の枠)
選択中のサムネイルに表示されます。
- 6) 記録フォーマット表示
カーソルの位置のクリップの記録フォーマットが表示されます。
- 7) デュレーション表示
カーソルの位置のクリップのデュレーションが表示されます。
- 8) 時間表示(→72 ページ)
設定により、クリップの記録開始時点のタイムコード / クリップの記録開始時点のユーザビット / 撮影時刻 / 撮影日 / 撮影日時のいずれかを表示します。
- 9) クリップ番号
記録した順番に表示されます。(1000クリップまで)記録フォーマットが違うクリップなど、再生できないクリップの番号は赤色で表示されます。赤色のクリップを再生するには、「PLAY SETUP」-「PB FORMAT」の設定を、クリップの記録フォーマットに合わせてください。
(→「再生フォーマットを設定する (PB FORMAT)」74 ページ)
- 10)  クリッププロテクト表示
プロテクトされたクリップに表示します。

11)各種インジケータ

M:ショットマーク

ショットマークが付いていることを示しています。ただし、本機ではショットマークは記録できません。

▶▶:レジューム再生表示

レジューム再生の対象になるクリップに表示します。

I:インデックス

インデックスが付加記録されていることを示しています。ただし、本機ではインデックスは記録できません。

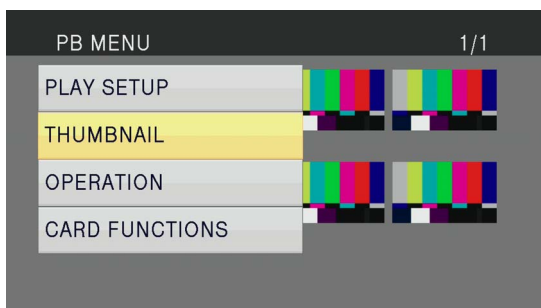
サムネールの表示方法を選ぶ (THUMBNAIL)

好みの種類のクリップをサムネール表示させることができます。

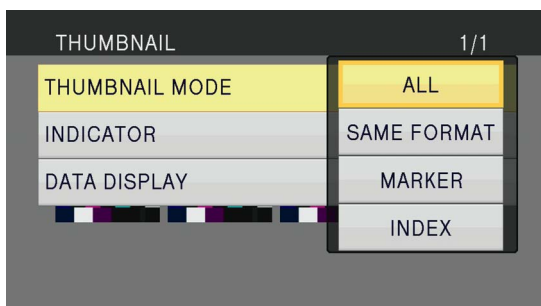
また、サムネール表示のしかたをさらに細かく設定することもできます。

1 [MENU] ボタンを押す

2 「THUMBNAIL」 を選び、[SET]ボタンを押す



3 [上]/[下]カーソルボタンを押して項目を選び、[SET]ボタンを押す



THUMBNAIL MODE:

表示するクリップを選びます。

ALL: すべてのクリップを表示します。

SAME PBフォーマットと同じクリップを表示します。

FORMAT:

MAKER: ショットマークが付いたクリップを表示します。

INDEX: インデックスが付いたクリップを表示します。

XXは初期値を表す

INDICATOR:

インジケータの表示/非表示(ON / OFF)を設定します。(工場出荷時はON に設定されています。)

OFF に設定しても、クリッププロテクト表示とレジューム再生表示は表示されます。

DATA DISPLAY:

クリップの時間表示の部分に表示する内容を選択します。

TC: タイムコード

UB: ユーザーズビット

TIME: 撮影時間

DATE: 撮影日

DATE TIME: 撮影日時

XXは初期値を表す

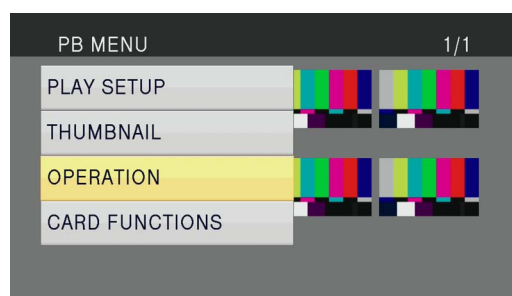
4 [MENU]ボタンを押して、サムネール画面に戻る

クリップのプロテクトを行う (OPERATION)

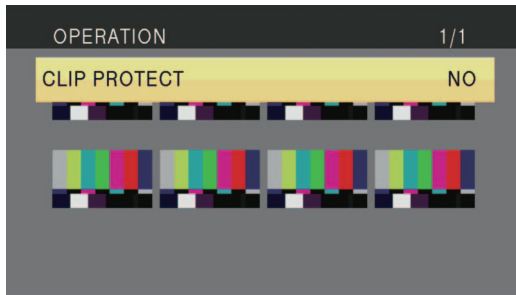
クリップのプロテクト(保護)を行うことができます。

1 [MENU]ボタンを押す

2 「OPERATION」 を選び、[SET]ボタンを押す



3 「CLIP PROTECT」を選び、[SET]ボタンを押す



CLIP PROTECT:

YES:	選択したクリップをプロテクトします。(マークが表示されます)プロテクトされたクリップを選択すると解除します。(マークが消えます)
NO:	1つ前の画面に戻ります。

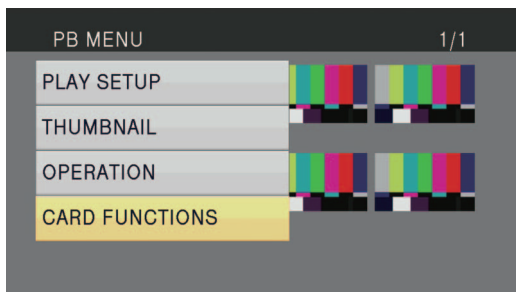
4 [MENU]ボタンを押して、サムネイル画面に戻る

クリップやカードの情報を確認する (CARD FUNCTIONS)

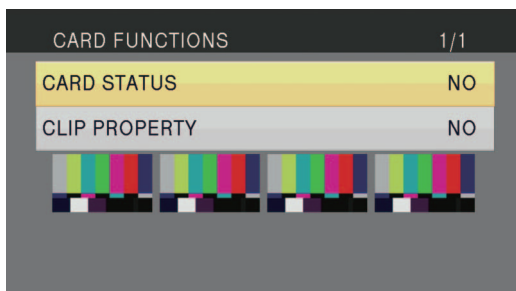
クリップやSDメモリーカードの情報が確認できます。

1 [MENU]ボタンを押す。

2 「CARD FUNCTIONS」を選び、[SET]ボタンを押す。

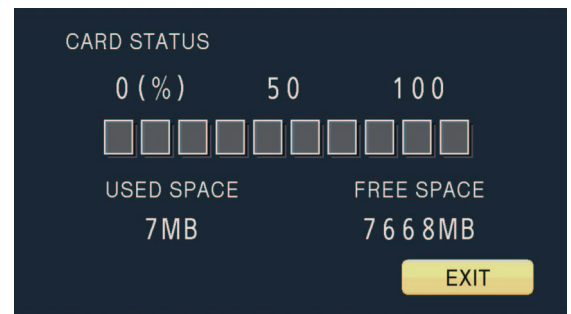


3 [上] / [下]カーソルボタンを押して項目を選び、[SET]ボタンを押す。



CARD STATUS:

SDメモリーカードの情報が表示されます。



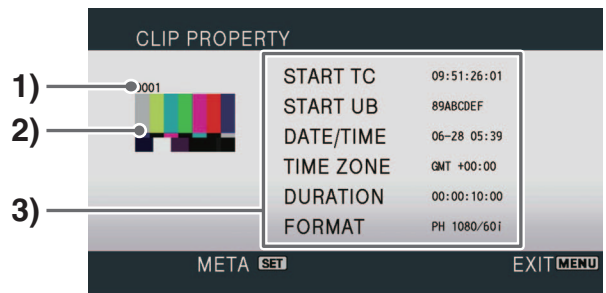
1)USED SPACE:使用容量

2)FREE SPACE:空き容量

CLIP PROPERTY:

選択したクリップの情報が表示されます。

[左] / [右]カーソルボタンを押すと前後のクリップの情報を表示できます。



1)クリップ番号

2)サムネイル

3)クリップ情報

クリップに付加された各種インジケータや、さまざまなデータを表示します。

START TC:	記録開始時のタイムコードの値
START UB:	記録開始時のユーザビットの値
DATE/TIME:	記録した日付と記録開始時の時刻
TIME ZONE:	タイムゾーンを表示します
DURATION:	クリップの長さ
FORMAT:	記録フォーマット

■ クリップメタデータの表示

クリップの情報画面を表示しているときに[SET]ボタンを押すと、映像音声フォーマットや、撮影者情報などの詳しいデータを表示します。[上] / [下]カーソルボタンで項目を選んでください。

◆NOTE:

- 本オプションではASCII文字のみ表示可能です。それ以外の文字は*で表示されます。
- AVCCAM機以外で記録されたクリップにはクリップメタデータが付加されていません。[SET]ボタンを押しても、クリップメタデータ表示画面に移動しません。

クリップメタデータ情報画面を解除するには[左]カーソルボタンまたは[EXIT]ボタンを押してください。

4 [MENU] ボタンを押して、サムネール画面に戻る

クリップメタデータについて

AVCCAM機でSDメモリーカードに記録した映像データには、映像音声方式、撮影者名、撮影場所、テキストメモなどが付加されていることがあります。

■ クリップメタデータの内容

GLOBAL CLIP ID:	グローバルクリップID (同じ番号が他のクリップに付くことがない、 世界で唯一の番号)
USER CLIP NAME:	ユーザーが設定したクリップの名称*1
VIDEO & AUDIO:	• 記録映像のFRAME RATE(フレームレート) • RESOLUTION(解像度) • PULL DOWN(プルダウン方式) • AUDIO(記録音声)
ACCESS:	• CREATOR(収録者名) • CREATION DATE(収録日) • LAST UPDATE DATE(最終更新日) • LAST UPDATE PERSON(最終更新者)
DEVICE:	• MANUFACTURER (撮影機材のメーカー名) • SERIAL NO. (撮影機材のシリアルナンバー) • MODEL NAME (撮影機材のモデル名)
SHOOT:	• SHOOTER(撮影者名) • PLACE NAME(撮影地の名前)
LOCATION:	• ALTITUDE(撮影地の高度) • LONGITUDE(撮影地の経度) • LATITUDE(撮影地の緯度) • SOURCE(情報源)
SCENARIO:	• PROGRAM NAME(番組名) • SCENE NO.(シーンナンバー) • TAKE NO.(テイクナンバー)
NEWS 1:	• REPORTER(リポーター名) • PURPOSE(取材目的)
NEWS 2:	• OBJECT(取材対象)
MEMO:	• PERSON(テキストメモの記録者) • TEXT(テキストメモの内容)

*1クリップ名称をユーザーが設定せず記録した場合は、カード単位に、最初に撮影したクリップを0として、撮影順に5桁の連番が付加されています

◆NOTE:

クリップに付加されているメタデータを修正することはできません。

再生の設定をする

再生するフォーマットや再生の方法を設定します。

再生フォーマットを設定する (PB FORMAT)

再生するフォーマットを設定します。
(→「メニューの操作」84 ページ)

1 [MENU]ボタンを押す

2 [PLAY SETUP]を選び、[SET]ボタンを押す

3 [PB FORMAT]を選び、[SET]ボタンを押す

4 カーソルボタンを押して、再生するフォーマットを選び、[SET]ボタンを押す

- 設定できるフォーマット
 - 59.94 Hz
1080/60P、1080/60i(30P)、1080/24P、720/60P(30P)、720/24P
 - 50 Hz
1080/50P、1080/50i(25P)、720/50P(25P)
- 設定できるフォーマットは、メニュー「LINE&FREQ」(→111 ページ)の設定に基づいて制限されます。

5 [MENU] ボタンを押して、サムネール画面に戻る

再生可能なクリップのクリップ番号が黒色で、再生できないクリップ番号は赤色で表示されます。

リピート再生(REPEAT PLAY)

メニュー「REPEAT PLAY」(→91 ページ)を「ON」に設定すると、再生可能なすべてのクリップを繰り返して再生します。

続きから再生する (RESUME PLAY)

設定すると、再生を途中で止めた場合に続きから再生します。

- 1 [MENU] ボタンを押す
- 2 「PLAY SETUP」を選び、[SET]ボタンを押す
- 3 「RESUME PLAY」を選び、[SET]ボタンを押す
- 4 「ON」を選び、[SET]ボタンを押す
- 5 [MENU] ボタンを押して、サムネール画面に戻る
- 6 クリップを選んで再生する

再生を途中で止めた場合は、クリップのサムネールにレジューム再生インジケータが表示され、次に再生操作をすると続きから再生します。

レジューム再生の設定をOFFにするには、手順4で「OFF」を選んでください。

◆NOTE:

この設定を変更しても、P2カードのレジューム再生の設定は変更されません。

スキップの方法を設定する (SKIP MODE)

各種再生や一時停止中にスキップ(頭出し)操作をしたときの動作を設定します。

- 1 [MENU]ボタンを押す
- 2 「PLAY SETUP」を選び、[SET]ボタンを押す
- 3 「SKIP MODE」を選び、[SET]ボタンを押す
- 4 スキップの方法を選び、[SET]ボタンを押す

CLIP: 一時停止中または再生中に [NEXT]ボタン、[PREV]ボタンを押すと、再生中のCLIPの先頭もしくは前後のCLIPの先頭に移動します。

CLIP & INDEX: 一時停止中または再生中に [NEXT]ボタン、[PREV]ボタンを押すと、再生中のCLIPの先頭もしくは前後のCLIPの先頭、または前後のインデックスの位置に移動します。

- 5 [MENU]ボタンを押して、サムネール画面に戻る



◆NOTE:

インデックスとは、撮影中または再生中のクリップのある映像ポイントに付加され、インデックスを付けたクリップのみ選んで表示/再生できます。ただし、本機ではインデックスを付加/削除することはできません。


AVCHDクリップを再生する

再生・一時停止

クリップの再生はサムネールからのみ行うことができます。

- 1 カーソルボタンを使用し再生するクリップへカーソルを動かす
- 2 [PLAY]  ボタンを押す
カーソル位置のクリップを再生します。
サムネールを表示中に[SEARCH]ボタンを押すと、カーソル位置のクリップの先頭で一時停止します。ただし、レジューム再生中に停止していた場合はレジューム位置で一時停止します。
[STOP]  ボタンを押すと再生を停止しサムネールへ戻ります。

スロー / 早送り / 早戻し再生

再生または一時停止中に、マルチコントロールダイヤルを操作すると所定の速度で再生を行います。
通常の再生に戻すには、[PLAY]  ボタンを押します。

◆NOTE:

- 1倍速時のみ音声も再生されます。
- 逆方向の再生は、約0.5秒ごとのとびとびの映像となります。
- JOGモードでは、P2カード再生のようなスムーズな再生はできません。
- SHTLモードは最大20倍速です。

クリップ送り / 戻し

- 1 再生中または一時停止状態にする
- 2 [PREV] / [NEXT]ボタンを押す
設定したスキップ動作を行います。

AVCHDワーニング情報(AVCHDコーデックボードAJ-YCX500G(オプション)装着時)

液晶モニターに表示される、主なワーニング表示を記載しています。その他のワーニング表示については、表示されるメッセージを確認してください。

メッセージ	内容
CANNOT BE USED DUE TO INCOMPATIBLE DATA.	データの規格が異なるため使えません。
CANNOT PLAY.	再生できません。
CHECK CARD.	カードを確認してください。
CONTROL DATA ERROR HAS BEEN DETECTED.	管理情報にエラーを検出しました。
NO CARD	カードが入っていません。
THUMBNAIL DATA ERROR IS DETECTED.	サムネイル情報にエラーを検出しました。
WRITE PROTECT	ライトプロテクトされています。

■ エラー表示

本機やSD メモリーカードなどに異常が発生した場合に表示します。一度電源を切っても直らない場合は、表示の内容に従ってカードを交換するか、もしくはお買い上げの販売店へご相談ください。

メッセージ	内容
SYSTEM ERROR TURN POWER OFF	システムに異常が発生したときに表示します。 電源を入れ直してください。

■ 複数クリップ連続再生時のクリップの切り替わりについて

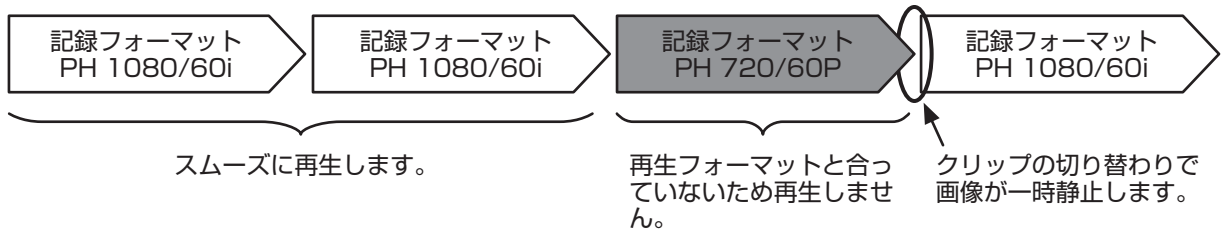
複数クリップの連続再生時にクリップの切り替わりがスムーズに行われず場合があります。

AVCHD再生モードでは、以下のような場合に複数クリップを連続再生すると、クリップが切り替わる時に画像が一時静止することがあります。

● 記録フォーマットが混在している場合

記録モード=PHモード

再生フォーマット=1080/60i(30P)



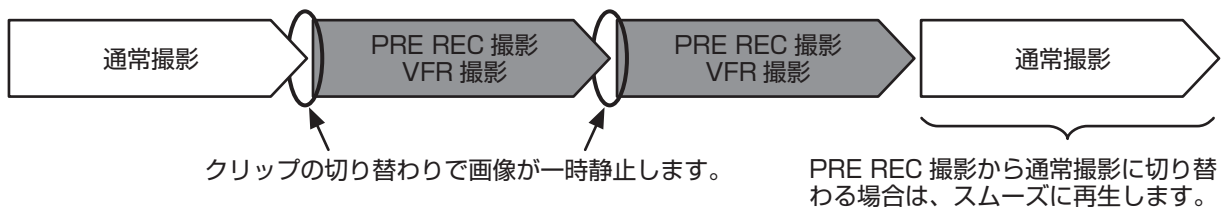
● 記録モードが混在している場合

記録フォーマット=1080/60i

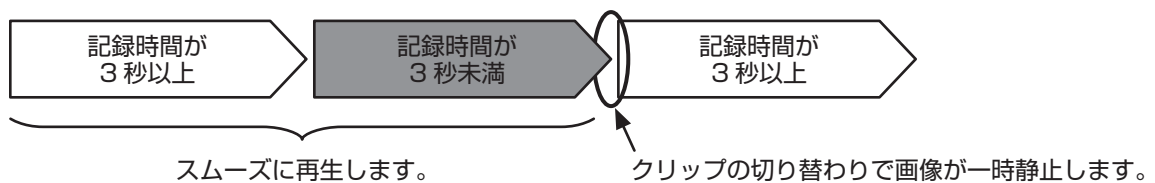
再生フォーマット=1080/60i(30P)



● PRE REC 機能やVFR 機能を使って撮影したクリップがある場合

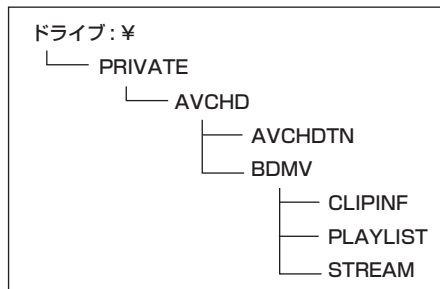


● 記録時間が3秒未満のクリップがある場合



SD メモリーカード記録データの取り扱いについて

AVCHDフォーマットの記録データは、ファイル形式のため、パーソナルコンピューターとの親和性にすぐれていますが、映像、音声データだけでなく、様々な重要情報が含まれており、右のようなフォルダー構成にて関連付けられています。これらの情報が一部分でも変更、または削除されると、AVCHDデータとして認識できない、もしくはカードがAVCHD機器で使えなくなるなどの不具合が発生する場合があります。



■ 本機のメタデータの取り扱いについて

本機のサポートしているメタデータは、AVCHD規格の管理ファイル領域内のメーカー独自領域を使用しています。本機がサポートしているメタデータをサポートしていない編集ソフトやカメラレコーダーでのファイル削除、コピー、クリッププロテクトの付加、削除などの編集動作を行った場合、メタデータの独自領域が消去され、PHモードの情報などが失われます。このような編集動作を行う前に、本機のメタデータをサポートしているかをご確認のうえ、作業してください。

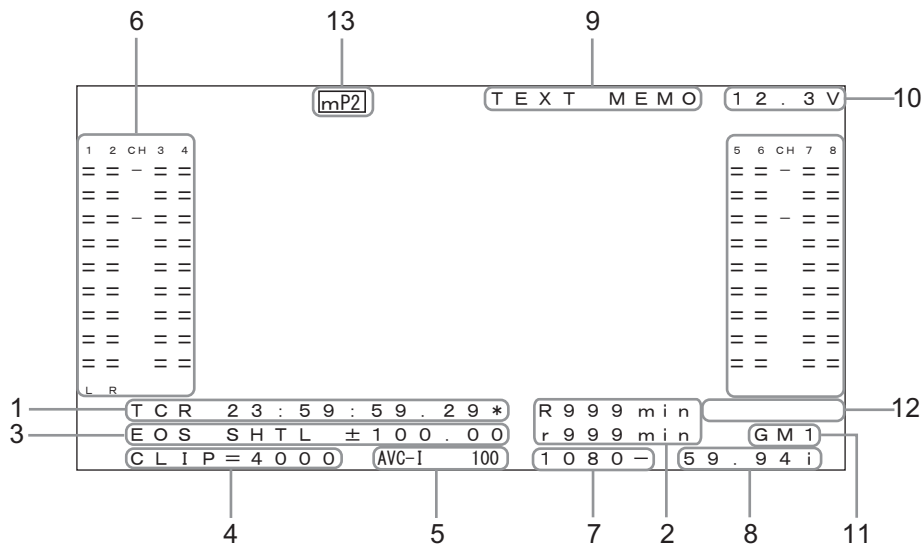
画面の表示

OSD表示

[DISPLAY]ボタンを押す度に、画面表示を「表示なし」→「OSD表示」→「表示なし」と切り替えることができます。再生や記録画面上にフォーマットやタイムコード、モードなどが省略文字で表示されます。

◆NOTE:

- 本表示はメニュー「OSD GRADE」(→102 ページ)でレベルメーターの有り無しを切り替えることができます。また、メニュー「OSD TC SELECT」(→102 ページ)で表示内容を切り替えることができます。
- 表示する出力先はメニュー「OSD OUTPUT」(→102 ページ)で切り替えることができます。
- タイムコードなどの画面下の表示は、メニュー「CHARA V POSI」(→102 ページ)で表示位置を切り替えることができます。



1. タイムコードなど、表示している情報とその種類

CTL	先頭からの相対位置
TCR	記録されたタイムコードデータ
TCR.	VAUX領域に記録されたタイムコードデータ
UBR	記録されたユーザーズビットデータ
UBR.	VAUX領域に記録されたユーザーズビットデータ
TCG	タイムコードジェネレーターのタイムコードデータ
UBG	タイムコードジェネレーターのユーザーズビットデータ
TIME	サブコードに記録された時間情報
DATE	サブコードに記録された日付情報

◆NOTE:

- P2カードから正しくデータを読み取ることができなかったときは、「T*R」や「U*R」が表示されます。
- 第2 第4フィールドの場合にフレームの後ろに「*」が表示されます。
- ドロップフレームのときは、秒の後の「:」コロンが「.」ピリオドになります。

2. カード残量

カードの残量(記録可能時間)を分単位で表示します。
R***はP2カードの記録残量を表します。
r***はProxy記録残量を表します。

◆NOTE:

- 600分以上は、時間(HOUR)単位での表示となり、数字の右に「h」を表示します。
- 残量、カード長情報が確定しないときは、ブランク表示を行います。
- 99時間を超える場合は99hと表示します。
- Proxy記録でSDメモリーカードに記録ができないとき(SDメモリーカードの残量が0など)には「r***」(Proxy記録残量)が点滅します。

3. 動作状態表示

現在のデッキの状態を表示します。

4. クリップ番号

サムネール表示のクリップ番号を表示します。

5. 圧縮記録フォーマット表示

記録、もしくは記録待機時は圧縮記録フォーマットを表示します。
再生時は、再生しているクリップの圧縮記録フォーマットを表示します。

6. オーディオレベルメーター表示

記録もしくは記録待機時は入力レベル、再生時は再生している音声レベルを表示します。

- メニュー「LEVEL METER」(→100 ページ)にて、表示するチャンネルを切り替えることができます。
- メニュー「OSD GRADE」(→102 ページ)を「NO LEVEL METER」に設定した場合、オーディオレベルメーターは表示されません。

7. システムフォーマット表示

記録もしくは記録待機時は、設定メニューのシステムフォーマットが表示されます。
再生時は、再生しているクリップのシステムフォーマットが表示されます。

8. システム周波数表示

システムの周波数が表示されます。

9. TEXT MEMO表示

メニュー「OSD TC SELECT」(→102 ページ)が「T&S&M」以外に設定されているときは、TEXT MEMO、MARKERの付加時のメッセージを表示します。

10. DC入力電圧表示

メニュー「EXT DC IN SELECT」(→103 ページ)が「DC PWR SUPPLY」以外に設定されているとき、入力電圧値を表示します。
「DC PWR SUPPLY」以外に設定したときは、AC電源入力でもDC電圧値を表示します。

11. ガンマ表示

メニュー「GAMMA SELECT」(→98 ページ)が「OFF」以外の場合は、設定値をGM1(GAMMA1)～GM3(GAMMA3)として表示します。

12. ログイン表示

BACKGROUND FTP、SAMBAAでログインをしているときに「LOGIN」が表示されます。

13. 記録メディア表示

P2メモリーカードスロット、microP2メモリーカードスロットのうち、メニュー「REC MEDIA」(→92 ページ)で設定された記録再生動作ができるスロットを表示します。

P2	P2メモリーカードスロット
mP2	microP2メモリーカードスロット

デッキ情報(ダイアグ)表示

デッキの情報を表示します。デッキの情報には[USER]ボタン情報、ワーニング情報があります。

1 [DIAG] ボタンを押す

[USER]ボタンの設定値情報を表示します。
また一度表示を行った後は前回表示したページを開きます。

◆NOTE:

- メニュー表示中は表示されません
- 表示する出力先はメニュー「GUI OUTPUT」(→102 ページ)と「OSD OUTPUT」(→102 ページ)で切り替えることができます。
- ダイアグ表示中は再生などの操作はできません。

2 [左] / [右] カーソルボタンを押す

押すたびに、各情報表示が切り替わります。



各項目内容

USER BUTTON:

USER1-6に設定されている機能名および現在の設定値を表示します。

WARNING:

ワーニング・エラー情報

(→「ワーニング情報の表示」117 ページ)

3 [DIAG] ボタンを押す

元の表示に戻ります。

[EXIT] ボタンまたは[MENU]ボタンを押しても元の表示に戻ります。

ウェーブフォームモニター (WFM)表示

画面に簡易波形モニターを表示し、映像監視などが行えます。

メニュー「WFM TYPE」(→102 ページ)を設定すると表示できます。

WAVE: 波形を表示

VECTOR: ベクトルを表示

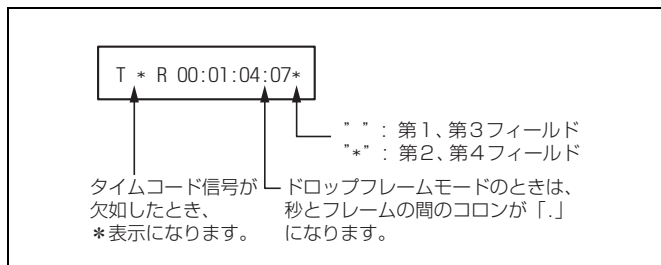
◆NOTE:

- 表示する出力先はメニュー「OSD OUTPUT」(→102 ページ)で切り替えることができます。
- メニューおよびサムネール表示中は表示されません。

タイムコード・ユーザーズビット・CTL

タイムコード

タイムコードは、タイムコードジェネレーターによって発生されるタイムコード信号を記録します。タイムコード値はディスプレイやスーパーインポーズで表示されます。



ユーザーズビット

ユーザーズビットは、タイムコード信号のうちでユーザーに開放された32ビット(8桁)の情報枠のことです。オペレーターナンバーなどを記録することができます。ユーザーズビットに使用できる数字(文字)は0~9とABCDEFです。

CTL

再生時は、先頭から再生している画像までの相対位置が表示されます。記録は、カウンター値が「0:00:00:00」から開始されます。記録終了時は、先頭からの相対位置が表示されます。


◆NOTE:

- AVCHD再生モード時は表示しません。
- メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」かつREMOTEの場合は、CTLを選択できません。

タイムコード/ユーザーズビットの設定

内部モード

1 停止モードにする

[STOP]  ボタンを押して、停止モードにしてください。

2 [COUNTER] ボタンで「TC」または「UB」を選択する

3 メニュー「RUN MODE」(→94 ページ)でタイムコードジェネレーターの設定方法を設定する

REC RUN: 記録中のみ歩進させる。

FREE RUN: 動作モードに関係なく歩進させる。

4 メニュー「TCG MODE」(→93 ページ) / 「UBG MODE」(→94 ページ)でTCとUBの各モードを設定する

REGEN: P2カードに記録された最終タイムコードとのタイムコードの連続性を保つ。

PRESET: [TC PRESET]ボタンで設定された値から記録を開始する。

EXT: 外部タイムコード入力に従って記録する。

5 [TC PRESET] ボタンを使ってタイムコード / ユーザーズビットの開始値を設定する

TC/UBの設定方法:

1) [TC PRESET] ボタンを押す

左端の桁が点滅します。

2) [上] / [下] カーソルボタンを押して値を変更する

3) [左] / [右] カーソルボタンを押して、設定する桁を選択する

選択された桁が点滅します。

設定範囲は次の通りです。

タイムコード:	<59.94 Hz><29.97 Hz> 00:00:00:00 - 23:59:59:29
	<50 Hz><25 Hz> 00:00:00:00 - 23:59:59:24
	<23.98 Hz><24 Hz> 00:00:00:00 - 23:59:59:23

ユーザーズビット: 00 00 00 00 - FF FF FF FF

6 手順5の2)~3)を繰り返して、値を変更する

[RESET] ボタンを押すと、プリセット値を0にリセットできます。

7 開始値の設定終了後、[SET] ボタンを押す

メニュー「RUN MODE」(→94 ページ)を「FREE RUN」に設定したときは、すぐにタイムコードの歩進が開始します。
設定をキャンセルするには、[EXIT]ボタンまたは[CANCEL]ボタンを押します。

■ 電源供給がないときのタイムコードについて

電源供給がないときもバックアップ機能がはたらいて、タイムコードジェネレーターは長時間(約3か月)動作を続けます。

◆NOTE:

メニュー「SYSTEM MODE」-「LINE&FREQ」(→111 ページ)の設定を変更したとき、歩進データはクリアされます。

外部モード

1 [STOP]  ボタンを押して、停止モードにする

2 [COUNTER]ボタンで「TC」を選択する

3 メニュー「TCG MODE」(→93 ページ) / 「UBG MODE」(→94 ページ)を「EXT」にする
(外部タイムコードの選択)

4 メニュー「EXT TC SEL」(→94 ページ)で、外部入力タイムコードの種類を選択する

EXT LTC:	リアパネルのTIME CODE IN端子(BNC)に入力されるLTC信号を記録します。
SLTC:	SDI IN端子に入力されるシリアル信号に付加されるLTC信号を記録します。
SVITC:	SDI IN端子に入力されるシリアル信号に付加されるVITC信号を記録します。

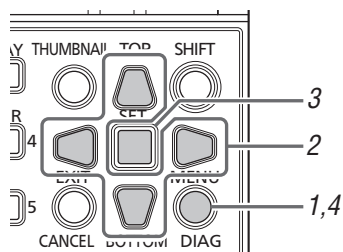
◆NOTE:

「SLTC」、「SVITC」設定時に、入力信号として「SD SDI」が選択されているときは、入力ビデオ信号のVITCが記録されます。

設定メニュー

メニューの操作

メニューは次のように操作します。



1 [MENU] ボタンを押し、メニューを表示する

2 カーソルボタンで該当のメニュー項目にカーソルを合わせる

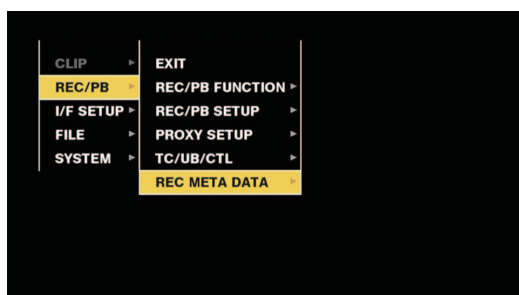
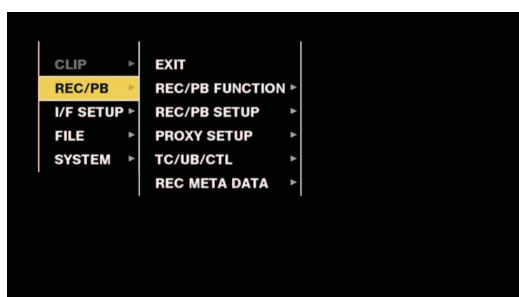
次の階層にメニューがある場合はメニュー項目に「▶」が表示されています。

◆NOTE:

- [上] / [下] カーソルボタンを押すとカーソルが上下します。
- [右] カーソルボタンまたは[SET] ボタンを押すと、下位のメニューが開きます。
- [左] カーソルボタンまたは[EXIT] ボタンで上の階層へ戻ります。
- マルチコントロールダイヤルでもメニューの操作が可能です。

マルチコントロールダイヤルを回すと、[上] / [下]カーソルボタンを押した場合と同様の操作となります。

マルチコントロールダイヤルを押すと、[SET]ボタンを押した場合と同様の操作となります。



3 [SET] ボタンを押す

◆NOTE:

- メニュー項目によっては、確認画面が表示されます。
- カーソルボタンで処理を選択し、[SET] ボタンを押します。
- 設定した項目には、項目の前にチェックマークがつきます。
- 一部のメニューでは、数値設定のための画面が表示されません。
- システムの周波数設定が変わる場合は再起動が必要となります。

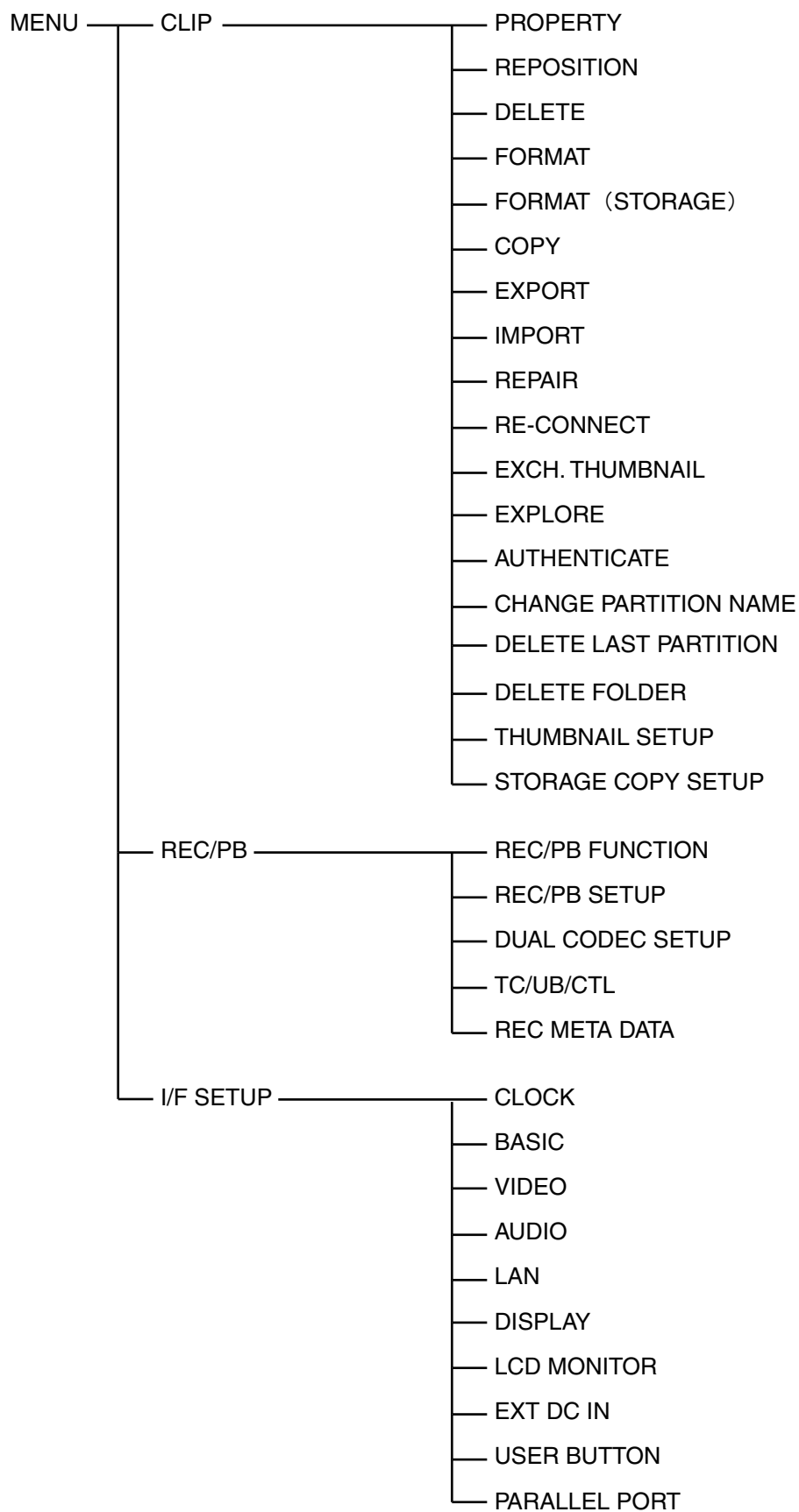
4 [MENU] ボタンを押し、メニューを終了する

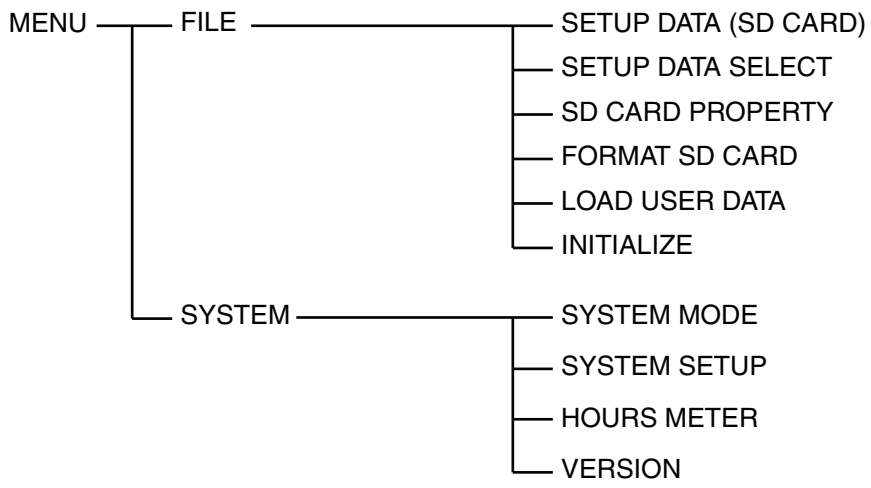
◆NOTE:

メニュー項目によっては、自動的に元の画面に戻ります。

設定したデータの保存と読み込み、および工場出荷状態への設定方法は、109～110ページをご参照ください。

メニュー構成





メニュー一覧

◆NOTE:

FREQによる表示項目の **ALL** は、**59.94Hz** **50Hz** **29.97Hz** **25Hz** **24Hz** **23.98Hz** のすべての場合に表示される項目です。

CLIP

PROPERTY

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
CLIP PROPERTY	クリップの詳細な情報を画面に表示します。また、個別の項目の修正を行うことができます。詳しくは「クリップの情報を表示・修正する」(→39 ページ)を参照してください。	ALL
CARD STATUS	P2カードスロットのカード状態を表示します。詳しくは「カードの状態を確認する」(→44 ページ)を参照してください。	ALL
CPS PASSWORD	microP2メモリーカードのCPSの暗号化パスワードを設定します。 LOAD: SDメモリーカードからCPSパスワードをロードします。 SET: CPSパスワードを入力します DELETE: 機器に保存されているパスワードを削除し、暗号化フォーマットを無効にします。	ALL
SD CARD	SDメモリーカードの情報を表示します。	ALL
REMAIN SETUP	P2カードの情報を表示するときに、残容量表示あるいは使用済み容量のどちらを表示するかを設定します。 REMAIN: 残容量表示 USED: 使用済み容量表示	ALL
FREE CAP. OF PARTITION	パーティション内の空き容量を表示します。 NOTE: ストレージエクスプローラー時のみ表示されます。	ALL

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
REPOSITION	サムネール画面に表示するクリップを選択します。 ALL CLIP: 全クリップをサムネールに表示します。 SAME FORMAT CLIPS: システムフォーマットと同じフォーマットで記録されていて、メニュー「AUDIO SMPL RES」(→111 ページ)で設定した音声ビット数と同じクリップのみをサムネールに表示します。 SELECTED CLIPS: [SET]ボタンで選択したクリップのみをサムネールに表示します。このときサムネールの並び順は、選択した順番となります。 MARKED CLIPS: ショットマークが付加されたクリップのみをサムネールに表示します。 TEXT MEMO CLIPS: テキストメモデータがあるクリップのみをサムネールに表示します。 SLOT CLIPS: 選択したスロットのクリップのみをサムネールに表示します。 NG CLIPS: 不良クリップのみをサムネールに表示します。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
DELETE	<p>選択しているクリップを削除します。</p> <p>NOTE: 途中で削除を中止するには、[SET]ボタンまたは[CANCEL]ボタンを押してキャンセルしてください。途中まで削除されたクリップはキャンセルしても戻りません。</p>	ALL
FORMAT	<p>[FORMAT]メニューを選択後、指定するP2カードスロットのP2カードおよびSDメモリーカードスロットのSDメモリーカードをフォーマットします。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • CPSのパスワードを設定しているときは、「NORMAL」(通常非暗号化フォーマット)と「CPS(ENCRYPT)」(暗号化フォーマット)を選択することができます。 • フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。 	ALL
FORMAT (STORAGE)	<p>USBで接続されたストレージデバイスをフォーマットします。</p> <p>TYPE S: TYPE S形式でフォーマットします。</p> <p>FAT: FAT形式でフォーマットします。</p> <p>NOTE: ストレージ エクスプローラー、ストレージ サムネールのときのみ有効です。</p>	ALL
COPY	<p>選択しているクリップを、任意のP2カードスロットのP2カードやストレージデバイス、FTPサーバーにコピーします。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コピー中に電源をOFFにしたり、カードを抜き差ししたりしないでください。不良クリップができません。不良クリップができてしまった場合は、クリップを削除してから、再度コピーを行ってください。 • 不完全クリップは連結した後でコピーしてください。 	ALL
EXPORT	<p>カード単位でP2カードやSDメモリーカードからストレージデバイスやLANへエクスポート(書き出し)します。</p> <p>ALL SLOT、SLOT1～SLOT4: P2カードからストレージデバイスへエクスポートします。</p> <p>SDCARD: SDメモリーカードからLANへエクスポートします。</p>	ALL
IMPORT	<p>ストレージデバイスやLANからP2カードやSDメモリーカードへ、カード単位でクリップなどをインポート(書き戻し)します。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストレージはTYPE Sのみ有効です。 • 元のP2カード品番と同じ品番のP2カード以外には書き戻せません。 • ストレージおよびFTPエクスプローラー時のみ表示されます。 	ALL
REPAIR	<p>記録中、急に電源が切れるなどの原因で発生した、不具合のある不良クリップインジケータ(NG)が表示されたクリップを、修復します。</p> <p>NOTE: クリップの壊れ方によっては修復できないときがあります。修復不可能な場合は赤色のインジケータ(NG)が表示されます。</p>	ALL
RE-CONNECT	<p>複数のP2カードにまたがって記録されているクリップが連続したクリップとして認識されず、不完全クリップインジケータ(!)が表示されている場合に、この連結機能を使って、連続したクリップ(元の連結したクリップ)に復元することができます。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不完全クリップは以下のようなときにできます。 <ul style="list-style-type: none"> - 複数のP2カードに記録されたクリップを、P2カードごとに別々にコピーしたとき。 - 複数カードに記録されたクリップを、カードごとに別々にストレージデバイスへコピー後、P2カードへ書き戻したとき。 • 3つ以上に分かれた不完全クリップの一部分のクリップだけを連結しても、元のクリップを構成するすべてのクリップを連結するまでは、不完全クリップマークインジケータ(!)が付いたままになります。 	ALL
EXCH. THUMBNAIL	<p>クリップのサムネールを任意のテキストメモの位置にある映像に変更します。テキストメモクリップを表示中に実行できます。</p>	ALL
EXPLORE	<p>ストレージデバイスやLANの各種情報表示画面へ切り替えます。</p> <p>STORAGE: ストレージデバイスの各種情報表示画面へ切り替えます。</p> <p>LAN: LANの各種情報表示画面へ切り替えます。</p> <p>PLAYLIST: プレイリストの情報表示画面へ切り替えます。</p>	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
AUTHENTICATE	カードステータス画面から本メニューを選択すると、CPS パスワードを入力するソフトウェアキーボードが表示されます。パスワード入力し、「OK」を選択するとCPS パスワードが本機に設定されます。 設定されたCPS パスワードで認証に成功したときは、「AUTHENTICATED SUCCESSFULLY!」とメッセージが表示されます。 設定されたCPS パスワードでの認証に失敗したときは、ワーニングメッセージ(→117 ページ)が表示されます。	ALL
CHANGE PARTITION NAME	ストレージデバイス内のパーティションの名称を設定・変更します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> 初期値はパーティション作成時の日時です。 TYPE Sのストレージデバイスのみ有効です。 ストレージエクスプローラー時のみ表示されます。 	ALL
DELETE LAST PARTITION	ストレージデバイスの最後のパーティションを削除します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> カーソルが最後のパーティションにあるときにのみ削除することができます。 ストレージエクスプローラー時のみ表示されます。 	ALL
DELETE FOLDER	FAT形式のストレージデバイスのフォルダーを削除します。	ALL

THUMBNAIL SETUP

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
INDICATOR	以下の項目から表示したい項目を選択し、[SET]ボタンを押すとチェックが付き、その項目が表示されます。「ALL HIDE」を選択している場合は他の項目は選択できません。 ALL HIDE: インジケータをすべて非表示にします。 MARKER: ショットマークインジケータを表示します。 TEXT MEMO: テキストメモインジケータを表示します。 WIDE: ワイドインジケータを表示します。 PROXY: プロキシインジケータを表示します。 NOTE: 上記設定にかかわらず不良クリップインジケータ(NG)、(NG)、不明クリップインジケータ、不完全クリップインジケータは常に表示されます。	ALL
DATA DISPLAY	時間表示部に表示する内容を選択します。 TC: タイムコード UB: ユーザーズビット TIME: 記録時刻 DATE: 記録日 DATE TIME: 記録日時 CLIP NAME: クリップ名 USER CLIP NAME: ユーザークリップ名の先頭の最大15文字(英語表示の場合) SLOT: スロット番号 THUMBNAIL TC: サムネール位置のタイムコード	ALL
THUMBNAIL SIZE	サムネールモードで画面に表示されるサムネールの大きさを設定します。 SMALL: 小(サムネール表示4 x 3、プロパティ表示あり) MEDIUM: 標準(サムネール表示: 4 x 3) LARGE: 大(サムネール表示: 3 x 2)	ALL
PB POSITION	サムネール画面から再生するときの再生開始位置を設定します。 RESUME: 再生を停止した位置から再生します。 THUMBNAIL TC: サムネール位置のタイムコードから再生します。 START TC: スタートタイムコード(クリップの先頭)から再生します。	ALL
SORT	サムネールの表示順番を設定します。 OFF: 記録日時順 SLOT: スロット順(同一スロット内のクリップ記録日時順に表示されます)。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
PROPERTY DISP.	サムネールの左側に表示される簡易プロパティ項目を設定します。 USER CLIP NAME: ユーザークリップ名を表示します。 START TC: スタートTCを表示します。 REC DATE: 記録年月日を表示します。 REC TIME: 記録時刻を表示します。 NUM. OF AUDIO CH: オーディオチャンネル数を表示します。 AUDIO RATE: オーディオのサンプリングレートを表示します。 AUDIO BIT: オーディオのビットレートを表示します。 CREATOR: 作成者を表示します。 SHOOTER: 撮影者を表示します。 PLACE NAME: 撮影地を表示します。 PROGRAM NAME: プログラム名を表示します。 SCENE NO.: シーン番号を表示します。 TAKE NO.: テイク番号を表示します。 REPORTER: レポーターを表示します。 PURPOSE: 取材目的を表示します。 OBJECT: 取材対象を表示します。 START UB: スタートユーザズビットを表示します。 REC RATE: 記録フレームレートを表示します。 LAST UP DATE: 最終更新日を表示します。 LAST UP PERSON: 最終更新者を表示します。 MANUFACTURER: 機材メーカー名を表示します。 SERIAL NO.: シリアル番号を表示します。 MODEL NAME: モデル名を表示します。 ALTITUDE: 高度を表示します。 LONGITUDE: 経度を表示します。 LATITUDE: 緯度を表示します。 1ST TEXT MEMO: 最初のテキストメモの内容を表示します。 THUMBNAİL OFFSET: サムネール記録位置を表示します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> 同時に表示できる項目数は最大6項目です。 6項目選択した段階で残りの未チェック項目はすべて選択不可となります。 チェック済みの項目を未チェック状態に戻すことで再び項目の変更が可能になります。 	ALL
THUMBNAİL INFO.	選択されたクリップ数、クリップの再生時間などの表示を設定します。 NUM. OF CLIPS: 選択されたクリップ数を表示します。 DUR. OF SEL CLIPS: 選択クリップの合計再生時間を表示します。 TOTAL DURATION: 表示されているクリップの合計再生時間を表示します。	ALL
TEXT MEMO IND.	テキストメモクリップに T を表示するかどうかを設定します。 ALL: すべてのテキストメモクリップについて、 T が表示されます。 HIDE CARD SERIAL: カードシリアル TEXT MEMOのみ存在するクリップの場合、 T を表示しません。	ALL

STORAGE COPY SETUP

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
VERIFY	エクスポート時にベリファイを行うか、行わないかを設定します。 ON: ベリファイを行います。 OFF: ベリファイを行いません。 NOTE: TYPE Sフォーマットのストレージデバイス使用時のみ有効です。	ALL

_は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
RECORDING	記録の方式を選択します。 NORMAL: 通常記録 LOOP: LOOP記録	59.94Hz 50Hz
AUTO REC	カメラレコーダーからのHD SDI*1入力信号の記録 / 停止信号に従って、自動的に記録 / 停止を行うかどうかを選択します。 TYPE1: HD SDIに付加されているLTC情報内の記録 / 停止信号に従って自動的に記録 / 停止を行います。 TYPE2: HD SDIに付加されているSVITC情報内の記録 / 停止信号に従って自動的に記録 / 停止を行います。 TYPE3: 他社製カメラレコーダー使用時に設定します。 QFE: 自動的に記録 / 停止を行いません。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> SD SDI信号には対応しておりません。 「OFF」以外に設定し、REMOTEモードのREC PAUSE状態にすると、スーパーインポーズ画面に「AREC」と表示されます。 REMOTEモードに設定してください。 自動記録を開始するには、[REC] <input type="checkbox"/> ボタンと[PAUSE] <input type="checkbox"/> ボタンを同時に押して本機をREC PAUSE状態にしてください。REC PAUSE状態以外では動作しません。また、自動停止を受け付けた後は、REC PAUSE状態になります。 対応確認済みの機器については、Webサイトをご覧ください。(→「WebサイトURLについて」2ページ) 通常操作で本機が記録状態にあるときには、本設定は無効となり、自動停止しません。 	ALL
REPEAT PLAY	再生のときに、リピート再生を行うかどうかを設定します。 ON: リピート再生をします。最終クリップを再生後、先頭のクリップから再生を続けます。 QFE: リピート再生をしません。最終クリップで再生を停止します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> TEXT MEMOの再生時は、リピート再生を行いません。 メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」でリモートの場合はリピート再生を行いません。 リピート再生中にP2カードを抜くと、存在しなくなったクリップの再生に到達した時点で再生を中止します。 リピート再生中にP2カードを挿入しても、再生を停止して再度リピート再生を実施するまで、追加されたクリップは再生されません。 	ALL
SIMUL REC	2つのスロットの2枚のP2カードに同時記録を行うかどうかを設定します。 ON: 同時記録します。 QFE: 同時記録しません。	59.94Hz 50Hz
CONT. REC	入力信号が乱れたときに記録を継続するか停止するかを設定します。 ON: 記録を継続します QFE: 記録を一時停止します	ALL

*1 3G-SDI LEVEL-A、3G-SDI LEVEL-B DL、1.5G-SDI信号を、「HD SDI」信号と記載しております。

REC/PB SETUP

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
REC MEDIA	記録するスロットを選択します。 P2: P2メモリーカードスロット(1,2)を使用します。 <u>microP2</u> : microP2メモリーカードスロット(3,4)を使用します。 NOTE: 選択されていないスロットは記録はできませんが再生はできます。スロットの表示は記録禁止カードと同等の表示となります。	ALL
FILE SPLIT	AVC-LongGフォーマットでmicroP2メモリーカード(32 GB超)に記録するときに、記録ファイルを4 GB単位で分割するか、1ファイルにするかを選択します。 ONE FILE : 1ファイルで記録します。 SPLIT : 4 GB単位で分割します。 NOTE: 1ファイルにした場合、そのクリップはP2メモリーカードや32 GBのmicroP2メモリーカードへのコピーやストレージデバイスへのコピー・エクスポートができません。	ALL
CC REC	SD SDI入力信号に多重されたクローズドキャプション信号を記録するかどうかを選択します。 ON : 入力信号にクローズドキャプション信号が多重されている場合に記録します。 OFF : 記録しません。EE出力もブランキングされます。	59.94Hz
CC(F1) BLANK	再生時のSD SDIおよびアナログコンポジット出力から出力される第1フィールドのクローズドキャプション信号のON / OFFを設定します。 BLANK : 強制ブランキングします。 THROUGH : ブランキングしません。	59.94Hz
CC(F2) BLANK	再生時のSD SDIおよびアナログコンポジット出力から出力される第2フィールドのクローズドキャプション信号のON / OFFを設定します。 BLANK : 強制ブランキングします。 THROUGH : ブランキングしません。	59.94Hz
STOP EE SEL	停止(STOP)時にEEモードにするか再生モードにするかを選択します。 EE : EEモード PB : 再生モード	ALL
SHUTTLE MAX	シャトル動作の最大速度を設定します。 X2: ×2倍速 X4: ×4倍速 X8: ×8倍速 X16 : ×16倍速 X32: ×32倍速 X60: ×60倍速 X100: ×100倍速	ALL
FF.REW MAX	FF、REW動作の最大速度を設定します。 X32 : ×32倍速 X60: ×60倍速 X100: ×100倍速 SEEK : クリップの先頭へのシーク(移動)動作 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> SEEK選択時もREMOTE端子からのFF、REWコマンドに対しては×100倍速のFF、REW動作となります。ただし、メニュー「ID OF 9P REMOTE」(→96 ページ)が「ORIGINAL」に設定されているときは、REMOTE端子からのFFおよびREWコマンドにてシーク(移動)動作となります。サムネール画面ではカーソルが左右に移動します。 シーク(移動)動作は、再生モード時に有効となります。 	ALL
SEEK POS SEL	[NEXT]ボタン、[PREV]ボタンを押したときのシーク(移動)動作で移動する位置を選択します。 CLIP : クリップの先頭 CLIP&TEXT MEMO : クリップの先頭、およびテキストメモの設定点	ALL
PLAY DELAY	PLAYの立ち上がり時間をフレーム単位で設定します。 Q~15: 0フレームから15フレーム NOTE: メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合は、「0」以外の設定の場合でも「0」として動作します。	ALL

DUAL CODEC SETUP

◆NOTE:

設定メニュー「REC/PB FUNCTION」-「RECORDING」(→91 ページ)で「NORMAL」以外を選択しているとき、または「SIMUL REC」(→91 ページ)で「ON」を選択しているときは、「CODEC USAGE」を「PROXY REC(P2)」または「PROXY REC(P2&SD)」に設定してもプロキシーデータの記録を行うことができません。

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
CODEC USAGE	プロキシーデータの記録を行うメディアを選択します。 PROXY REC(P2) : P2カードにプロキシーデータの記録を行います。 PROXY REC(P2&SD) : P2カードとSDメモリーカードの両方にプロキシーデータの記録を行います。 OFF : プロキシーデータの記録を行いません。	59.94Hz 50Hz
PROXY REC MODE	プロキシーデータの記録モードを設定します。(HDモード時のみ) 各モードの詳細は、「記録モードと記録信号(ビデオ、オーディオ)」(→26 ページ)を参照してください。	59.94Hz 50Hz
TC SUPER	プロキシーデータの記録映像にタイムコードの表示をスーパーインポーズする設定を行います。 UPPER : 記録映像の上部にタイムコードの表示をスーパーインポーズします。 LOWER : 記録映像の下部にタイムコードの表示をスーパーインポーズします。 OFF : タイムコードの表示を記録映像にスーパーインポーズしません。 NOTE : メニュー「LINE&FREQ」が「720-59.94P」、「720-50P」のときは表示されず、動作はOFFになります。	59.94Hz 50Hz

TC/UB/CTL

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
CTL DISPLAY	CTLカウンター表示の12 / 24時間表示を選択します。 ±12h : 12時間表示 24h : 24時間表示	ALL
CTL COUNT	カウンター表示がCTLのときの表示内容を設定します。 UP : 正方向に進むときは正方向に歩進し、負方向に進むときは負方向に歩進します。 DOWN : 再生の終端で表示が00:00:00:00になるように、正方向に進むときは負方向に歩進し、負方向に進むときは正方向に歩進します。 NOTE : <ul style="list-style-type: none"> AVCHD再生モードのとき、記録中は「UP」に設定されます。 設定は59.94 Hzおよび50 Hzのときのみ有効です。 	ALL
TCG MODE	内蔵タイムコードジェネレーターの動作モードを設定します。 REGEN : P2カードに記録された最終のタイムコードとの連続性を保つように内蔵タイムコードジェネレーターを同期させます。 PRESET : [TC PRESET]ボタンで設定された値から記録を開始します。 EXT : タイムコード入力端子または、映像信号のVITC、SLTCから入力する外部タイムコードを使用します。選択はメニュー「EXT TC SEL」(→94 ページ)で設定します。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
UBG MODE	<p>内蔵タイムコードジェネレーターのユーザーズビットの動作モードを設定します。</p> <p>REGEN: P2カードに記録された最終のユーザーズビットに内蔵タイムコードジェネレーターを同期させます。</p> <p>PRESET: [TC PRESET]ボタンで設定された値から記録を開始します。</p> <p>EXT: タイムコード入力端子または、映像信号のVITC、SLTCから入力する外部UBを使用します。選択はメニュー「EXT TC SEL」(→94 ページ)で設定します。</p>	ALL
RUN MODE	<p>内蔵タイムコードジェネレーターが歩進する動作モードを設定します。</p> <p>REC RUN: 記録中のみ歩進します。</p> <p>FREE RUN: 電源が投入されている間、動作モードに関係なく歩進します。</p>	ALL
EXT TC SEL	<p>外部タイムコードを用いるときに使用するタイムコードを設定します。</p> <p>EXT LTC: TIME CODE IN端子のLTC</p> <p>SLTC: SDI IN端子に入力されたシリアル信号に付加されているLTC情報</p> <p>SVITC: SDI IN端子に入力されたシリアル信号に付加されているVITC情報</p> <p>NOTE: 「SLTC」、「SVITC」設定時、入力信号として「SD SDI」が選択されているときは、入力信号のVITCを使用します。</p>	ALL
VITC GEN	<p>内部タイムコードジェネレーターの値を、VAUX領域へ記録するかどうかを設定します。</p> <p>ON: 内部タイムコードジェネレーター値を記録します。</p> <p>OFF: 内部タイムコードジェネレーター値を記録しません。入力ビデオ信号にVITC情報が重畳されているときは、その値を記録します。</p> <p>NOTE: メニュー「LINE&FREQ」が「1080-29.97PsF」、「1080-25PsF」、「1080-24PsF」、「1080-23.98PsF」、「720-59.94P」、「720-50P」に設定されているときは、下記の動作になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - VAUX領域に記録されるタイムコード: 本メニューがOFFであっても、入力ビデオ信号にVITC情報が重畳されていない場合は、内部タイムコードジェネレーター値が記録されます。 - VAUX領域に記録されるユーザーズビット: 本メニューの設定に関わらず、常にフレームレート情報が記録されます。 	ALL
DF MODE	<p>CTLおよびTCGのドロップフレームモード / ノンドロップフレームモードを設定します。</p> <p>DF: ドロップフレームモードを使用します。</p> <p>NDF: ノンドロップフレームモードを使用します。</p>	59.94Hz 29.97Hz
VITC BLANK	<p>再生時、メニュー「VITC POS-1」と「VITC POS-2」で指定した位置にVITC信号を出力するかどうかを選択します。</p> <p>BLANK: 出力しません。</p> <p>THROUGH: 出力します。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本設定は、VIDEO出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 • EE時は、入力信号に多重されたVITC信号がそのまま出力されます。 	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz
VITC POS-1	<p>VITC信号の挿入位置を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 59.94 Hz, 29.97 Hz設定時: LINE 10 ~ LINE 16 ~ LINE 20 • 50 Hz, 25 Hz設定時: LINE 7 ~ LINE 11 ~ LINE 22 <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • メニュー「VITC POS-2」と同じラインは選択できません。 • 本設定は、VIDEO出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 • [RESET]ボタンを押しても工場出荷時設定に戻りません。 	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz
VITC POS-2	<p>VITC信号の挿入位置を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 59.94 Hz, 29.97 Hz設定時: LINE 10 ~ LINE 18 ~ LINE 20 • 50 Hz, 25 Hz設定時: LINE 7 ~ LINE 13 ~ LINE 22 <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> • メニュー「VITC POS-1」と同じラインは選択できません。 • 本設定は、VIDEO出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 • [RESET]ボタンを押しても工場出荷時設定に戻りません。 	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
HD EMBD LTC	HD SDI出力にLTC情報を重畳するかしないかを選択します。 ON : LTCを重畳します。 OFF : LTCは重畳しません。	ALL
HD EMBD VITC	HD SDI出力にVITC情報を重畳するかしないかを選択します。 ON : VITCを重畳します。 OFF : VITCは重畳しません。	ALL
TC OUTPUT REF	「TCG MODE」設定が「EXT」のとき、外部LTC入力に対してTIME CODE OUT端子から出力されるタイムコードの位相を切り替えます。(EEモード時のみ) TC IN : 外部タイムコード入力に合わせます。 VIDEO OUT : 出力映像に合わせます。	ALL

REC META DATA

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
LOAD	SDメモリーカードに保存されたメタデータアップロードファイルをロードします。	ALL
RECORD	ロードされているメタデータを記録時に付加するか、付加しないかを設定します。 ON : 付加する OFF : 付加しない	ALL
USER CLIP NAME	USER CLIP NAMEへ記録するデータを設定します。 •「RECORD」が「ON」のとき TYPE1 : ロードしたデータ設定値を記録する TYPE2 : ロードしたデータ+カウンター値を記録する •「RECORD」が「OFF」のとき TYPE1 : GLOBAL CLIP IDと同じ値を記録する TYPE2 : CLIP NAMEと同じ値を記録する	ALL
CARD SERIAL	P2 カードのシリアル番号をメタデータとして記録する機能の有効/無効を設定します。 ON : 記録します OFF : 記録しません	ALL
INITIALIZE	ロードした全メタデータを削除し、初期化します。	ALL
PROPERTY	ロードしたメタデータの確認や修正を行います。	ALL
LANGUAGE	メタデータを表示するときの表示言語を設定します。 ENGLISH : 英語表示 JAPANESE : 日本語表示	ALL

I/F SETUP

CLOCK

詳細は「年月日・時刻を合わせる」(→18 ページ)を参照してください。

BASIC

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
ID OF 9P REMOTE	コントローラーに返すID情報を設定します。 DVCPRO : DVCPRO ORIGINAL : 独自ID OTHER : その他 NOTE : 「OTHER」にはDVCPRO以外のVTRのID情報を設定しています。	ALL
LOCAL ENABLE	REMOTEがONのときに、フロント操作部で操作できるボタンを制限します。 ENABLE : すべて可能 STOP : [STOP] <input type="checkbox"/> ボタンのみ可能 DISABLE : すべて不可	ALL
AFTER CUEUP	キューアップ動作後の本機のモードを選択します。 STOP : STOPモード SHTL +0.0 : 静止画(SHTL +0.0)モード VAR +0.0 : 静止画(VAR +0.0)モード	ALL
CLIPSEL MODE	クリップセレクトで表示されるクリップ位置を選択します。 TOP : クリップセレクト時にクリップの先頭を基準に設定します。 THUMBNAIL : クリップセレクト時にクリップのサムネール位置を基準に設定します。 NOTE : 設定は59.94 Hzおよび50 Hzのときのみ有効です。	ALL
EXTEND CMD	REMOTE端子のコマンドを、クリップセレクト機能、LAN、USB切り替え機能に対応したコマンド拡張をするかを設定します。 ON : 拡張する OFF : 拡張しない NOTE : 設定は59.94 Hzおよび50 Hzのときのみ有効です。	ALL
REF ALARM	「OUTPUT REF」(→112 ページ)で設定されたリファレンス・ビデオ信号が入力されていないときにワーニング表示するかどうかを選択します。 ON : [STOP] <input type="checkbox"/> ボタンのランプを点滅させることでワーニング表示します。 OFF : 表示しません。	ALL
BEEP	ビープ音のON / OFF を切り替えます。 ON : ビープ音を出力します。 OFF : ビープ音を出力しません。 NOTE : ビープ音はANALOG AUDIO MON出力端子からも出力されます。	ALL
KEYBOARD	接続するキーボードの種類を設定します。 QWERTY(101) QWERTY(109) AZERTY QWERTZ	ALL
POWER ON GUI	電源投入時にサムネール画面などを表示するかを設定します。 THUMBNAIL : サムネール画面を表示します。 PLAYLIST : プレイリスト画面を表示します。 OFF : サムネール画面を表示しません。 NOTE : メニュー「VDCP CMD」(→112 ページ)が「ON」の場合は、「THUMBNAIL」に設定されていてもサムネール画面は表示されません。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
AUTO POWER OFF	<p>ボタンの操作がなかったときに、電源を自動的にOFFにするまでの時間を設定します。</p> <p>10min: 非操作10分で電源をオフします。</p> <p>30min: 非操作30分で電源をオフします。</p> <p>60min: 非操作60分で電源をオフします。</p> <p>90min: 非操作90分で電源をオフします。</p> <p>QFE: 本機の電源をOFF にせずに通電状態を保持します。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> この設定が「OFF」以外となっても、再生中(可変速再生、早送り/早戻し再生、一時停止含む) および記録中は、電源OFF になりません。 USB ケーブルで外部機器と接続して通信状態になっているときは、上記ボタンの操作がなかった場合でも電源OFF にはなりません。 プレイリスト編集モードでカードが挿入されているときは電源OFFにはなりません。 	ALL

VIDEO

「」は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
INPUT SEL	<p>ビデオの入力信号を選択します。</p> <p>HD SDI: SDI端子(HD信号入力)を選択します。</p> <p>SD SDI: SDI端子(SD信号入力)を選択します。</p> <p>INT SG: 内部の信号発生器を選択します。信号は、メニュー「INT SG」で選択された内部信号に切り替わります。</p>	ALL
INT SG	<p>内蔵信号の種類を設定します。SMPTE、ARIB信号は、「LINE&FREQ」設定がHDフォーマット時のみ有効(SDモード時はブラック)です。</p> <p>100%CB: 100%カラーバー</p> <p>75%CB: 75%カラーバー</p> <p>SMPTE: SMPTEカラーバー</p> <p>ARIB: ARIBカラーバー</p> <p>BLACK: ブラック</p>	ALL
SG MOVE	<p>INT SGの上に自動的に位置が変わる四角を表示する機能を切り替えます。</p> <p>ON: 表示します。</p> <p>QFE: 表示しません。</p>	ALL
WIDE SEL	<p>「LINE&FREQ」が「480-59.94i」または「576-50i」設定時、WIDE情報を記録するかどうかを設定します。</p> <p>WIDE: 記録します。</p> <p>NORMAL: 記録しません。</p>	59.94Hz 50Hz
EDH(SD)	<p>SD SDI出力にEDHを重畳するかどうかを選択します。</p> <p>ON: 重畳します。</p> <p>OFF: 重畳しません。</p>	59.94Hz 50Hz
OUTPUT FORMAT	<p>ビデオ出力端子から出力される映像信号を選択します。</p> <p>AUTO: 現在の記録、再生フォーマットに従って、自動的に出力を切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 59.94 Hz設定時 <ul style="list-style-type: none"> 1080P: 1080/59.94p 1080i: 1080/59.94i 720P: 720/59.94p 480i: 480/59.94i 50 Hz設定時 <ul style="list-style-type: none"> 1080P: 1080/50p 1080i: 1080/50i 720P: 720/50p 576i: 576/50i <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> 「AUTO」以外を選択した場合、記録、再生フォーマットと異なる信号は自動的に変換されて出力します。 SD信号からの1080P出力時は、正しい映像にはなりません。 SD信号を出力する場合、HDMI出力端子からは、480/59.94p、576/50p信号が出力されません。 	59.94Hz 50Hz

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
3G-SDI OUT	「LINE&FREQ」(→111 ページ)が「1080-59.94P」、「1080-50P」のときの3G-SDI出力形式を選択します。 LEVEL-A: 3G-SDI LEVEL-A形式を選択します。 LEVEL-B: 3G-SDI LEVEL-B DL形式を選択します。	59.94Hz 50Hz
DOWNCON MODE	ダウンコンバーター出力時のアスペクト比を選択します。 CROP: 垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は維持) LT-BOX: 水平軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は維持) SQUEEZE: 水平と垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は歪むおそれがあります)	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 23.98Hz
UPCON MODE	アップコンバート記録時の画角を選択します。 SIDE PANEL: 垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は維持。) CROP: 水平軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は維持。) STRETCH: 水平と垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更します。(アスペクト比は歪むおそれがあります。)	59.94Hz 50Hz
GAMMA SELECT	ガンマ補正の選択を行います。 GAMMA 1: VaricamやAJ-HPX3100のFILM RECモードで撮影された映像を、フィルム質感の映像(AJ-GBX27GiにおけるHD Gamma CorrectorのTelecine 5相当)に補正します。 GAMMA 2: VaricamやAJ-HPX3100のFILM RECモードで撮影された映像を、フィルム質感の映像(AJ-GBX27GiにおけるHD Gamma CorrectorのTelecine 6相当)に補正します。 GAMMA 3: VaricamやAJ-HPX3100のFILM RECモードで撮影された映像を、フィルムレコーディングに適したCineonカーブに変換します。 OFF: ガンマ補正を行いません。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> 本設定は、再生時に有効になります。 「OFF」以外を選択した場合、OSDにガンマ補正值(GM*)が常時表示されます。 本機の電源をOFFにすると、このGAMMA設定も「OFF」に戻ります。 	ALL

AUDIO

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
INPUT SEL	オーディオの入力信号を選択します。 <u>SDI</u> : SDI端子を選択します。 <u>ANALOG</u> : ANALOG AUDIO IN端子を選択します。 <u>AES/EBU</u> : AES/EBU端子を選択します。 <u>INT SG</u> : 内部の信号発生器を選択します。	ALL
INPUT CH1 LEVEL	アナログオーディオ入力CH1のレベルを選択します。 <u>4 dB</u> 0 dB -3 dB -20 dB	ALL
INPUT CH2 LEVEL	アナログオーディオ入力CH2のレベルを選択します。 <u>4 dB</u> 0 dB -3 dB -20 dB	ALL
RATE CONV.	デジタルオーディオ入出力時のレートコンバータを通さずに(デジタルフィルターをかけない)記録・再生を行うことができます。 <u>ON</u> : レートコンバータを通して記録・再生します。 <u>OFF</u> : レートコンバータを通さずに記録・再生します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> 記録と再生の全CHが同時にON/OFF制御されます。各CH毎の設定はできません。 レートコンバータOFF時は、ビデオ入力とデジタルオーディオ入力が同期している必要があります。また、ビデオ入力と「OUTPUT REF」(→112 ページ)で選択されたリファレンス信号も同期している必要があります。(非同期の場合、ノイズが出る場合があります) 	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 23.98Hz
OUTPUT CH1/L LEVEL	アナログオーディオ出力CH1/Lのレベルを選択します。 <u>4 dB</u> 0 dB -3 dB -20 dB	ALL
OUTPUT CH2/R LEVEL	アナログオーディオ出力CH2/Rのレベルを選択します。 <u>4 dB</u> 0 dB -3 dB -20 dB	ALL
OUTPUT EMBD(SD) CH	SD SDI出力に多重するチャンネルを設定します。 <u>OFF</u> : 重畳しません <u>CH1-4</u> : CH1-4の4チャンネルを出力します。 <u>CH5-8</u> : CH5-8の4チャンネルを出力します。 <u>CH1-8</u> : CH1-8の8チャンネルを出力します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> DV、DVCPRO、DVCPRO50を再生した場合は常にCH1-4の4チャンネルが多重されます。 受信する機器によっては8チャンネル受信できない場合があります。CH1-8を設定する場合は受信機器の仕様を確認のうえご使用ください。 	ALL
OUTPUT EMBD(HD) CH	HD SDI出力に多重するチャンネルを設定します。 <u>OFF</u> : 重畳しません <u>CH1-8</u> : CH1-8の8チャンネルを出力します。 NOTE: 再生クリップに含まれていないチャンネルは、無音として出力されます。	ALL
OUTPUT AES/EBU CH	AES/EBUに出力するチャンネルを設定します。 <u>CH1-4</u> : CH1-4の4チャンネルを出力します。 <u>CH5-8</u> : CH5-8の4チャンネルを出力します。 NOTE: 再生クリップに含まれていないチャンネルは、無音として出力されます。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
OUTPUT ANALOG CH	ANALOG AUDIOに出力するチャンネルを設定します。 MONITOR: 「MONITOR CH SEL」で選択された信号を出力します。 CH1-2: CH1-2の2チャンネルを出力します。 CH3-4: CH3-4の2チャンネルを出力します。 CH5-6: CH5-6の2チャンネルを出力します。 CH7-8: CH7-8の2チャンネルを出力します。 NOTE: 再生クリップに含まれていないチャンネルは、無音として出力されます。	ALL
MONITOR CH	モニター出力に出力する音声を選択します。LとRの出力を選択します。また、HDMI出力の音声もこの設定に従います。 CH1 / 2: LにCH1、RにCH2を出力します。 CH3 / 4: LにCH3、RにCH4を出力します。 CH1 + 2 / 3 + 4: LにCH1 + 2、RにCH3 + 4を出力します。 CH1 + 3 / 2 + 4: LにCH1 + 3、RにCH2 + 4を出力します。 CH5 / 6: LにCH5、RにCH6を出力します。 CH7 / 8: LにCH7、RにCH8を出力します。 CH5 + 6 / 7 + 8: LにCH5 + 6、RにCH7 + 8を出力します。 CH5 + 7 / 6 + 8: LにCH5 + 7、RにCH6 + 8を出力します。	ALL
MONITOR OUT VOL.	MON L/R出力端子からのオーディオモニター出力の音量を、モニター音量調整つまみに連動させるか連動させないかを選択します。 UNITY: モニター音量調整つまみの位置に関係なく、固定されたレベルで出力します。 VARIABLE: モニター音量調整つまみに連動させます。	ALL
SPEAKER OUT	スピーカーへの出力ON / OFFを切り替えます。 ON: スピーカーから出力します。 OFF: スピーカーから出力しません。(BEEP音も出力しません。)	ALL
LEVEL METER	オーディオメーターで表示するチャンネルを切り替えます。 CH1-4: CH1-4の4チャンネルを出力します。 CH5-8: CH5-8の4チャンネルを出力します。 CH1-8: CH1-8の8チャンネルを出力します。	ALL
REF LEVEL	基準レベルを選択します。 FS-20: -20 dB FS-18: -18 dB FS-12: -12 dB	ALL

LAN

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
NETWORK SEL	ネットワークの接続方法を選択します。 LAN: 本機のLAN端子で接続します。 OFF: ネットワークは使用できません。	ALL
NETWORK FUNC		
HTTP SERVER	HTTP サーバー機能について設定します。 BROWSE: P2 ブラウズ機能を有効にします。 BROWSE(+CTRL): HTTP サーバー機能と、端末側から録画開始や停止、タイムコードやユーザーズビットのプリセット制御を有効にします。 DISABLE: HTTP サーバー機能を無効にします。	ALL
USER ACCOUNT	ユーザーアカウント名を設定します。	ALL
ACCOUNT LIST	設定されているアカウント名を表示します。また、アカウントの新規登録や削除、パスワードの変更も行うことができます。	ALL
USE BACKGR FTP	FTPサーバーを設定します。 ENABLE: FTPサーバーを起動します。 LAN設定画面のNETWORKもENABLEにする必要があります。 DISABLE: FTPサーバーを起動しません。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
USE BACKGR SAMBA	sambaサーバーを設定します。 ENABLE: sambaサーバーを起動します。 LAN設定画面のNETWORKもENABLEにする必要があります。 DISABLE: sambaサーバーを起動しません。	ALL
WORKGROUP	ワークグループ(最大15文字)を、フルキーボードを用いて設定します。 工場出荷時の設定は、 WORKGROUP です。	ALL
HOSTNAME	ホスト名(最大24文字)を、フルキーボードを用いて設定します。 工場出荷時の設定は、 AJ-PD500 です。	ALL
SERVER TIMEOUT	FTP、SAMBAの通信タイムアウトによるログイン解除、ファイル転送ペンディング時のタイムアウト時間を設定します。 2: 2分 5: 5分 10: 10分 20: 20分 NO TIMEOUT: タイムアウトなし	ALL
CLIENT SERVICE		
FTP SERVER URL	接続先サーバー名またはアドレスを設定します。	ALL
LOGIN USER	接続するユーザーIDを設定します。	ALL
LOGIN PASSWORD	接続するときのパスワードを設定します。	ALL
SSH	SSHを用いてファイルを転送する場合に設定します。 ENABLE: SSHを使用します DISABLE: SSHを使用しません	ALL
SSH PORT	SSHを使用するときのネットワークのポート番号を設定します。サーバー側と同じ番号に設定してください。 メニューの設定値の表示は「*」で表示されます。	ALL
LAN PROPERTY		
MAC ADDRESS	本機のLAN端子のマックアドレスを表示します。	ALL
DHCP	DHCPによる自動ネットワーク設定を行います。 ENABLE: DHCP(自動取得)を利用します。 DISABLE: DHCP(自動取得)を利用せず、設定を入力します。 「DISABLE」を選択した場合は、以下のメニューが表示されますので、設定を行ってください。 IP ADDRESS: IPアドレスを設定します。 SUBNET MASK: サブネットマスクを設定します。 DEFAULT GATEWAY: デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。 PRIMARY DNS: 優先DNSサーバーのアドレスを設定します SECONDARY DNS: 代替DNSサーバーのアドレスを設定します。	ALL
NETWORK TOOLS		
LOG DISPLAY	接続ログを表示します。	ALL
STATUS DISPLAY	ネットワークの状態を表示します。	ALL
INITIALIZE	ネットワークの各種設定を初期化し、工場出荷状態に戻します。	ALL
PING	ネットワークの接続を確認します。	ALL

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
GUI OUTPUT	サムネール画面をMONITOR OUT(SDI MON端子、HDMI端子、VIDEO OUT端子)やSDI OUT(SDI OUT 1~2端子)へ出力するかを設定します。 LCD: 出力しません(液晶モニターのみに表示) LCD&MON: MONITOR OUTへ出力します。 ALL: LCD、MONITOR OUTとSDI OUTすべてへ出力します。	ALL
OSD OUTPUT	スーパーをMONITOR OUT(SDI MON端子、HDMI端子、VIDEO OUT端子)やSDI OUT(SDI OUT 1~2端子)へ出力するかを設定します。 LCD: 出力しません(液晶モニターのみに表示) LCD&MON: MONITOR OUTへ出力します。 ALL: LCD、MONITOR OUTとSDI OUTすべてへ出力します。	ALL
OSD GRADE	録再または再生画面でのスーパー表示を設定します。 ALL: すべてを表示します。 NO LVL METER: オーディオレベルメーターを表示しません。	ALL
OSD TC SELECT	スーパー表示内容を設定します。 ここで、データとは[COUNTER]ボタンで選択されているCTL / TC / UBの値のことを指します。 TIME: データ T&STATUS: データ・動作状態 T&S&M: データ・動作状態・クリップ番号・映像フォーマット・音声ビット数 T&REC TIME: データ・REC TIME T&REC DATE: データ・REC DATE T&UB: データ・ユーザーズビット ただし、[COUNTER]ボタンでUBを選択しているときは、ユーザーズビットの次にタイムコードが表示されます。 T&CTL: データ・CTL ただし、[COUNTER]ボタンでCTLを選択しているときは、CTLデータの次にタイムコードが表示されます。 T&T: データ・タイムコード NOTE: 「T&S&M」に設定したときは、ワーニングやエラーが発生するとエラーメッセージがスーパー表示されます。	ALL
WFM TYPE	ウェーブフォーム、ベクトルモニター表示を選択します。 WAVE: 波形表示 VECTOR: ベクトル表示 OFF: 表示しません。	ALL
WFM POSI	ウェーブフォームモニターの表示位置を選択します。 R/T: 右上の位置です。 L/T: 左上の位置です。 R/B: 右下の位置です。 L/B: 左下の位置です。 NOTE: 液晶モニターへの表示は、左右移動のみになります。	ALL
4:3 MARKER	液晶モニターに4:3 マーカーを表示するかどうかを設定します。 ON: 表示します。 OFF: 表示しません。	ALL
CHARA V POSI	スーパー表示の垂直方向文字位置を設定します。 TOP: 上側に表示します。 BOTTOM: 下側に表示します。	ALL

LCD MONITOR

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
TIME OUT	いずれかの操作を行ったあと一定時間(約5分)が経過すると、自動的に液晶モニターのバックライトを消すことができます。 5min: 約5分後、自動的に液晶モニターのバックライトが消灯します。 OFF: 液晶モニターのバックライトは消灯しません。	ALL
BACKLIGHT	液晶モニターのバックライトの明るさの調整を行います。 -3: 最も暗くなります。 0: 通常の明るさです 1: 通常より明るくなります。	ALL
BRIGHTNESS	液晶モニターの明るさの調整を行います。 -15 ~ 0 ~ 15	ALL
COLOR LEVEL	液晶モニターの色合いの調整を行います。 -15 ~ 0 ~ 15	ALL
CONTRAST	液晶モニターのコントラストの調整を行います。 -30 ~ 0 ~ 30 NOTE: この設定値とR、G、Bのコントラストの設定をかけた値がR、G、Bそれぞれのコントラスト調整値となります。	ALL
R CONTRAST	液晶モニターのR(Red)のコントラストの調整を行います。 -30 ~ 0 ~ 30 NOTE: この設定値と「CONTRAST」の設定値をかけた値が調整値となります。	ALL
G CONTRAST	液晶モニターのG(Green)のコントラストの調整を行います。 -30 ~ 0 ~ 30 NOTE: この設定値と「CONTRAST」の設定値をかけた値が調整値となります。	ALL
B CONTRAST	液晶モニターのB(Blue)のコントラストの調整を行います。 -30 ~ 0 ~ 30 NOTE: この設定値と「CONTRAST」の設定値をかけた値が調整値となります。	ALL

EXT DC IN

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
EXT DC IN SELECT	DC IN端子に外部DC電源やバッテリーを接続する場合に、残量検出の種類を設定します。 TYPE A, TYPE BのNEAR END, ENDを使用するバッテリーに合わせて設定してください。 DC PWR SUPPLY TYPE A TYPE B	ALL
TYPE A NEAR END	メニュー「EXT DC IN SELECT」で選択した「TYPE-A」として使用するバッテリーの電圧が低下したとき、ワーニング情報を表示する電圧を設定します(0.1Vステップ)。 10.7 V ~ <u>12.9 V</u> ~ 15.0 V NOTE: ENDより小さくなるような設定はできません。	ALL
TYPE A END	メニュー「EXT DC IN SELECT」で選択した「TYPE-A」として使用するバッテリーの電圧が低下したとき、本機の電源を自動的にOFFにするときの電圧を設定します(0.1Vステップ)。 10.6 V ~ <u>12.4 V</u> ~ 14.9 V NOTE: NEARより大きくなるような設定はできません。	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
TYPE B NEAR END	<p>メニュー「EXT DC IN SELECT」で選択した「TYPE-B」として使用するバッテリーの電圧が低下したとき、ワーニング情報を表示する電圧を設定します(0.1 Vステップ)。 10.7 V ~ <u>12.9 V</u> ~ 15.0 V</p> <p>NOTE: ENDより小さくなるような設定はできません。</p>	ALL
TYPE B END	<p>メニュー「EXT DC IN SELECT」で選択した「TYPE-B」として使用するバッテリーの電圧が低下したとき、本機の電源を自動的にOFFにするときの電圧を設定します(0.1 Vステップ)。 10.6 V ~ <u>12.4 V</u> ~ 14.9 V</p> <p>NOTE: NEARより大きくなるような設定はできません。</p>	ALL

USER BUTTON

[USER1] ~ [USER6]の各ボタンに、メニューで設定した特定の機能を割り振ることができます。

設定は内部に保存され、電源のOFF/ONを行ってもそのまま利用できます。また割り振られた機能や設定はダイアグ表示で確認することもできます。







―は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
USER1	<p>TEXT MEMO: テキストメモボタンとして機能します。</p> <p>MARKER: ショットマークのON / OFFボタンとして機能します。</p> <p>DELETE: 「DELETE」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>FORMAT: 「FORMAT」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>COPY: 「COPY」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>EXPORT: 「EXPORT」のショートカットとして機能します。</p> <p>EXPLORE: 「EXPLORE」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p><u>CLIP PROPERTY</u>: 「CLIP PROPERTY」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>CARD STATUS: 「CARD STATUS」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>1 CLIP PLAY: 単一クリップ再生ボタンとして機能します。</p> <p>SLOT CLIPS: サムネール画面の表示を「SELECTED CLIPS」→「SLOT1」→「SLOT2」→と切り替えます。</p> <p>SLOT SEL: 記録するP2カードスロットを変更します。</p> <p>REC MEDIA: 「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」の設定を変更します。</p> <p>DATA DISPLAY: 「DATA DISPLAY」の設定を変更します。</p> <p>STOP EE SEL: 「STOP EE SEL」の設定を変更します。</p> <p>OUTPUT REF: 「OUTPUT REF」の設定を変更します。</p> <p>SEEK POS SEL: 「SEEK POS SEL」の設定を変更します。</p> <p>CTL DISPLAY: 「CTL DISPLAY」の設定を変更します。</p> <p>TCG MODE: 「TCG MODE」の設定を変更します。</p> <p>UBG MODE: 「UBG MODE」の設定を変更します。</p> <p>RUN MODE: 「RUN MODE」の設定を変更します。</p> <p>EXT TC SEL: 「EXT TC SEL」の設定を変更します。</p> <p>VIDEO IN SEL: 「INPUT SEL」 (VIDEO)の設定を変更します。</p> <p>INT SG: 「VIDEO」-「INT SG」の設定を変更します。</p> <p>AUDIO IN SEL: 「INPUT SEL」 (AUDIO)の設定を変更します。</p> <p>MONITOR CH: 「MONITOR CH」の設定を変更します。</p> <p>LEVEL METER: 「LEVEL METER」の設定を変更します。</p> <p>GUI OUTPUT: 「GUI OUTPUT」の設定を変更します。</p> <p>OSD OUTPUT: 「OSD OUTPUT」の設定を変更します。</p> <p>OSD GRADE: 「OSD GRADE」の設定を変更します。</p> <p>WFM TYPE: 「WFM TYPE」の設定を変更します。</p> <p>NO ASSIGN: 機能割り当てを行いません。</p> <p>PLAYLIST: 「EXPLORE」-「PLAYLIST」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>CLIP SELECT: クリップセレクト状態に移行します。クリップセレクト状態ではフィルバツファボタンとして動作します。</p> <p>CLIP SELECT OFF: クリップセレクト状態を解除します。</p> <p>TEXT MEMO CLIPS: 「CLIP」-「REPOSITION」-「TEXT MEMO CLIPS」ショートカットボタンとして機能します。</p> <p>NOTE: 同じ項目を他の[USER]ボタンに設定することも可能です。</p>	ALL
USER2	<p>設定内容は「USER1」と同様です。</p> <p>工場出荷時の設定はMONITOR CHです</p>	
USER3	<p>設定内容は「USER1」と同様です。</p> <p>工場出荷時の設定はTEXT MEMOです</p>	
USER4	<p>設定内容は「USER1」と同様です。</p> <p>工場出荷時の設定はREC MEDIAです</p>	
USER5	<p>設定内容は「USER1」と同様です。</p> <p>工場出荷時の設定はLEVEL METERです</p>	ALL
USER6	<p>設定内容は「USER1」と同様です。</p> <p>工場出荷時の設定はMARKERです</p>	

PARALLEL PORT

PARALLEL REMOTE端子に対して、入力端子への機能登録および出力端子へのステータス登録を行います。

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
PORT1	<p>[REC]: [REC]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[REC]+[PLAY]: [REC]  ボタンと[PLAY]  ボタンの同時押しと同じ動作をします。</p> <p>[PLAY]: [PLAY]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[PAUSE]: [PAUSE]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[FF]: [FF]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[STOP]: [STOP]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[REW]: [REW]  ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[SEARCH]: [SEARCH]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[A LVL REC]: [AUDIO LEVEL-REC]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[A LVL PB]: [AUDIO LEVEL-PB]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[REMOTE]: [REMOTE]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[COUNTER]: [COUNTER]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[RESET]: [RESET]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[TC PRESET]: [TC PRESET]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[DISPLAY]: [DISPLAY]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER1]: [USER1]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER2]: [USER2]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER3]: [USER3]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER4]: [USER4]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER5]: [USER5]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[USER6]: [USER6]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[UP]: [上]カーソルボタンと同じ動作をします。</p> <p>[DOWN]: [下]カーソルボタンと同じ動作をします。</p> <p>[LEFT]: [左]カーソルボタンと同じ動作をします。</p> <p>[RIGHT]: [右]カーソルボタンと同じ動作をします。</p> <p>[SET]: [SET]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[THUMBNAIL]: [THUMBNAIL]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[SHIFT]: [SHIFT]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[MENU]: [MENU]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>[EXIT]: [EXIT]ボタンと同じ動作をします。</p> <p>KEY INHIBIT: フロント操作の禁止/許可を切り替えます。</p> <p>TEXT MEMO: テキストメモを付加します。</p> <p>MARKER: ショットマークを付加します。</p> <p>1 CLIP PLAY: 単一クリップ再生ボタンとして機能します。</p> <p>SLOT CLIPS: サムネイル画面の表示を「SELECTED CLIPS」→「SLOT1」→「SLOT2」→と切り替えます。</p> <p>SLOT SEL: 記録するP2カードスロットを変更します。</p> <p>REC MEDIA: 「REC/PB SETUP」-「REC MEDIA」の設定を変更します。</p> <p>TCG MODE: 「TCG MODE」の設定を変更します。</p> <p>UBG MODE: 「UBG MODE」の設定を変更します。</p> <p>RUN MODE: 「RUN MODE」の設定を変更します。</p> <p>EXT TC SEL: 「EXT TC SEL」の設定を変更します。</p> <p>VIDEO IN SEL: 「INPUT SEL」(VIDEO)の設定を変更します。</p> <p>INT SG: 「VIDEO」-「INT SG」の設定を変更します。</p> <p>AUDIO IN SEL: 「INPUT SEL」(AUDIO)の設定を変更します。</p> <p>MONITOR CH SEL: 「MONITOR CH SEL」の設定を変更します。</p> <p>LEVEL METER: 「LEVEL METER」の設定を変更します。</p> <p>WFM TYPE: 「WFM TYPE」の設定を変更します。</p> <p>NO ASSIGN: 機能割り当てを行いません。</p>	ALL

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
PORT2	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[STOP]です。	ALL
PORT3	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[FF]です。	
PORT4	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[REW]です。	
PORT5	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[REC]です。	
PORT6	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[SEARCH]です。	
PORT7	設定内容はPORT1と同様です。工場出荷時の設定は[USER1]です。	
PORT9	<p>REC: RECまたはREC PAUSE状態でアクティブとなります。</p> <p>REC+PLAY: 記録状態でアクティブとなります。</p> <p>PLAY: PLAYまたは、REC状態でアクティブとなります。</p> <p>FF: FF状態でアクティブとなります。</p> <p>REW: REW状態でアクティブとなります。</p> <p>STOP: STOP状態でアクティブとなります。</p> <p>PAUSE: STILLまたは、REC PAUSE状態でアクティブとなります。</p> <p>SHTL: SHTL状態でアクティブとなります。</p> <p>SHTL 0.0: SHTLで速度が0.0状態でアクティブとなります。</p> <p>NO CARD: すべてのP2メモリーカードスロット、microP2メモリーカードスロットにカードが挿入されていない状態でアクティブとなります。(USB DEVICEモードではアクティブです)</p> <p>REMOTE: REMOTEランプと同じです。</p> <p>ERROR0: ERROR1: エラー、ワーニング発生時アクティブになります。BUSY、ワーニングの場合は3秒間アクティブとなります。</p> <p style="margin-left: 20px;">STATUS 0,1= (0,0): エラー無し (1,0): AUTO OFF (1,1): BUSY、ワーニング</p> <p>TC INPUT 0: TC INPUT 1: タイムコードジェネレータの選択状態に合わせてアクティブになります。</p> <p style="margin-left: 20px;">INPUT0,1= (0,0): 外部SLTC (0,1): 外部LTC (1,0): 未定義 (1,1): INT</p> <p>AUD IN UNITY: オーディオ入力が入力全Ch、「UNITY」のときにアクティブになります。</p> <p>PANEL STOP: [STOP] <input type="checkbox"/> ボタンを押した状態でアクティブになります。</p> <p>REC INHIBIT: 記録対象のP2カードがすべてライトプロテクト(書き込み禁止)状態であるときアクティブになります。</p> <p>KEY INHIBIT: フロント操作が禁止されているときにアクティブになります。</p> <p>NO ASSIGN: ステータスを割り当てずアクティブとなりません。</p>	
PORT10	設定内容はPORT9と同様です。工場出荷時の設定はFFです。	
PORT11	設定内容はPORT9と同様です。工場出荷時の設定はREWです。	
PORT12	設定内容はPORT9と同様です。工場出荷時の設定はRECです。	
PORT13	設定内容はPORT9と同様です。工場出荷時の設定はREMOTEです。	
PORT14	設定内容はPORT9と同様です。工場出荷時の設定はSHTL 0.0です。	

FILE

SETUP DATA (SD CARD)

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
LOAD	SDメモリーカードに保存されたセットアップデータのファイルリスト一覧から選択したファイルを本機に読み込みます。	ALL
SAVE	本機の現在のメニュー設定値を、SDメモリーカードに保存された既存のファイルリスト一覧から選択したファイルに上書きします。	ALL
SAVE AS	本機の現在のメニュー設定値を、SDメモリーカードに新規ファイルとして ファイル名、タイトルを入力して、保存します。	ALL

SETUP DATA SELECT

SETUP DATA (SD CARD)でSDメモリーカードに保存/読み出しするメニュー項目を選択します。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
SYSTEM	「SYSTEM MODE」メニューを取り扱います。	ALL
REC/PB	「REC/PB」メニューを取り扱います。	ALL
CLIP	「CLIP」メニューを取り扱います。	ALL
I/F SETUP	「I/F SETUP」メニューを、取り扱います。	ALL

SD CARD PROPERTY

SDメモリーカードの状態を表示します。

フォーマット状態や、空き容量などを確認できます。

SD STANDARD:	SDメモリーカードがSD/SDHC/SDXC準拠でフォーマットしているかどうかを表示します。 SUPPORTED: SD/SDHC/SDXC 準拠 NOT SUPPORTED: SD/SDHC/SDXC 非準拠
USED:	使用済み容量[バイト]
BLANK:	空き容量[バイト]
TOTAL:	全容量[バイト]
PROXY REM:	プロキシー記録の場合の記録残量
NUMBER OF CLIPS:	コピーおよびプロキシー記録によりSDメモリーカードに入っているクリップ数
PROTECT:	書き込み禁止状態

FORMAT SD CARD

SDメモリーカードをフォーマットします。

LOAD USER DATA

本機内のメモリーに保存されたユーザーファイルを読み出します。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
LOAD FACTORY DATA	メニュー設定値がすべて工場出荷状態になります。 選択すると「SYSTEM RESTART」の確認メッセージが表示されます。 「YES」を選択すると自動で再起動します。	ALL
SAVE USER DATA	メニュー設定値をユーザーデータとして本機内のメモリーに保存します。 ユーザーが固有に設定する保存データとして使用できます。 ユーザーデータの読み出しは「FILE」→「LOAD USER DATA」で行います。	ALL

設定したデータの保存と読み込み

指定したメニュー項目をSDメモリーカードへ保存および本機へ読み込むことができます。

SDメモリーカードへの保存には既存ファイルに上書きする「SAVE」と、新規にファイルを作成する「SAVE AS」の2つの操作があります。

◆NOTE:

- 保存するメニュー項目の指定はメニュー「SETUP DATA SELECT」(→108 ページ)で、あらかじめ保存するメニューの種類を選択しておく必要があります。
- SDメモリーカードはSDカードスロットへ挿入して使用します。

■ 既存ファイルに上書きする

- カーソルボタンで、メニュー「SAVE」(→108 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
次のように、SDメモリーカード内の所定のフォルダーに格納されたSETUP DATA の一覧が表示されます。

NO	FILE NAME	TITLE	DATE TIME
EXIT			
1	upload	Panasonic	2013-JUL-01 14:45:36

- [上]/[下]カーソルボタンで上書きしたいファイル名の項目に移動し、[SET]ボタンを押す
タイトル入力画面とキーボードが表示されます。キーボードから設定したい文字(最大8文字)を入力します。(→「キーボードの利用」114 ページ)
- タイトルを入力後[MENU]ボタンを押す。
- 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
ファイルの保存が開始されます。
- 完了メッセージが表示されたら、[SET]ボタンを押す

■ 新規にファイルを作成する

- カーソルボタンでメニュー「SAVE AS」(→108 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
ファイル名、タイトル名入力画面とキーボードが表示されます。キーボードから設定したいファイル名(最大8文字)とタイトル名(最大12文字)を入力します。(→「キーボードの利用」114 ページ)
- ファイル名およびタイトル名を入力後、カーソルボタンで「OK」ボタンを選択する
- 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す。
ファイルの保存が開始されます。
- 完了メッセージが表示されたら、[SET]ボタンを押す

◆NOTE:

本機で保存したセットアップファイルは、他機種では使用できません。同様に他機種で保存したセットアップファイルは、本機では使用できません。

■ セットアップファイルを読み込む

- カーソルボタンでメニュー「SETUP DATA(SD CARD)」-「LOAD」(→108 ページ)にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
SDメモリーカード内の所定のフォルダーに格納されたセットアップファイル の一覧が表示されます
- [上]/[下]カーソルボタンで上書きしたいファイル名の項目に移動し、[SET]ボタンを押す
- 確認メッセージで「YES」にカーソルを合わせ、[SET]ボタンを押す
ファイルの読み込み処理が開始されます。「SYSTEM RESTART」の確認メッセージが表示されます。「YES」を選択すると自動で再起動します。

■ 設定データをユーザーエリアに書き込む

- 1 カーソルボタンでメニュー「SAVE USER DATA」(→109 ページ)にカーソルを移動させ、[SET]ボタンを押す

確認メッセージが表示されます。

- 2 確認メッセージの「YES」にカーソルを移動させ、[SET]ボタンを押す

設定したデータが本機の内部メモリーのユーザーエリアに書き込まれます。

- 3 完了メッセージが表示されたら、「OK」を選択して [SET]ボタンを押す

メニュー「SAVE USER DATA」に戻ります。

■ 書き込まれたユーザーデータを読み出す

- 1 メニュー「LOAD USER DATA」(→108 ページ)にカーソルを移動させ、[SET]ボタンを押す

確認メッセージが表示されます。

- 2 確認メッセージの「YES」にカーソルを移動させ、[SET]ボタンを押す

本機の内部メモリーのユーザーエリアから設定したデータを読み込みます。

- 3 完了メッセージが表示されたら、「OK」を選択して [SET]ボタンを押す

メニュー「LOAD USER DATA」に戻ります。

SYSTEM

SYSTEM MODE

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明
LINE&FREQ	<p>システムのライン数と周波数、記録フォーマット、オーディオの量子化ビット数を設定します。ライン数および周波数を選択すると、その周波数などで選択可能な項目のみ表示されます。周波数を変更すると機器の再起動が必要です。再起動が必要な場合は、ダイアログが表示されます。</p> <p>1080-59.94P:ライン数1080p、システム周波数59.94 Hzを選択します。</p> <p>1080-50P:ライン数1080p、システム周波数50 Hzを選択します。</p> <p>1080-59.94i:ライン数1080i、システム周波数59.94 Hzを選択します。</p> <p>1080-50i:ライン数1080i、システム周波数50 Hzを選択します。</p> <p>1080-29.97PsF: ライン数1080P、システム周波数29.97 Hz(出力信号はPsF)を選択します。</p> <p>1080-25PsF: ライン数1080P、システム周波数25 Hz(出力信号はPsF)を選択します。</p> <p>1080-24PsF: ライン数1080P、システム周波数24 Hz(出力信号はPsF)を選択します。</p> <p>1080-23.98PsF: ライン数1080P、システム周波数23.98 Hz(出力信号はPsF)を選択します。</p> <p>720-59.94P: ライン数720p、システム周波数59.94 Hzを選択します。</p> <p>720-50P:ライン数720p、システム周波数50 Hzを選択します。</p> <p>480-59.94i:ライン数480i、システム周波数59.94 Hzを選択します。</p> <p>576-50i:ライン数576i、システム周波数50 Hzを選択します。</p>
REC FORMAT	<p>記録のコーデックを選択します。</p> <p>AVC-I200/* *: AVC-Intra200を選択します。</p> <p>AVC-I100/* *: AVC-Intra100を選択します。</p> <p>AVC-I50/* *: AVC-Intra50を選択します。</p> <p>AVC-G50/* *: AVC-LongG50を選択します。</p> <p>AVC-G25/* *: AVC-LongG25を選択します。</p> <p>AVC-G12/* *: AVC-LongG12を選択します。</p> <p>DVCPRO HD/* *: DVCPRO HD(100 Mbps)を選択します。</p> <p>DVCPRO50/* *: DVCPRO50(50 Mbps)を選択します。</p> <p>DVCPRO/* *: DVCPRO(25 Mbps)を選択します。</p> <p>DV/* *: DV(25 Mbps)を選択します。</p> <p>NOTE: 設定値の「* *」は記録のフレームレートが表示されます。ただし59.94は60、23.98は24、29.97は30と表示します。</p>
AUDIO SMPL RES	<p>記録フォーマットがAVC-Intra100 / AVC-Intra50の場合の音声記録の量子化ビット数を選択します。</p> <p>16BIT: 音声記録ビット数を16ビットとします。</p> <p>24BIT: 音声記録ビット数を24ビットとします。</p> <p>NOTE: この設定項目にかかわらず、記録フォーマットがAVC-LongG50、AVC-LongG25の場合は24ビット、AVC-LongG12、DVCPRO HD、DVCPRO50、DVCPRO、DVの場合は16ビットとなります。</p>

SYSTEM SETUP

__は工場出荷時の設定です。

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
SYS H(HD)	<p>HD SDI出力のシステム位相を調整します。(13.5ns / 6.75ns<1080/59.94p、1080/50p>ステップ)</p> <p>-2750 ~ 0 ~ 2750</p> <p>-: 位相が進みます。</p> <p>+: 位相が遅れます。</p>	<p>ALL</p>
SYS H(SD)	<p>アナログコンポジット出力およびSD SDI出力のシステム位相を調整します。(37nsステップ)</p> <p>-1728 ~ 0 ~ 1728</p> <p>-: 位相が進みます。</p> <p>+: 位相が遅れます。</p>	<p>59.94Hz 50Hz</p> <p>29.97Hz 25Hz</p> <p>23.98Hz</p>

項目	設定内容および概略機能説明	FREQによる表示項目
AV PHASE	映像出力に対する音声出力の位相を調整します (20.8 μsステップ)。 -128 ~ 0 ~ 127 -: 映像出力に対して、音声出力の位相を進めます。 +: 映像出力に対して、音声出力の位相を遅らせます。	ALL
HD SYS H ADVANCE	SDリファレンス入力時に、HD SDI出力をSDリファレンス入力に対して、90H位相を進ませるかどうかを設定します。 0H: SDリファレンスと同位相で出力します。 90H: HD SDI出力はSDリファレンス出力より90H進んだ位相で出力します。 出力が720Pの場合120H進んだ位相となります。 NOTE: オーディオ出力およびタイムコード出力は、HD SDI出力と同位相で出力します。	59.94Hz 29.97Hz
OUTPUT REF	ビデオ出力のリファレンスを選択します。 AUTO: REF端子に入力された信号をリファレンスとして使用します。REF端子に入力がないときは選択されているビデオ入力信号がリファレンスになります。REF入力信号もVIDEO入力信号もないときは内部基準となります。 REF: REF入力信号がリファレンスになります。その信号がなければ内部基準となります。 INPUT: ビデオ入力信号がリファレンスになります。その信号がなければ内部基準となります。	ALL
VDCP CMD	REMOTE端子が、VDCPコマンド対応するかを選択します。 ON: 対応する OFF: 対応しない NOTE: <ul style="list-style-type: none"> 「ON」のとき、REMOTEにするとサムネール画面に移行できません。 「ON」のとき、REMOTEにすると記録できません。 「ON」のとき、[MODE](SHIFT+REMOTE)ボタンを押しても選択画面は表示されません。 「ON」のとき、メニュー「POWER ON GUI」の設定が無効になり、電源を入れたときサムネール画面は表示されません。 「ON」のとき、外部機器からSEARCH, FF, REWは受け付けません。 設定は59.94 Hzおよび50 Hzのときのみ有効です。 	ALL
VDCP ID	VDCPのIDとして用いるメタデータを選択します。 PROGRAM NAME: PROGRAM NAMEを選択します。 CLIP ID: GLOBAL CLIP IDを選択します。 USER NAME: USER CLIP NAMEを選択します。 SCENE NO: SCENE NOを選択します。 CLIP: CLIP NAMEを選択します。 NOTE: <ul style="list-style-type: none"> サポートするIDは最大64バイトまでの可変長IDです。それ以降は無視されます。 本項目変更を有効にするためには電源OFF / ONでの再起動が必要です。 設定は59.94 Hzおよび50 Hzのときのみ有効です。 	ALL

HOURS METER

項目	設定内容および概略機能説明
OPERATION	本機の電源が入っていた時間の総合計を表示します。
P.ON TIMES	本機の電源を入れた回数の総合計を表示します。
LCD	本機の液晶モニターが点灯していた時間の総合計を表示します。
FAN	本機のファンが回転していた時間の総合計を表示します。

VERSION

本機の各種バージョンを表示します。

項目	設定内容および概略機能説明
VERSION	本機の全ファームウェアのバージョン(代表バージョン)を表示します。
MODEL NAME	本機の製品名を表示します。
SERIAL NO.	本機の製造番号を表示します。
MAC ADDRESS	本機のMACアドレス(Media Access Control address)を表示します。
UID	本機固有のユニークIDを表示します。

入力 / 出力対応フォーマット一覧

メニュー「LINE&FREQ」、「REC FORMAT」などの設定による、入出力対応フォーマットを下記に示します。

圧縮フォーマット 「REC FORMAT」	サンプリング	量子化	ビデオフォーマット「LINE&FREQ」			
			1080-59.94i 1080-50i	720-59.94p 720-50p	1080-59.94p 1080-50p	1080-29.97PsF 1080-25PsF 1080-24PsF 1080-23.98PsF
AVC-Intra200	4:2:2	10 bit	記録再生	記録再生		記録再生
AVC-Intra100	4:2:2	10 bit	記録再生	記録再生	記録再生 <3G-SDI>	記録再生
AVC-Intra50	4:2:0	10 bit	記録再生	記録再生		
AVC-LongG50	4:2:2	10 bit	記録再生	記録再生		記録再生
AVC-LongG25	4:2:2	10 bit	記録再生	記録再生	記録再生 <3G-SDI>	記録再生
AVC-LongG12	4:2:0	8 bit	記録再生	記録再生	記録再生 <3G-SDI>	記録再生
DVCPRO HD	4:2:2	8 bit	記録再生	記録再生		

圧縮フォーマット 「REC FORMAT」	サンプリング	量子化	480-59.94i 576-50i
DVCPRO50	4:2:2	8 bit	記録再生
DVCPRO	4:1:1	8 bit	記録再生
DV	---	8 bit	記録再生

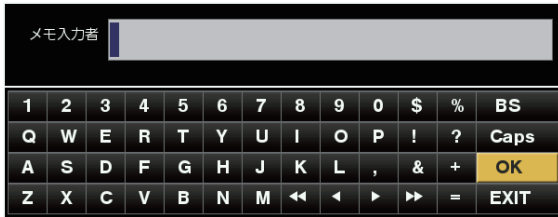
キーボードの利用

フルキーボード

フルキーボードは、メタデータの入力など英数字の入力が必要なときに表示されます。

入力したい文字にカーソルを移動し、[SET]ボタンを押すと文字が入力されます。

カーソルの移動はカーソルボタンで行います。



次のキーボード上のキーは、対応する機能を実行します。

キー	機能
BS	1文字削除
Caps	大文字小文字切り替え
OK	入力保存しソフトウェアキーボードを閉じる
EXIT	入力破棄しソフトウェアキーボードを閉じる
◀◀	カーソル位置を先頭文字に移動
◀	カーソル位置を1文字分戻す
▶	カーソル位置を1文字分進める
▶▶	カーソル位置を最終文字の次の入力位置に移動

◆NOTE:

- [RESET]ボタン押しで入力文字をすべて消去します。
- [EXIT]ボタンを押したときは閉じる前に確認メッセージが表示されますので、閉じる場合は「YES」を選択して[SET]ボタンを押してください。
- Capsの切り替えにより、記号の内容も変化します。

テンキーボード

テンキーボードは、数字のみ入力が必要なときに表示されます。

入力したい数字にカーソルを移動し、[SET]ボタンを押すと数字が入力されます。

カーソルの移動はカーソルボタンで行います。



次のキーボード上のキーは、対応する機能を実行します。

キー	機能
BS	1文字削除
OK	入力保存しソフトウェアキーボードを閉じる
EXIT	入力破棄しソフトウェアキーボードを閉じる
◀	〈10進数入力時〉 カーソル位置を1文字分戻す 〈タイムコード入力時〉 カーソル位置を1項目戻す
▶	〈10進数入力時〉 カーソル位置を1文字分進める 〈タイムコード入力時〉 カーソル位置を1項目進める

USBキーボード

フルキーボードやテンキーボードを表示するメニューを選択しているときに、USBキーボードをKEYBOARD端子に接続すると、USBキーボードからの入力を行うことができます。メニューで事前にキーボードの種類の設定が必要です。(→メニュー「KEYBOARD」96 ページ)

◆NOTE:

- 消費電流が100 mAを越えるキーボードをご使用になると保護回路が動作し、本体の電源がOFFになる場合があります。
- 入力できる文字は英数字と記号のみとなります。
- キーボードによっては正しく動作しない場合があります。

未永くお使いいただくために

お手入れについて

お手入れの際は、ベンジンやシンナーを使わないでください。

- ベンジンやシンナーを使うと、本機が変形したり、塗装がはげたりするおそれがあります。
- お手入れの際は、DC入力はずし、ACコードをコンセントから抜いておきます。
- 柔らかい、清潔な布で本機を拭いてください。汚れがひどいときは、水でうすめた台所用洗剤にひたした布で汚れを拭き、乾いた布で仕上げてください。

結露

結露が起こるのは、暖房を入れた部屋の窓ガラス一面に水滴(露)が付くのと同一原理です。本機やカードを温度・湿度差の大きいところへ移動したときに起こります。

- 湯気が立ちこめる湿度の多いところや、暖房を入れた直後の部屋へ移動したとき
- 冷房を入れているところから急に温度・湿度の高いところへ移動したとき

このようなところへ移動したときは、すぐ電源を入れずに、10分程度放置したままお待ちください。

保管上のお願い

湿気が少なく、比較的湿度が一定な場所にそれぞれ保管してください。

推奨周囲温度: 15℃～25℃

推奨相対湿度: 40%～60%

■ 本機

- ほこりが入らないよう、柔らかい布で包んでください。
- 外装の劣化や液晶画面の損傷のおそれがありますので、直射日光が当たらない場所で保管してください。

■ P2カード・SDメモリーカード

- P2メモリーカードを本機から取り出したときは、必ず専用キャップを取り付けて砂やほこりがコネクター部に付着しないようにしてください。また、保管時や携帯時は、専用ケースに入れてください。
- microP2メモリーカードやSDメモリーカードを本機から取り出したときは、必ずケースに収納してください。
- 腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。
- 車の中や直射日光の当たるところなど温度が高くなる場所には置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところには置かないでください。

ワーニングシステム

ワーニング内容一覧

電源を入れた後や操作中に異常が検出されると、**⏻/|**(電源)ランプ、およびビープ音で異常発生を知らせます。

◆NOTE:

同時に複数のエラーが起こった場合、順位が上のものを表示します。

1. システムエラー

モニター表示	エラーコードを表示します。
⏻/ (電源)ランプ	1秒間に4回点滅します。
ビープ音	早い繰り返し
ワーニング内容	基準信号の異常や通信異常です。
記録・再生の動作	停止します。
対策	「エラーコード表」を確認し、お買い上げの販売店にご相談ください。

2. FORMAT不一致

モニター表示	エラーコードを表示します。
⏻/ (電源)ランプ	1秒間に4回点滅します。
ビープ音	早い繰り返し
ワーニング内容	SYSTEM モードが内部で不一致となり、再起動が必要です。
記録・再生の動作	動作できません。
対策	メッセージに従って一度電源を切ってから、再度電源を入れて、エラー表示がないことを確認してください。

3. カード取り出しエラー

モニター表示	エラーコードを表示します。
⏻/ (電源)ランプ	1秒間に4回点滅します。
ビープ音	早い繰り返し
ワーニング内容	アクセス中のP2カードを取り出したため、本機の内部メモリーに異常が発生しています。
記録・再生の動作	動作できません。
対策	メッセージに従って一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。抜いたカードのクリップに異常がないか確認し、必要に応じて修復を行ってください。

4. 記録異常

モニター表示	「REC WARNING」表示
⏻/ (電源)ランプ	記録を継続中は1秒間に4回点滅します。
ビープ音	早い繰り返し
ワーニング内容	記録、または記録回路の設定の異常です。
記録・再生の動作	記録を継続する場合と停止する場合があります。
対策	記録を再開してください。または一度電源を切ってから、記録を再開してください。

エラーコード

コードNo.	メッセージ表示	内容	動作
E-30	TURN POWER OFF <P2 CARD>	カードの読み書きに異常が発生したときに表示されます。 一度、電源を切ってからご使用ください。	カード取り出し 異常
E-31	TURN POWER OFF <SYSTEM MODE>	システムモードの異常 一度、電源を切ってからご使用ください。	システムエラー
E-35	SYSTEM ERROR <CODEC>	CODECマイコンの異常 一度、電源を切ってからご使用ください。	システムエラー
E-36	SYSTEM ERROR <P2 SYSTEM>	P2CSマイコンの異常(異常通知) 一度、電源を切ってからご使用ください。	システムエラー
E-37	SYSTEM ERROR <P2CS>	P2CSマイコンの異常(通信断) 一度、電源を切ってからご使用ください。	システムエラー
E-39	SYSTEM ERROR <INITIALIZE>	ビデオ初期化異常 一度、電源を切ってからご使用ください。	ビデオ初期化 異常
E-50	INPUT DC TOO LOW	入力DC電圧が、アンダーカット電圧以下になったときに表示されます。	低電圧
E-55	OPT SYS ERROR <SYSTEM> <NOT RESPONSE> <HALT>	AVCHDコーデックボードAJ-YCX500G(オプション)のシステムに異常が発生した場合に表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	システムエラー

未永くお使いいただくために

ワーニング情報の表示

ワーニング発生時に、OSD表示およびインフォメーション表示にメッセージが表示されます。

メッセージ表示	内容	デッキ動作
CANNOT REC	P2カードに記録ができないときに表示します。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> • ライトプロテクトがされている • カードに容量がない • 使えないカードに記録しようとしている • 記録中にカード状態が変わった • BUSY中に記録しようとした 	停止(STOP)
CANNOT LOOP REC	メニュー「RECORDING」(→91 ページ)が「LOOP」のときに、P2カードに記録ができないときに表示します。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> • ライトプロテクトがされている • カードに容量がない • 使えないカードに記録しようとしている • 記録中にカード状態が変わった • BUSY中に記録しようとした 	停止(STOP)

メッセージ表示	内容	デッキ動作
CANNOT PLAY	クリップの異常などで、再生を停止したときに表示します。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> • クリップがないときに、再生しようとしている • 使えないカードで再生しようとしている • その他の原因で再生を受け付けられないまたは再生停止 • BUSY中に再生しようとした 	停止 (STOP)
DC PWR NEAR END	外部DC電源の電圧が低下しています。 外部DC電源を交換するなどしてください。	動作継続
SLOT SEL INVALID	[SLOT SEL]ボタン([USER]ボタンへ割り付け時)を押したときに、P2カードの記録スロット切り替えができないときに表示します。	動作継続
BUSY	クリップ情報を読み込み中や、クリップ構成が変化しているときに表示します。BUSYの表示中は、操作ができません。 【原因】 <ul style="list-style-type: none"> • カード挿抜時 • UPDATING中 • 記録後処理中 • その他 	動作継続
FAN STOPPED	ファンモータが停止したときに表示されます。	動作継続
BACKUP BATT EMPTY	電源ON時に内蔵時計のバックアップ電池の電圧低下を検出したときに表示します。 販売店へ電池交換を依頼してください。	動作継続
REC WARNING <FRAME SIGNAL>	記録中に映像や音声に異常が発生したときに表示します。 一度電源を切ってからご使用ください。 記録中に入力信号が乱れると、乱れた映像を記録しながら、記録は継続されます。本機に入力する信号を確認してください。 信号は正常に戻ると、記録を継続したままでも、映像/音声は正しく記録されます。	継続
TEMPORARY PAUSE IRREGULAR SIG	記録中に映像や音声に異常が発生し、記録を一時停止中に表示します。 信号が正常に戻れば、自動的に記録を再開します。 クリップは分割されます。タイムコードが不連続になる場合があります。 AVC-Gを記録しているときは、記録終了後に一度カードの挿抜を行い、「NG」(黄色)が表示されたクリップの修復を行ってください。	記録一時停止
REC WARNING <PULL DOWN> (REC中に発生時) REC WARNING PULL DOWN ERROR (REC中以外に発生)	映像のブルダウンシーケンスとTC値が同期していません。 信号を確認してください。	継続
REC WARNING <OVER MAX# CLIPS>	1枚のP2カードにクリップ総数の上限を超えて記録しようとした場合に表示します。 P2カードを交換するか、不要なクリップを削除してください。	停止 (STOP)

メッセージ表示	内容	デッキ動作
CARD ERROR <****>	記録中にP2カードが原因でデータ異常が発生したときに表示します。 記録停止後も次の操作を行うまで表示します。 また再生中にP2カードの異常で再生が停止したとき3秒間表示します。 (* *は発生したスロット番号マークです) エラーが発生したスロットのP2カードを交換してください。	停止 (STOP)
REC WARNING <REC DATA>	記録中に記録データに異常が発生したときに表示します。 一度電源を切ってからご使用ください。	動作継続または 停止 (STOP)
DIR NG CARD <****>	ディレクトリー配置が不適切です。速やかにカードのバックアップを取り、フォーマット後ご使用ください。 (* *は発生したスロット番号マークです)	動作継続
RUNDOWN CARD <****>	規定の書き替え回数を超えています。P2カードの交換をお勧めいたします。 (* *は発生したスロット番号マークです)	動作継続
SD CARD <**>	SDHC/SDXC メモリーカードがmicroP2メモリーカードスロットに挿入されています。 (* *は発生したスロット番号マークです) 動作は継続しますが、microP2メモリーカードまたはP2メモリーカードへの記録をお勧めします。	動作継続
REC IMPOSSIBLE <**>	SDHC/SDXC メモリーカードがP2カードスロットに挿入されています。 SDHC/SDXC メモリーカードに記録ができません。 (* *は発生したスロット番号マークです) microP2メモリーカードまたはP2メモリーカードに記録してください。	動作継続
AUTH NG CARD <**>	microP2メモリーカードのCPS 認証に失敗しています。 (* *は発生したスロット番号マークです。) CPS 認証に失敗したmicroP2メモリーカードは記録再生できません。 「CPSの手動認証 / 自動認証」(→45 ページ)を参考にして設定を変更してください。	動作継続
PB INTERMITTENT	SDHC/SDXC メモリーカードで再生途切れが発生しています。再生の性能が保障できないカードが挿入されていますので、microP2メモリーカードまたはP2メモリーカードのご利用をお勧めします。	動作継続
PROXY ERROR	動作と原因:プロキシデータの記録は停止しますが、本素材の記録は継続します。	動作継続
PROXY REC WARNING	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気回路の異常 (PROXY ERROR) ● プロキシデータの記録異常 (PROXY REC WARNING) ● プロキシデータの記録異常が発生した場合、記録中のプロキシデータは以下のように処理されます。 <ul style="list-style-type: none"> - P2カードに記録中のプロキシデータは削除されます - SDメモリーカードに記録中のプロキシデータは、削除も修復もされません。 	
SIMUL REC WARNING <**>	サイマル記録中に一方のカードに異常が発生しました>(* *は異常が発生したスロット番号マークです。) 異常が発生したカードは記録が停止しますが、もう一方のカードには引き続き記録が継続されます。	動作継続

メッセージ表示	内容	デッキ動作
CHECK SLOT < * * >	microP2 メモリーカードをゆっくりと挿入したり、カードの端子が汚れていたりしているなどのため、正常に認識できません。 - 挿入したmicroP2 メモリーカードには記録できません。 - 挿入したmicroP2 メモリーカードを確認してください。 (* * は異常が発生したスロット番号マークです。)	動作継続
LAN ERROR	LANの接続・切断に失敗したときなどに表示します。一度、電源をOFFにしてからご使用ください。 再度このメッセージが表示される場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。	停止 (STOP)
LAN NO LINK	LANの接続に問題があるときに表示します。 LANの接続を確認してください。	動作継続
INT SG	メニュー「I/F SETUP」-「VIDEO」-「INPUT SEL」で「INT SG」が選択されている、あるいはメニュー「I/F SETUP」-「AUDIO」-「INPUT SEL」で「INT SG」が選択されている場合に、[REC]ボタンをしてEEモードになる開始2秒間表示されます。	動作継続
NO INPUT	「INPUT SEL」によって選択されている端子に入力信号がない場合(アナログオーディオを除く)に、[REC] ボタンを押してEEモードになる開始2秒間表示されます。	動作継続
INVALID INPUT FORMAT	「INPUT SEL」によって選択されている端子の入力信号が受信できない場合に表示されます。入力された信号は、ミュートされます。	動作継続
FTP ON	FTPログイン状態でPLAY / JOG STILL / VAR0.0 / SHTL0.0以外の再生動作ができないときに表示されます。	動作継続

サムネールのワーニング情報の表示

項目	メッセージ	内容	対応
サム ネール	CANNOT ACCESS!	コンテンツ不良などによりデータへアクセスできません。	メディア、クリップを正常な状態としてからご使用ください。
	CANNOT CHANGE!	サムネールが生成できず灰色  になっているテキストメモはサムネールが変更できません。	サムネールが表示できるよう設定やコンテンツを修正してください。
	CANNOT DELETE!	コンテンツバージョンが不整合のため削除できません。	機器とコンテンツのバージョンを合わせてください。
	CANNOT FORMAT!	P2カードなどの問題でフォーマットができません。	P2カードを確認してください。
	CANNOT RE-CONNECT!	またぎクリップではないコンテンツを選択しているなどでクリップの再結合ができません。	選択しているコンテンツを確認してください。
	CANNOT REPAIR IN SELECTION!	選択したクリップの一部が修復できませんでした。	選択しているコンテンツを確認してください。
	CANNOT REPAIR!	修復できないコンテンツを選択しています。	選択しているコンテンツを確認してください。

項目	メッセージ	内容	対応
サム ネール	CANNOT SAVE! FILE NAME IN USE	既に同じ名前の設定ファイル名がSDメモリーカードに存在します。	別の名前で保存してください。
	CARD FULL!	P2カード、SDメモリーカードが一杯です。	空き領域のあるメディアを挿入してください。
	INVALID VALUE!	入力しようとしたデータ値が不正規です。	正常な範囲のデータを設定してください。
	LACK OF CAPACITY!	カードの記録容量が不足しています。	記録容量が十分あるカードを挿入してください。
	MISSING CLIP!	複数枚のP2 カードにまたがって記録されたクリップが全てそろっていないクリップにはショットマークを付けることはできません。	またがって記録された全てのP2 カードを挿入してください。
	NO CARD!	P2カード、SDメモリーカードが入っていません。	対応メディアを挿入してください。
	NO FILE!	所定のファイルが存在していません	ファイルを確認してください。
	NO COPY TO SAME CARD!	コピー元とコピー先が同じカードのためコピーできません。	選択しているクリップが入っていないカードへコピーをしてください。
	NO INPUT!	データが入力されていません。	データを入力してから設定をしてください。
	NO SD CARD!	SDメモリーカードがありません。	SDメモリーカードを挿入してください。
	NOT SELECTED!	クリップを選択せずに削除などを行おうとしました。	削除などを行うクリップを選択してください。
	SAME CLIP IS SELECTED!	選択クリップ中に同一クリップ(コピーで複製したものが)複数個含まれています。	同一クリップ(コピーで複製したものは同時に複数個コピーはできません。同一クリップを選択から外してください。
	TOO MANY CLIPS!	選択しているクリップが多すぎます。	選択しているクリップ数を減らしてください。
	UNKNOWN CONTENTS FORMAT!	本機で対応していないバージョンのコンテンツのワーニングです。	機器とコンテンツのバージョンを合わせてください。
		プロキシー記録クリップのみをFTPサーバーからP2カードに書き戻すことはできません。	プロキシー記録クリップは、SDメモリーカードに書き戻し(インポート)をしてください。
	UNKNOWN DATA!	<ul style="list-style-type: none"> メタデータの文字コードが不正規です。 ファイル内のデータに問題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> メタデータの文字コードはUTF-8となっています。ビューアーなどで正しい文字を入力してください。 再度ファイルを作成しなおしてください。
USER CLIP NAME MODIFIED!	クリップ名にカウンター値を付加するときに文字を削除する必要があります。	カウンター付加の設定でユーザークリップ名とカウンターは合わせて100バイトまでしか保存できませんので、文字を自動的に削除します。	
WRITE PROTECTED!	P2カード、SDメモリーカードがライトプロテクトされています。	書き込み可能なメディアを挿入してください。	

項目	メッセージ	内容	対応
ストレージ	CANNOT ACCESS CARD!	P2カードのアクセス中にエラーが発生しました。	P2カードを確認してください。
	CANNOT ACCESS TARGET!	接続先のターゲットのアクセス中にエラーが発生しました。	ストレージデバイスの状態や接続を確認してください。
	CANNOT COPY! FORMAT STORAGE DEVICE TO FAT	クリップコピー可能なパーティションがストレージデバイスに存在しないためクリップコピーできません。	FAT形式でフォーマットしなおすか、P2カードをエクスポートしてパーティションを作成してください。
	CANNOT FORMAT!	ストレージデバイスのフォーマットができません。	接続しているストレージデバイスを変更してください。
	CANNOT RECOGNIZE STORAGE DEVICE!	ストレージデバイスが正しく認識できません。	ストレージデバイスの電源を入れなおすか、接続するストレージデバイスを変更してください。
	CANNOT SELECT! MAX.6 PARTITIONS	6パーティションより多いストレージデバイスの選択(同時マウント)はできません。	選択済みパーティションを解除してください。
	CARD IS EMPTY! CANNOT COPY!	コピーするP2カードが空です。	空のカードはコピーする必要がないためコピーを行いません。
	FORMAT P2 CARD!	クリップの存在するP2カードへはインポートできません。	P2カードをフォーマットしてください。
	LACK OF CAPACITY!	ストレージデバイスの空き容量が足りません。	空き容量の十分ある新しいストレージデバイスまたはフォーマットしたストレージデバイスを使用してください。
	MISMATCH COMPONENT!	コピー元とコピー先のP2カードの品番が不一致です。コピーできません。	同一品番のP2カードを使用するか、クリップ単位でインポートしてください。
	TOO MANY PARTITIONS!	パーティションが多すぎます。	ストレージデバイスの最大パーティション数は23です。新しいストレージデバイスまたはフォーマットしなおして使用してください。
	UNKNOWN DEVICE CONNECTED!	未対応のDVDドライブなどが接続されています。	接続機器を正しいストレージデバイスに変更後、一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。
VERIFICATION FAILED!	コピー後のベリファイ確認が不一致でした。	再度コピーを行ってください。	
ソフトウェアキーボード	CANNOT CHANGE!	テキストメモがない状態で入力者を変更しようとした。	テキストメモを先に入力してください。
	CANNOT SET! INVALID VALUE!	入力された値が異常です。	入力値を変更してください。
	AUTHENTICATION ERROR!		

項目	メッセージ	内容	対応
ネットワーク	CANNOT CONNECT!	ネットワークに接続できません。	LAN設定が正しいか見直して、LANケーブルが正しく接続されているか、お使いのネットワーク環境が機能しているか確認してください。
	CANNOT FIND FTP-SERVER!	接続先のFTPサーバーが見つかりません	FTP CLIENTのURL項目が正しいか確認してください。
	LOGIN FAILED!	接続先のFTPサーバーへのログインに失敗しています。	FTP CLIENTのUSER IDおよびUSER PASSWORD項目が正しいか確認してください。
	PING FAILED!	PINGに失敗しました。	LAN設定およびFTP CLIENTのURL項目が正しいか見直して、LANケーブルが正しく接続されているか、お使いのネットワーク環境が機能しているか確認してください。
	CANNOT ACCESS GATEWAY!	ゲートウェイサーバーにアクセスできません	LAN設定が正しいか見直してください。
	CHECK LAN SETTING	ゲートウェイサーバーにアクセスできません	LAN設定が正しいか見直してください。
	IP ADDRESS IS USED!	設定したIP ADDRESSは他の機器で利用されています。	ネットワーク管理者に相談のうえ、他のIP ADDRESSを設定してください
	INVALID VALUE!	入力しようとしたデータ値が不正規です	正常な範囲のデータを設定してください。

本機搭載ファームウェアのアップデート

メニュー「SYSTEM」 - 「VERSION」で本機のバージョンを確認のうえ、下記のWebサイトのファームウェアに関する最新情報にアクセスし、必要に応じてファームウェアをダウンロードしてください。

アップデートはダウンロードしたファイルを、SDメモリーカードを介して本機にダウンロードすることにより完了します。

詳細情報は、当社Webサイト(→「[WebサイトURLについて](#)」2 ページ)をご覧ください。

◆NOTE:

本機で使用するSDメモリーカードは、SD規格、SDHC規格、SDXC規格に準拠したものをお使いください。

また、SDメモリーカードのフォーマットは、必ず本機で行ってください。

保証とアフターサービス(よくお読みください)

故障・修理・お取扱い・メンテナンス などのご相談は、まず、 お買い上げの販売店 へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、当社(裏表紙)までご連絡ください。

*内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がございますのでご了承ください。

保証書(別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。
万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間:お買い上げ日から本体1年間

補修用性能部品の保有期間 **8年**

当社では、Memory Card Portable Recorderの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8年間保有しています。

*補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

保守・点検

保守・点検は機器の機能を常に良好な状態に維持し、お客様が安心してご使用していただくためのものです。

部品の劣化、ごみ、ホコリの付着などによる突発的な故障、トラブルを未然に防ぐとともに、安定した機能、性能の維持のために、定期的な保守・点検を推奨いたします。

保守・点検(有料)についての詳しい内容は、お買い上げの販売店にご相談ください。

メンテナンス時間の目安と実施項目

下記のメンテナンス実施時間は、標準的な目安として設定しており、部品の寿命時間ではありません。また、使用する環境や使用方法により劣化する時間は異なりますのでお気をつけください。

部品名	数量	定期保守点検と時間
液晶モニター	1	LCD ON 8,000時間ごとに交換
ファン	1	12,000時間ごとに交換

修理を依頼されるとき

この取扱説明書を再度ご確認ください。お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	メモリーカードレコーダー
品番	AJ-PD500
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

末永くお使いいただくために

定格

総合

電源: AC(～) 100 V-240 V、50 Hz/60 Hz、45W
DC(＝) 12 V、3.6 A(オプション含む)

は安全項目です。

動作周囲温度:	0℃～40℃
動作周囲湿度:	10%～80%(結露なし)
保存周囲温度:	-20℃～50℃
質量:	3.65 kg
外形寸法(幅×高さ×奥行):	210 mm×125.5 mm×253 mm (ハンドル、セット足、ツマミ、端子を除く)
記録メディア:	P2メモリーカード、microP2メモリーカード
記録フォーマット:	AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-Intra50 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25 / AVC-LongG12 DVCPRO HD / DVCPRO50 / DVCPRO / DV フォーマット切り替え
プロキシーファイルフォーマット:	MP4(ISO/IEC14496規格)、MOV(QuickTime形式)
プロキシービデオ圧縮フォーマット:	MPEG4 Simple Profile、H.264/AVC Baseline Profile、H.264/AVC High Profile
プロキシーオーディオ:	AAC-LC、リニアPCM
記録ビデオ信号:	1080/59.94p、1080/50p、1080/59.94i、1080/50i、1080/29.97PsF、1080/25PsF、 1080/24PsF、1080/23.98PsF、720/59.94p、720/50p、480/59.94i、576/50i
記録オーディオ信号:	AVC-Intra200 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25: 48 kHz 24 bit 8CH AVC-LongG12: 48kHz 16bit 4CH AVC-Intra100 / AVC-Intra50: 48 kHz 16 bit 8CH 48 kHz 24 bit 8CH DVCPRO HD: 48 kHz 16 bit 8CH DVCPRO50: 48 kHz 16 bit 4CH DVCPRO / DV: 48 kHz 16 bit 4CH

記録時間:

カード	記録方法(圧縮方式) 59.94 Hz / 50 Hz					
	AVC-Intra200	AVC-Intra100/ DVCPRO HD	AVC-Intra50/ AVC-LongG50/ DVCPRO50	DVCPRO	AVC-LongG25	AVC-LongG12
16 GB×1	約8分	約16分	約32分	約64分	約54分	約108分
32 GB×1	約16分	約32分	約64分	約128分	約110分	約220分
64 GB×1	約32分	約64分	約128分	約256分	約220分	約440分

◆NOTE:

- 1080/59.94p、1080/50pでは、上記時間の半分になります。
- 上記の時間は、いずれもP2カードに1クリップを連続記録したときのものです。
- 記録するクリップ数によっては、記録できる時間は上記より短くなることがあります。

ビデオ

デジタルビデオ

サンプリング周波数:	AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25 / DVCPRO HD: (59.94 Hz) Y : 74.1758 MHz、P _B /P _R : 37.0879 MHz (50 Hz) Y : 74.2500 MHz、P _B /P _R : 37.1250 MHz
	AVC-Intra100 / AVC-LongG25: (1080/59.94p) Y : 148.3516 MHz、P _B /P _R : 74.1758 MHz (1080/50p) Y : 148.5000 MHz、P _B /P _R : 74.2500 MHz
	DVCPRO50: Y:13.5 MHz、P _B /P _R : 6.75 MHz
	DVCPRO: Y : 13.5 MHz、P _B /P _R : 3.375 MHz
量子化:	AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-Intra50 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25: 10 bit AVC-LongG12 / DVCPRO HD / DVCPRO50 / DVCPRO / DV: 8 bit
ビデオ圧縮方式:	AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-Intra50: MPEG-4 AVC / H.264 Intra Profile AVC-LongG50 / AVC-LongG25 / AVC-LongG12: MPEG-4 AVC / H.264 High Profile DVCPRO HD: DV-Based Compression (SMPTE ST 370)
カラーサンプリング:	AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25: Y : P _B : P _R = 4 : 2 : 2
解像度:	AVC-Intra100 / AVC-LongG25 / AVC-LongG12: 1920×1080 (1080/59.94p、1080/50p) AVC-Intra200 / AVC-Intra100 / AVC-LongG50 / AVC-LongG25 / AVC-LongG12: 1920×1080 (1080/59.94i、1080/50i) 1280×720 (720/59.94p、720/50p) AVC-Intra50: 1440×1080 (1080/59.94i、1080/50i) 960×720 (720/59.94p、720/50p)

ビデオ入力信号

リファレンス入力:	BNC×1、ブラックバースト / HD3値SYNC自動切り替え
SDI入力:	BNC×1

ビデオ出力信号

SDアナログコンポジットモニター出力:	BNC×1
リファレンススルー出力:	BNC×1
SDI出力(HD/SD切り替え式):	BNC×2
SDIモニター出力(HD/SD切り替え式):	BNC×1
HDMI端子:	HDMI×1 (HDMI TYPE A端子)、(ピエラリンク非対応)

◆NOTE:

HDMI出力は480/59.94i、576/50iに対応していません。480/59.94p、576/50pに変換して出力します。

オーディオ

デジタルオーディオ

サンプリング周波数:	48 kHz (ビデオに同期)
量子化:	16 bit (AVC-LongG12 / DVCPRO HD / DVCPRO50 / DVCPRO / DV) 16 bit / 24 bit切り替え可能 (AVC-Intra100 / AVC-Intra50) 24 bit (AVC-LongG50 / AVC-LongG25)
ヘッドルーム:	12 / 18 / 20 dB (切り替え可能)
ディエンファシス:	T1=50 μ s、T2=15 μ s (ON / OFF自動切り替え)

オーディオ入力信号

アナログ入力(CH1、CH2):	XLR×2
デジタル入力:	BNC×2 (CH1/2、CH3/4)、AES/EBUフォーマット
SDI入力:	BNC×1

オーディオ出力信号

SDI出力:	BNC×3
アナログ出力 (CH1、CH2、モニター出力 (L/R) <切り替え式>):	XLR×2
デジタル出力:	BNC×2 (CH1/2、CH3/4) AES/EBUフォーマット
ヘッドホン出力:	ステレオミニジャック (3.5 mm径)、8 Ω 、レベル可変
HDMI出力:	2 CH (リニアPCM)
内蔵スピーカー:	丸型×1 (モノラル)

その他入出力

タイムコード入力:	BNC×1、0.5 V[p-p]~8.0 V[p-p]、10 k Ω
タイムコード出力:	BNC×1、ローインピーダンス、2.0 V \pm 0.5 V[p-p]
REMOTE	D-SUB 9pin×1、RS-422Aインターフェイス
PARALLEL REMOTE:	D-SUB 15pin×1
LAN:	RJ-45×1、1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T
USBホスト:	USB3.0 HOST (TYPE A)×1
USBデバイス:	USB2.0 DEVICE (TYPE B)×1
キーボード用:	USB2.0 (TYPE A)×1 (定格100 mAまで使用可)

◆NOTE:

この端子はキーボード接続用に設計されています。
消費電流が100 mAを超えるキーボードをご使用になると、保護回路が動作し、本体の電源がOFFになる場合があります。

さくいん

■ 数字			
1 クリップ再生	28, 35		
3G-SDI OUT	98		
4:3 MARKER	102		
■ A			
AC IN 端子	15		
ACCOUNT LIST	100		
AES / EBU IN / OUT 端子	15		
AFTER CUEUP	96		
ANALOG AUDIO IN 端子	14		
ANALOG AUDIO OUT / MON 出力端子	14		
AUDIO	99		
AUDIO LABEL-PB ボタン	11		
AUDIO LEVEL-REC ボタン	11		
AUDIO SMPL RES	111		
AUTHENTICATE	89		
AUTO POWER OFF	97		
AUTO REC	25, 91		
AV PHASE	112		
AVCHD 再生モード	70		
切り替え	71		
■ B			
B CONTRAST	103		
BACKLIGHT	103		
BASIC	96		
BEEP	96		
BRIGHTNESS	103		
■ C			
CANCEL ボタン	12		
CARD SERIAL	95		
CARD STATUS	87		
CC REC	92		
CC(F1) BLANK	92		
CC(F2) BLANK	92		
CHANGE PARTITION NAME	89		
CHARA V POSI	102		
CLIENT SERVICE	101		
CLIP	87, 108		
CLIP PROPERTY	87		
CLIPSEL MODE	96		
CLOCK	18, 96		
CODEC USAGE	93		
COLOR LEVEL	103		
CONT. REC	91		
Content Protection System	20		
CONTRAST	103		
COPY	88		
COUNTER ボタン	11		
CPS	20		
自動認証	45		
手動認証	45		
CPS PASSWORD	87		
CTL	82		
CTL COUNT	93		
CTL DISPLAY	93		
■ D			
DATA DISPLAY	89		
DC IN 端子	15		
DELETE	88		
DELETE FOLDER	89		
DELETE LAST PARTITION	89		
DF MODE	94		
DHCP	101		
DIAG ボタン	12		
DISPLAY	102		
DISPLAY ボタン	12		
DOWNCON MODE	98		
DUAL CODEC SETUP	93		
■ E			
EDH(SD)	97		
EJECT ボタン	13		
EXCH. THUMBNAIL	88		
EXIT ボタン	12		
EXPLORE	88		
EXPORT	88		
EXT DC IN	103		
EXT DC IN SELECT	103		
EXT TC SEL	94		
EXTEND CMD	96		
■ F			
FAN	16, 112		
FF.REW MAX	92		
FF ボタン	12		
FILE	108		
FILE SPLIT	92		
FORMAT	88		
FORMAT SD CARD	108		
FORMAT(STORAGE)	88		
FREE CAP. OF PARTITION	87		
FTP SERVER URL	101		
FTP エクスプローラー画面	61		
FTP クライアント機能	61		
FTP サーバー			
インポート	66		
エクスポート	65		
書き戻し	64		
転送	63		
FTP サムネール画面	62		
■ G			
G CONTRAST	103		
GAMMA SELECT	98		
GUI OUTPUT	102		
■ H			
HD / SD - SDI IN / OUT / MON 端子	14		
HD EMBD LTC	95		
HD EMBD VITC	95		
HD SYS H ADVANCE	112		
HDMI OUT 端子	15		
HOSTNAME	101		
HOURS METER	112		
HTTP SERVER	100		
■ I			
I/F SETUP	96, 108		
ID OF 9P REMOTE	96		
IMPORT	88		
INDICATOR	89		
INITIALIZE	57, 95, 101, 109		
INPUT CH1 LEVEL	99		
INPUT CH2 LEVEL	99		
INPUT SEL	97, 99		
INT SG	97		

K			
KEYBOARD	96		
KEYBOARD 端子	15		
L			
LAN	32, 55, 100		
LAN PROPERTY	101		
LANGUAGE	95		
LAN 端子	15		
LCD	112		
LCD MONITOR	103		
LEVEL METER	100		
LEVEL (モニター音量調整つまみ)	13		
LINE&FREQ	111		
LOAD	95, 108		
LOAD FACTORY DATA	109		
LOAD USER DATA	108		
LOCAL ENABLE	96		
LOG DISPLAY	101		
LOGIN PASSWORD	101		
LOGIN USER	101		
LOOP REC	25		
M			
MAC ADDRESS	101		
MENU ボタン	12		
microP2 メモリーカードアクセスランプ	13		
microP2 メモリーカードスロット	13		
MODE ボタン	11		
MONITOR CH	100		
MONITOR OUT VOL.	100		
N			
NETWORK FUNC	100		
NETWORK SEL	100		
NETWORK TOOLS	101		
NEXT ボタン	12		
O			
OPERATION	112		
OSD GRADE	102		
OSD OUTPUT	102		
OSD TC SELECT	102		
OSD 表示	79		
OUTPUT AES/EBU CH	99		
OUTPUT ANALOG CH	100		
OUTPUT CH1/L LEVEL	99		
OUTPUT CH2/R LEVEL	99		
OUTPUT EMBD(HD) CH	99		
OUTPUT EMBD(SD) CH	99		
OUTPUT FORMAT	97		
OUTPUT REF	112		
P			
P.ON TIMES	112		
P2 ブラウズ機能	58		
P2 プレイリスト編集モード	68		
P2 カード	19		
アクセスランプ	19		
記録時間	19		
記録データの取り扱い	21		
状態確認	44		
フォーマット	43		
P2 メモリーカードアクセスランプ	13		
P2 メモリーカードスロット	13		
PARALLEL PORT	106		
PARALLEL REMOTE 端子	16		
PAUSE ボタン	12		
PB POSITION	89		
PHONES (ヘッドホンジャック)	13		
PING	57, 101		
PLAY DELAY	92		
PLAY ボタン	12		
PORT	106, 107		
POWER ON GUI	96		
PREV ボタン	12		
PROPERTY	87, 95		
PROPERTY DISP.	90		
PROXY REC MODE	93		
R			
R CONTRAST	103		
RATE CONV.	99		
REC FORMAT	111		
REC MEDIA	92		
REC META DATA	95		
REC/PB	91, 108		
REC/PB FUNCTION	91		
REC/PB SETUP	92		
RE-CONNECT	88		
RECORD	95		
RECORDING	91		
REC ボタン	12		
REF ALARM	96		
REF IN 端子	14		
REF LEVEL	100		
REMAIN SETUP	87		
REMOTE 端子	15		
REMOTE ボタン	11		
REPAIR	88		
REPEAT PLAY	91		
REPOSITION	87		
RESET ボタン	11		
REW ボタン	12		
RUN MODE	94		
S			
SAVE	108		
SAVE AS	108		
SAVE USER DATA	109		
SD CARD	87		
SD CARD PROPERTY	108		
SDHC メモリーカード	22		
SDXC メモリーカード	22		
SD メモリーカード	22, 70, 78		
取り出し	70		
フォーマット	43		
保護	70		
SD メモリーカードアクセスランプ	13, 70		
SD メモリーカードスロット	13, 70		
SEARCH ボタン	12		
SEEK POS SEL	92		
SERVER TIMEOUT	101		
SETUP DATA SELECT	108		
SETUP DATA (SD CARD)	108		
SET ボタン	12		
SG MOVE	97		
SHIFT ボタン	11		
SHUTTLE MAX	92		
SIMUL REC	25, 91		
SORT	89		
SPEAKER OUT	100		
SSH	101		
SSH PORT	101		

STATUS DISPLAY	101
STOP EE SEL	92
STOP ボタン	12
STORAGE COPY SETUP	90
SYS H(HD)	111
SYS H(SD)	111
SYSTEM	108, 111
SYSTEM MODE	111
SYSTEM SETUP	111
T	
TC OUTPUT REF	95
TC PRESET ボタン	11
TC SUPER	93
TC/UB/CTL	93
TCG MODE	93
TEXT MEMO IND.	90
THUMBNAIL SETUP	89
THUMBNAIL SIZE	89
THUMBNAIL ボタン	11
TIME CODE IN / OUT 端子	14
TIME OUT	103
TOP/BOTTOM ボタン	12
TYPE A END	103
TYPE A NEAR END	103
TYPE B END	104
TYPE B NEAR END	104
U	
UBG MODE	94
UPCON MODE	98
USB HOST 端子	13, 46
USB2.0 デバイス端子	15
USB キーボード	114
USB デバイスモード	67
USE BACKGR FTP	100
USE BACKGR SAMBA	101
USER	105
USER 1-3・4-6 ボタン	11
USER ACCOUNT	100
USER BUTTON	105
USER CLIP NAME	42, 95
V	
VDCP CMD	112
VDCP ID	112
VERIFY	90
VERSION	112
VIDEO	97
VIDEO OUT 端子	14
VITC BLANK	94
VITC GEN	94
VITC POS-1	94
VITC POS-2	94
W	
WFM	81
WFM POSI	102
WFM TYPE	102
WIDE SEL	97
WORKGROUP	101
あ	
アクセスランプ	
microP2 メモリーカード	13, 19
P2 メモリーカード	13, 19
SD メモリーカード	13, 70
アップデート	124

い	
インポート	
FTP サーバー	66
ストレージデバイス	54
う	
ウェブフォームモニター表示	81
え	
エクスプロア	
FTP サーバー	61
ストレージデバイス	50
エクスポート	
FTP サーバー	65
ストレージデバイス	49
エディットコピーインジケータ	32
エラーコード	117
お	
お手入れ	115
オプション	10
か	
カーソル操作ボタン	12
カードスロット	32
microP2 メモリーカード	13
P2 メモリーカード	13
SD メモリーカード	13, 70
外部 DC 電源	15
外部モード	83
カウンター値	42
可変速再生	27
き	
キーボード	114
記録	
クリップ	24
記録音声レベル調整	24
記録時間	19
記録スロットの変更	24
く	
クリップ	
送り/戻し	28
記録	24
コピー	37
再生	27, 34
削除	38, 53, 63
修復	39
選択	36
連結	39
クリップセレクト	
解除	29
再生	28
クリップの分割	20
クリップメタデータ	74
表示	39
付加	41
変更	40
け	
結露	115
こ	
コピー	
クリップ	37
ストレージデバイス	50
コマ送り再生	28
さ	
サーバー機能	60
再生	
クリップ	27, 34, 75
テキストメモ	35

再生音声レベル調整	27
再生不可インジケータ	33
サムネール	30
AVCHD	71
FTP サーバー	62
各部の名称とはたらき	31
ストレージデバイス	52
表示	30
表示の変更	33
変更	41
し	
時刻	18
初期化	
ネットワーク設定	57
ショットマーク	37
ショットマークインジケータ	31
す	
ストレージデバイス	32, 46, 47
情報表示	50
インポート	54
エクスポート	49
コピー	50
接続	48
フォーマット	48
スピーカー	13
せ	
接続ログ表示	57
た	
ダイアグ表示	80
タイムコード	82
単クリップ再生	28, 35
て	
定格	126
テキストメモ	37
送り/戻し	28
削除	37
テキストメモインジケータ	32
デュアルコーデック（プロキシ）記録	26
電源ボタン	13
電源ランプ	13
と	
時計	18
に	
入力/出力対応フォーマット一覧	113
ね	
ネットワーク設定	55
年月日	18
ふ	
ファームウェア	124
ファン	16
フォーマット	
P2 カード	43
SD メモリーカード	43
ストレージデバイス	48
不完全クリップインジケータ	32
付属品	10
不明クリップインジケータ	32
不良クリップインジケータ	32
プレイリスト再生	36
プロキシインジケータ	32
へ	
ヘッドホンジャック（PHONES）	13
ほ	
保管	115
ホットスワップ記録	25
ま	
マルチコントロールダイヤル	12
め	
メインモード	24
メタデータアップロードファイル	41, 42
メニュー	
構成	85
操作	84
保存・読み込み	109
も	
モニター音量調整つまみ（LEVEL）	13
ゆ	
ユーザズビット	82
り	
リピート再生	28
ろ	
録再画面	24
わ	
ワーニング	116
ワイドインジケータ	32

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎ (06) 6901-1161

© Panasonic Corporation 2013